鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
16

平成12年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2002年３月

序

鹿児島大学キャンパスには，後期旧石器時代から近代までの多くの遺跡が包蔵されていることが，鹿児島大学埋蔵文化財調査室の発掘調査によって，次第に明らかにされてきています。これらの成果は，埋蔵文化財調査室年報として逐次報告されてきました。

さて，ここに平成12年度の調査結果の報告として，鹿児島大学調査室年報Vol.16を刊行いたします。平成12年度には郡元キャンパスにおいて発掘調査2件，立会い調査1件，桜ヶ丘キャンパスにおいては，立会い調査2件が行われました。本年報には，それらの調査研究の成果が掲載されています。特に郡元キャンパスにおいて行われた総合研究棟建築および共同溝埋設に伴う調査では，約100軒の住居跡が検出され，遺物量もコンテナ（42cm × 59cm × 14cm）に隙間なく詰め込んで約400箱という出土量を見ました。これは古墳時代後期の大きな集落遺跡であることは明らかで，その当時の生活に関する情報を豊富に得ることができました。今後の研究によって，その詳細が明らかになることを期待しています。

また，付編として，平成6年度に行われた桜ヶ丘団地Ｉ-8区（難治性ウイルス疾患研究センター棟増築地）の発掘調査も掲載しております。ここでは，鹿児島でも数少ない弥生時代前期の住居跡が検出されました。本遺跡は，一般に平野部における農耕社会へ移行していったと考えられているこの時代の，鹿児島のシラス台地上における人々の生活の一端を窺い知ることが出来る貴重な遺跡です。

現在，キャンパス内では，研究，教育の発展に伴って多くの建物の建築や周辺整備などが行われ，それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。しかし，総合大学としての鹿児島大学をもってしても，年々増加する発掘調査や埋蔵物に対する調査および研究体制，保管体制が十分でないのが現状です。特に，従来から言われているように，遺跡から出土する膨大な量の遺物の保管場所の確保は困難を極めています。また，迅速な調査および研究を遂行するためのスタッフの数も十分とは言えないのが現状です。これらの貴重な大学の財産ひいては国民の財産としての埋蔵文化財の調査および研究を行うための体制，発掘資料の保管や展示の行える施設の実現について，重ねて各学部のご理解，ご協力をお願いする次第です。

最後に，埋蔵文化財調査室のスタッフ一同による精力的な調査および研究により，このように立派な年報を出版する運びとなりましたことを記し，その労を多としたいと思います。

平成14年2月

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会
委員長　辻尾　昇三

例　言

1.　本年報は，鹿児島大学構内において，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成12年度に行なった調査活動の成果をまとめたものである。

　なお，平成6年度に行った桜ヶ丘団地I-8区（難治性ウイルス疾患研究センター増築地）における発掘調査報告を付編として掲載した。

2.　本書に掲載している発掘調査及び立会調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査時における図面･写真の担当は以下の通りである。

　2:　中村直子・新里貴之

　付編:　中村・古澤生・大西智和・峰山いずみ

3.　本書の作成にあたっては，埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

実測(2：中村直子，付編：寒川朋枝・王力明)

製図(1：中村，2：中村，付編：中村・寒川・王)

作表(1：新里貴之，付編：新里・王)

執筆(1：新里，2：中村，受贈図書：寒川，付編：新里)

概要訳文(英文：新里，中文：王)

編集(新里)

4.　桜ヶ丘団地I-8区の出土遺物について，陶磁器は，渡辺芳郎氏（鹿児島大学），焼石の材については大塚裕之氏，大木公彦氏(鹿児島大学総合研究博物館)，成尾英仁氏(鹿児島県立博物館)，石器については，横手浩二郎氏(鹿児島県立埋蔵文化財センター)，土器底部の木葉痕の樹種同定には堀田満氏(鹿児島大学名誉教授)，概要訳文の英文に関して新田栄治氏（埋蔵文化財調査室室長）のご教授を賜った。

5.　発掘調査による遺物の保管は，埋蔵文化財調査室の管理のもと，各学部，部局が収蔵している。また，図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　例

1　昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として，鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように，鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は，以下の通りである。

(1) 郡元団地では，国土座標第2座標系(X=-158.200, Y=-42.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig.3参照)。

(2) 桜ヶ丘団地では，国土座標第2座標系(X=-161.600, Y=-44.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig.4参照)。

2　本年報において報告を行なった地点については，一部の立会調査地点を除き，Fig.2～4にその位置を記してある。

3　本年報におけるレベル高は，すべて海抜を表し，方位は真北方向を示す。

4　本書で使用した遺構の表示記号は，以下の通りである。

SK:土壙状遺構　SD:溝状遺構　P:ピット　KD:層位横転

5　2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6　遺物に関しては観察表を作成した。その標記，表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の( )は，調整方向を表す。**(—);横位方向，(｜);縦位，(＼);左上がりの斜位，(／);右上がりの斜位，(X);斜位の重複，(#);縦横位の重複，(?);方向不明**，とした。→は，調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し，この色調に当てはまらないものについては，「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで，**礫(2mm~)・粗砂粒(1~2mm)・砂粒(0.2~1mm)・細砂粒(0.2mm以下)**に分けた。また，砂粒の種類については，特定できないものは，その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては，便宜的に1～9の9段階に分けた。**9:20%以上，8:15~20%，7:15%前後，6:10~15%，5:10%前後，4:5~10%未満，3:5%前後，2:1~5%未満，1:1%以下**，とした。

サイズ：復元によるサイズは，( ) をつけた。

7　本文中の遺物番号は，挿図，図版，遺物観察表と一致している。

本文目次

1　平成12年度(2000年4月～2001年3月)の調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.1　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.2　調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　平成12年度(2000年4月～2001年3月)の立会調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

埋蔵文化財調査室要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

平成12年度(2000年4月～2001年3月)受贈図書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

付編　桜ヶ丘団地I-8区(難治性ウイルス疾患研究センター増築地)における発掘調査 ・17
1　調査に至る経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
2　調査体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
4　層位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
5　遺構・遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

1　平成 12 年度(2000 年 4 月～ 2001 年 3 月)の調査概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は，薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり，他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。本書に掲載する調査地点は，鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で，それぞれを，鹿児島大学構内遺跡郡元団地，同桜ヶ丘団地と呼んでいる。郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し，標高約 7m を測る。従来から周知の遺跡として知られており，校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和 59 年までは字名などが遺跡の名称として用いられており，県立医大遺跡，付属中学校敷地内遺跡，釘田遺跡，水町遺跡も郡元団地内の遺跡である[1]。付近には弥生時代の住居が検出された一ノ宮遺跡[2]が見られる。郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見されている。現在三つの住居群が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部，もう一つは南西部で，いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成 9 年度の工学部における調査では，弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ，構内ではまだ発見されていないが，古墳時代の包含層中には多量のイネ・プラント・オパールが含まれており[3]，稲作が継続的に行われていたことがわかる。桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約 2.5km の亀ヶ原台地上に位置し，標高約 70m を測る。昭和 60 年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは，「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称したが，キャンパス名の変更に伴い，桜ヶ丘団地と呼んでいる。付近の台地上には，旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており，桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また，縄文時代早期[4]，弥生時代前期の住居跡[5]も確認されている。

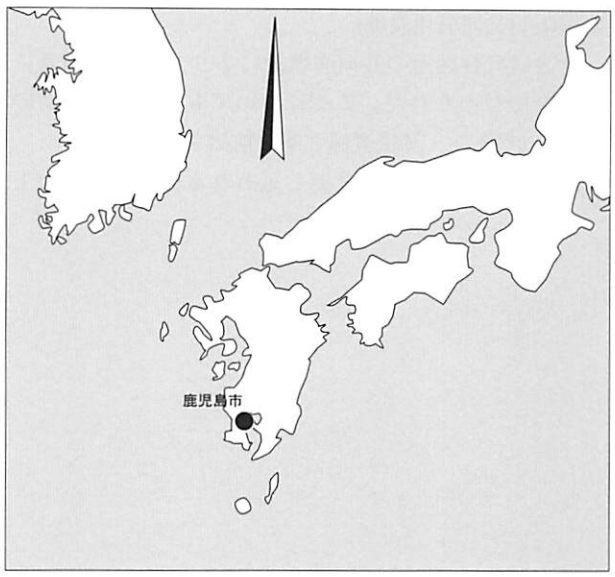


Fig.1　鹿児島市の位置

註

1)松永幸男 1986「第Ⅱ章　鹿児島大学構内遺跡の位置と環境」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2)河口貞徳 1951「一の宮遺蹟報告」『考古学雑誌』第 37 巻第 4 号 日本考古学会

3)郡元団地 L-6 区(中央図書館:未報告)　によるプラント・オパール定量分析の結果などによる

4)大西智和・新里貴之 2000「桜ヶ丘団地 I・J-10 区（受水槽設置地点）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』14　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

5)坪根伸也・松永幸夫 1988「鹿児島大学宇宿団地 I-8 区（医学部臨床研究棟増築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ』　鹿児島大学埋蔵文化財調査室」

1.2 調査概要(Tab.1)

99-1(総合研究棟建設地)

平成 11 年度 12 月より継続して行なわれた総合研究棟建設に伴う発掘調査では，古墳時代後期の住居跡が 66 件，4 基の土壙，1 基の溝状遺構などが検出された。また，直径約 30m ほどの遺物集積遺構(古代以降?)や中近世の畑跡も検出された。遺物として，土器のほかに袋状鉄斧や勾玉，ガラス玉，紡錘車，磨製・打製石鏃，

Tab.1　平成 12 年度調査一覧

種類	調査コード	地区	調査	期間
発掘調査	99-1	J・K-3・4区	総合研究棟建設に伴う発掘調査	平成11年12月20日-平成12年8月11日
	2000-1	I・J-4区	共同溝埋設に伴う発掘調査	平成12年8月21-9月26日
立会調査	2000-A	I・J-8区	郡元地他基幹整備(焼却炉電気設備等)工事に伴う立会調査(桜ヶ丘団地)	平成12年12月19日・平成13年1月10日
	2000-B	B・C-5・6区	郡元地他基幹整備(焼却炉電気設備等)工事に伴う立会調査(郡元団地)	平成12年12月25-27日・平成13年1月23日
	2000-C	H・I・K-8・9区	医学部保健学科棟新設に伴う樹木移植等工事	平成13年1月29-31日

石斧，砥石，石包丁などが出土している。

2000-1(共同溝埋設地)

総合研究棟関連の共同溝埋設により，99-1の調査に継続して行なわれた。ここにおいても古墳時代後期の住居跡が35件，溝状遺構2基が検出されている。

立会調査では，特に重要と思われる桜ヶ丘団地の土層について記載する。2000-Cでは，保健学科前から桜ヶ丘団地グラウンド敷地内に樹木の移植を行なったが，グラウンド東半側に約50cmの厚さの弥生時代のかなり良好な包含層を確認することが出来た。グラウンド西側に向かって旧地形はかなり傾斜することが分かっているので，工事等の場合，要注意すべきであり，迅速な対応が必要である。

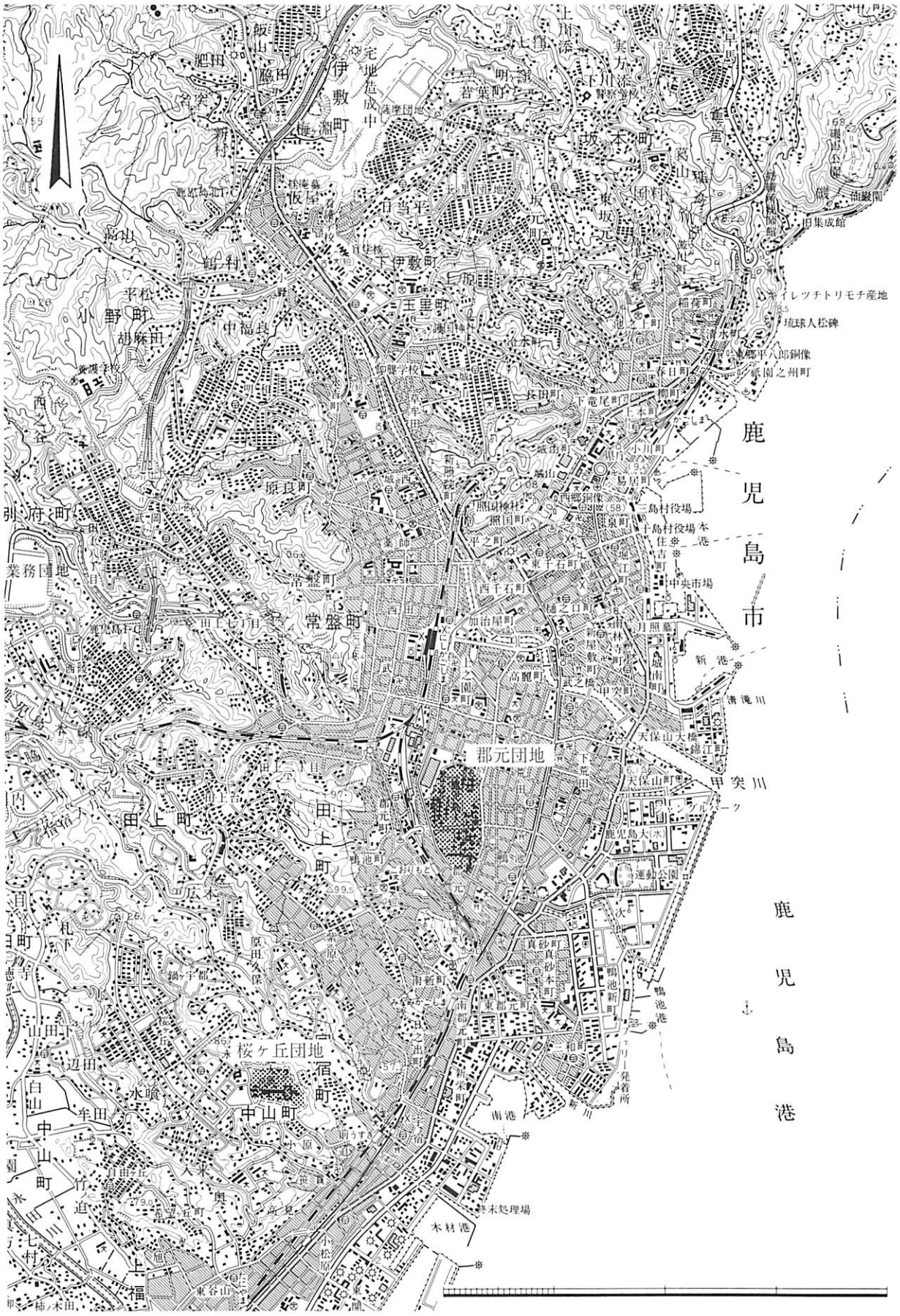


Fig. 2　鹿児島大学構内遺跡の位置(S=1/50000)

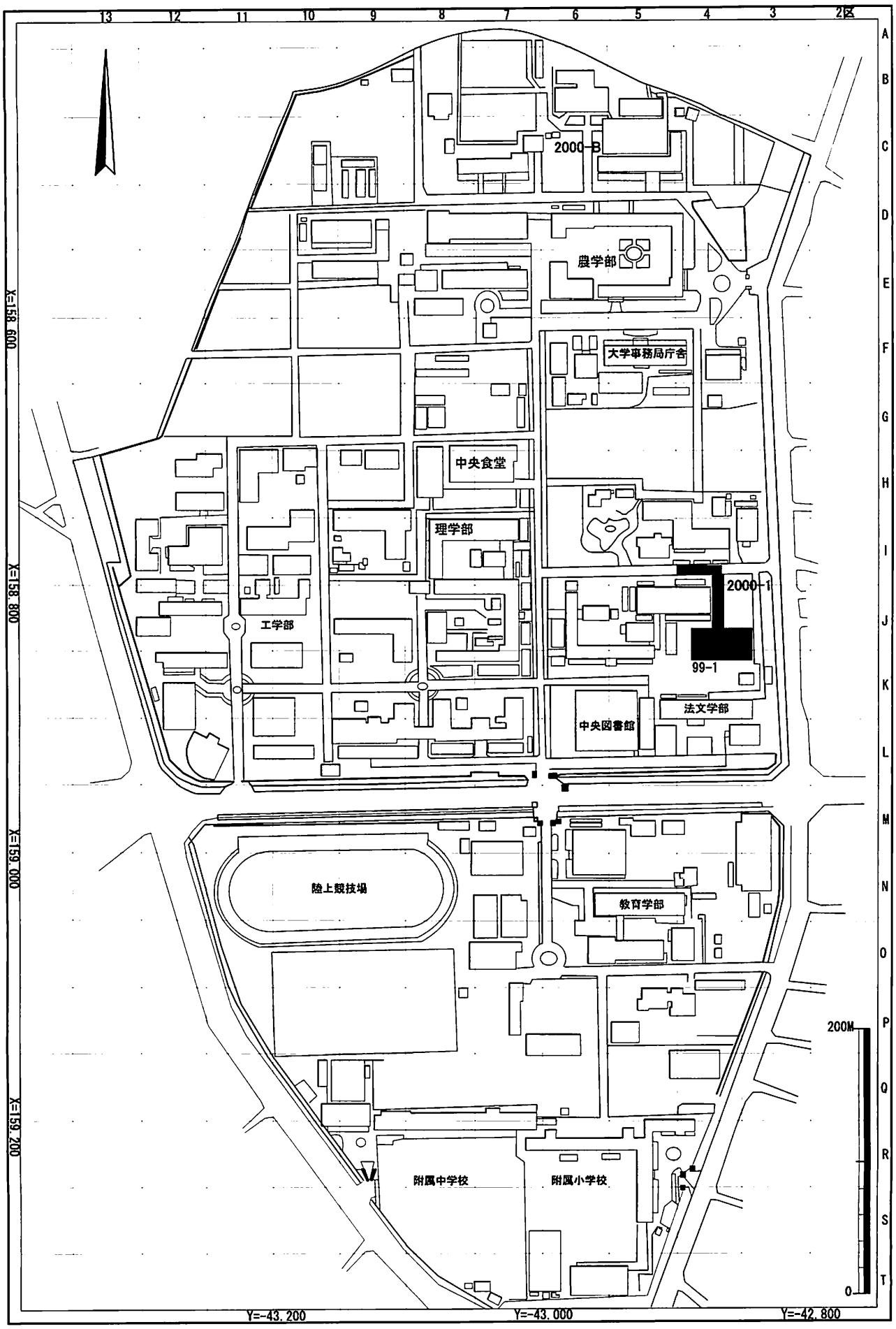


Fig. 3　郡元団地構内図(S=1/4000)

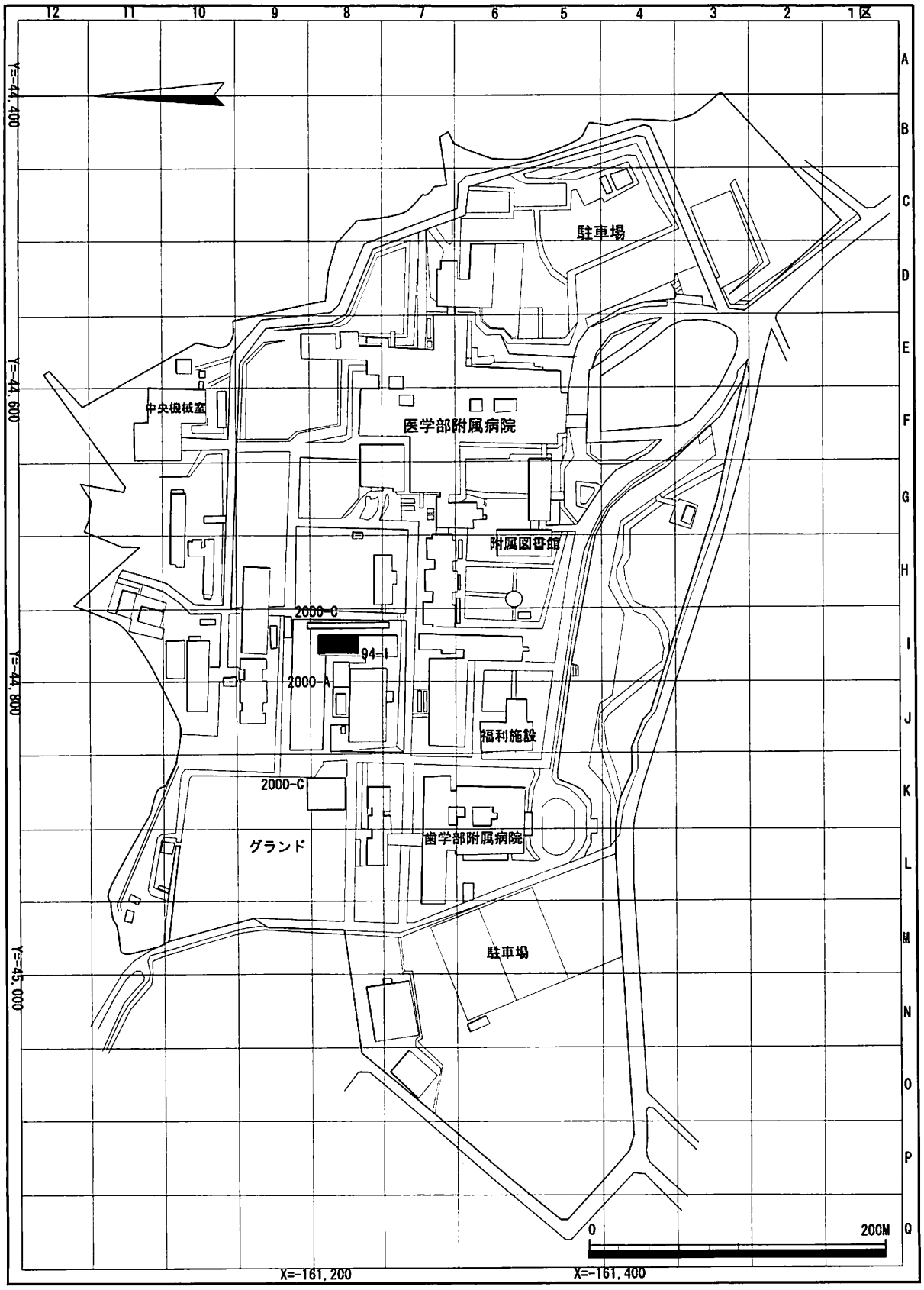


Fig.4　桜ヶ丘団地構内図(S=1/4000)

2 平成12年度(2000年4月～2001年3月)の立会調査

埋蔵文化財調査室では，平成12年度に3件の立会調査を実施した。以下，調査ごとに説明する。

2000-A 郡元地他基幹整備(焼却炉電気設備等)工事 桜ヶ丘団地(Fig.5・6)

調査地点 医学部動物実験施設周辺(桜ヶ丘団地 I・J-8区)

調査期間 12月19日・1月10日

医学部動物実験施設の北側に設置される焼却炉新設工事のため，立会調査を行った。工事では焼却炉基礎部分とその周辺に配管のための掘削を行なったので，その部分について調査を実施した。配管部分の掘削深度は約1.3m～1.5m，基礎部分の掘削は約1.1mにおよんだ。

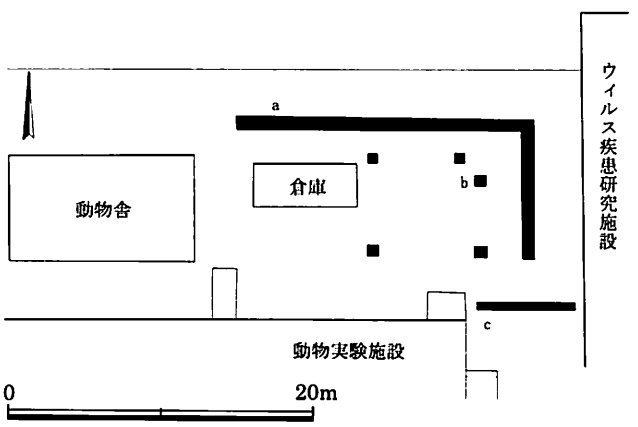


Fig.5 I・J-8区(S=1/500)

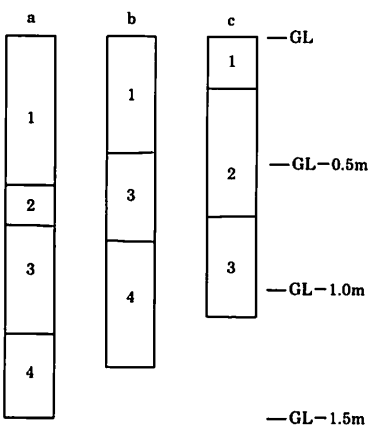


Fig.6 I・J-8区土層柱状図

層位は以下の1～4層までを確認したが(Fig.6)，柱状図に見るとおり，各層が整合的に堆積しておらず，2層以下が乱れている状況が観察できた。遺物などは出土しなかった。

1層 表土・客土

2層 明褐色(7.5YR5/8)シルト質砂。約6500年前の「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」。

3層 黒褐色(10YR2/3)シルト質砂。小石やパミスを含み，やや粘性を帯びる。

4層 橙色(7.5YR6/8)粗砂。約11500年前の「桜島薩摩テフラ(Sz-S)」である。

2000-B 郡元地他基幹整備(焼却炉電気設備等)工事 郡元団地(Fig.7・8)

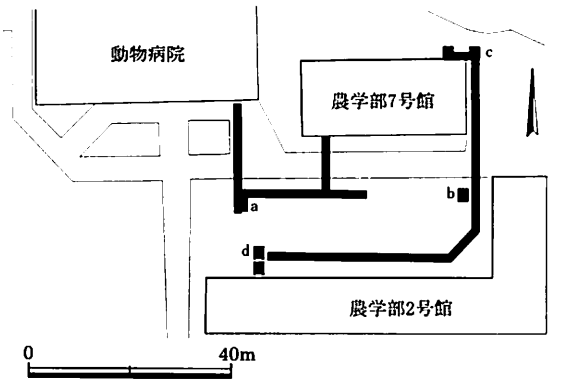


Fig.7 B・C-5・6区(S=1/1500)

調査地点

農学部7号館周辺(郡元団地 B・C-5・6区)

調査期間 12月25～27日・1月23日

焼却炉電気設備等整備の掘削工事に伴って立会調査を行なった。農学部7号館周辺にあたる。掘削深度は約1.0～1.5mに及んだが，ほとんど現代の撹乱層であった。図中a～d地点で土層観察を行なったが，特にプライマリーな層が観察できたa・b・c各地点(Fig.8)について説明を行なう。それぞれの層位の対応関係は不明である。

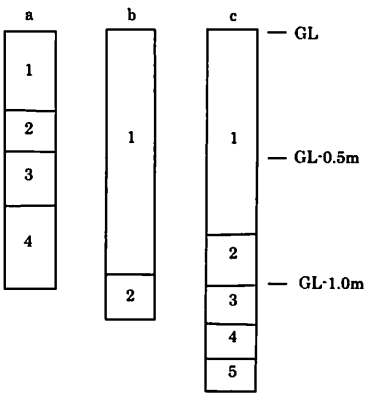


Fig.8 B・C-5・6区土層柱状図

a地点

1層 明黄褐色(10YR7/6)シルト質砂。

2層 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂。瓦や鉄を含む。

3層 暗褐色(10YR3/3)シルト質砂。炭などを含む。

4層 褐色(10YR4/4)細砂。炭や礫を含む。

b地点

1層 明黄褐色(10YR7/6)シルト質砂。レンガや瓦を含む。

2層 浅黄橙色(10YR8/3)と灰黄褐色(10YR6/2)の砂層。

c地点

1層 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂。

2層 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂。

3層　黄褐色(10YR5/6)砂層。
4層　にぶい黄褐色(10YR5/3)砂層。
5層　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂。

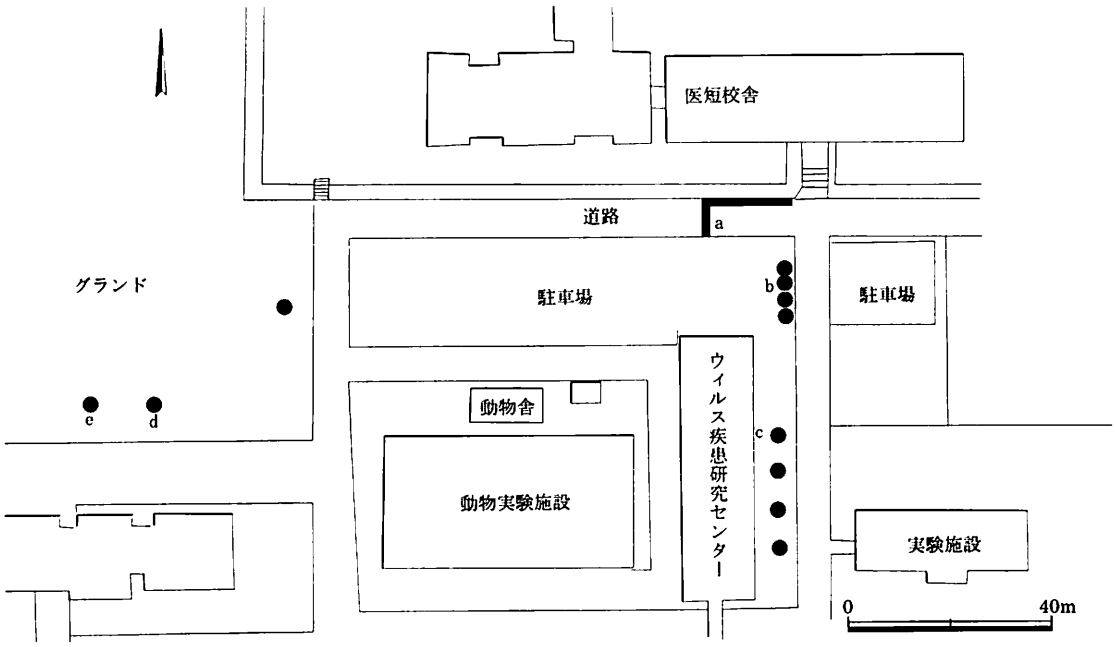


Fig.9　H･I･K-8・9区(S=1/1500)

2000-C　医学部保健学科棟新設に伴う樹木移植等工事(Fig.9･10)

調査地点　医学部保健学科南側周辺(桜ヶ丘団地H･I･K-8･9区)

調査期間　1月29･30･30日

医学部保健学科棟新設工事に伴う，樹木移植とガス管埋設における掘削工事に伴って立会調査を実施した。

掘削は，ガス管埋設地点(a地点)･樹木移植地点(b･c･d･e地点)にて行われた。a地点は，地表下1.4m，c地点は0.6m，d～f地点は1.0m～1.4mまで掘削が及んだ。このうち，プライマリーな層が検出されたのはa･d･e地点である(Fig.10)。e地点2層から弥生時代の土器片が出土した。層位の説明は，以下のとおりである。

a地点

1層　表土。シラスや黒色土の混土。

2層　橙色(7.5YR6/8)粗砂。約11500年前の「桜島薩摩テフラ(Sz-S)」。

d地点

1層　表土。

5層　明褐色(7.5YR5/8)シルト質砂　約6500年前の「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」。

4層　黒褐色(10YR2/3)シルト質砂，小石やパミスを含み，やや粘性を帯びる。

5層　橙色(7.5YR6/8)粗砂。約11500年前の「桜島薩摩テフラ(Sz-S)」である。

e地点

1層　表土。

2層　黒褐色(2.5Y3/2)シルト　弥生時代(前期･中期前半･終末期)の包含層。

3層以下は，d地点3層以下に対応。

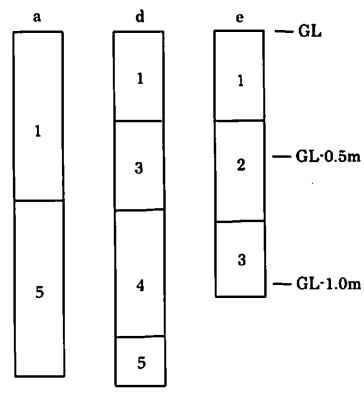


Fig.10　H･I･K-8・9区土層柱状図

埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項
鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

（設置）

第 1 条　本学に,鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。）を置く。

（審議）

第 2 条　委員会は，本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（１）基本計画の策定に関すること。

（２）調査結果に基づく対策に関すること。

（組織）

第 3 条　委員会は,次に掲げる委員をもって組織する。

（１）学長

（２）各学部長，附属図書館長，医学部附属病院長および歯学部附属病院長

（３）事務局長

（４）学生部長

（委員長）

第 4 条　委員会に委員長を置き,学長をもって充てる。

2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（議事）

第 5 条　委員会は，委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し，議事は出席委員の 3 分の 2 以上をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第 6 条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことが出来る。

（調査委員会）

第 7 条　委員会は，本学の埋蔵文化財の調査を行なうため，埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第 8 条　調査委員会は次の事項を審議する。

（１）調査実施計画に関すること。

（２）第 1 3 条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

（３）第 1 3 条に規定する調査室の予算に関すること。

（４）その他埋蔵文化財及び第 1 3 条に規定する調査室の業務に関すること。

第 9 条　調査委員会は，次に掲げる委員をもって組織し，学長が任命する。

（１）各学部の教授，助教授，講師の中から選任された者各 1 名

（２）第 15 条 2 項に規定する調査室長

2　前項第 1 号の委員の任期は 2 年とし，委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は，前任者の残任期間とする。

第 10 条　調査委員会に委員長を置き，前項第 1 項第 1 号の委員の中から互選により選出する。

2　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

第 11 条　調査委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決する。

第 12 条　調査委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

（調査室）

第 13 条　調査委員会に，本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第 14 条　調査室は，次の業務を行なう。

（１）調査実施計画の立案

（２）発掘調査，分布調査及び確認調査

（３）調査報告書の作成

（４）その他必要な事項

第 15 条　調査室に，室長，主任及びその他必要な職員を置く。

2　室長は，本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し，学長が任命する。

3　室長は，調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4　室長の任期は 2 年とする。ただし，再任を妨げない。

5　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し，学長が任命する。

6　主任は，室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7　職員は，調査室の業務に従事する。

（その他）

第 16 条　埋蔵文化財に関する事務は，事務局施設部において行なう。

付　則

1　この規則は，昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2　この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の

任期は，第 9 条第 2 項及び第 15 条第 4 項の規定にかかわらず，昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

3　鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和 51 年 1 月 22 日制定）は，廃止する。

付則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成 12 年 4 月 1 日現在）

委員長　田中弘允（鹿児島大学学長）

委　員　辰村吉康（法文学部長）
坂尾　隆（教育学部長）
井上政義（理学部長）
佐伯武頼（医学部長）
宮田昌明（医学部付属病院長）
大工原恭（歯学部長）
伊藤学而（歯学部附属病院長）
赤坂　裕（工学部長）
西中川駿（農学部長）
上田耕平（水産学部長）
宮内信文（連合農学研究科長）
山口建太郎（事務局長）
萬田正治（学生部長）
中山右尚（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 12 年 4 月 1 日現在）

委員長　古川純康（工学部教授）

委　員　本田道輝（法文学部助教授）
日隈正守（教育学部助教授）
秋山伸一（医学部教授）
小椋　正（歯学部教授）
小柴洋一（理学部教授）
松元光春（農学部助教授）
西　隆昭（水産学部講師）
新田栄治（調査室長併任　法文学部教授）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併）　法文学部教授　新田栄治

主任（併）　法文学部助手　中村直子

（併）　法文学部助手　新里貴之

技術補佐員　寒川朋枝

技術補佐員　王　力明

平成12年度(2000年4月～2001年3月)受贈図書

研究紀要

島根県立歴史博物館紀要第21号　群馬県立歴史博物館
大田区立郷土博物館紀要　第10号　大田区立郷土博物館
かながわの考古学　研究紀要　5
財団法人かながわ考古学財団
名古屋市博物館研究紀要　第23巻　名古屋市博物館
紀要　富山考古学研究第3号
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所
研究紀要　第9号　三重県埋蔵文化財センター
研究紀要　第6集　財団法人由良大和古代文化研究協会
古事　天理大学考古学研究室
大阪市文化財協会研究紀要　第3号
財団法人大阪市文化財協会
研究紀要　第4号　下関市立考古博物館
紀要愛媛　創刊号
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
読谷村立歴史民俗資料館紀要　第24号
読谷村立歴史民俗資料館
北上市埋蔵文化財センター紀要第1号
北上市立埋蔵文化財センター

逐次刊行物

テェタ　北海道埋蔵文化財センターだより　第4号
北海道埋蔵文化財センター
苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報　2
苫小牧市埋蔵文化財調査センター
歴史人類　第28号　筑波大学歴史・人類学系
きみさらづ第16号　財団法人君更津市文化財センター
博物館ノート　№109-114　大田区立郷土博物館
研究論集　XVIII　東京都埋蔵文化財センター
資料目録　11　東京都埋蔵文化財センター
青山史学　第18号　青山学院大学文学部史学研究室
研究所要覧-平成12年度-
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
研究所報　№86-88
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
名古屋市博物館だより　133-138　名古屋市博物館
研究ノート　9号　財団法人茨城県教育財団
かがみはらの埋文　各務原市埋蔵文化財調査センター
滋賀埋文ニュース　第233-240
滋賀県埋蔵文化財センター
佐加太　第11-13号　滋賀県坂田郡社会教育研究会
埋文とやま　vol.71-73　富山県埋蔵文化財センター
みえ　№29.30　三重県埋蔵文化財センター
京都府埋蔵文化財情報　第75-78号
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
アスカディア・古墳の森　vol.12.13
大阪府立近つ飛鳥博物館
葦火　85-90号　財団法人大阪市文化財協会
青陵　第102.103.104号　奈良県立橿原考古学研究所
ひょうごの遺跡　35-38号　兵庫県教育委員会
所報吉備　第29号　岡山県古代吉備文化財センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第23.24号
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
自然化学研究所研究報告第25号　岡山理科大学
いぶき№26-28　広島県教育委員会事務局生涯学習部
文化課　中世遺跡調査研究室
歴風　第25.26号　広島県立歴史民俗資料館
ドキ土器まいぶん　№9.11.12
島根県埋蔵文化財調査センター
資料館だより　№17.18　飯塚市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース47.48.49　大分市歴史資料館
おおいた歴博　№6　大分県立歴史博物館
南日本文化　第33号
鹿児島短期大学付属南日本文化研究所
薩琉文化　第70.71号
鹿児島短期大学付属南日本文化研究所

年報

調査年報　12　財団法人北海道埋蔵文化財センター
北上市埋蔵文化財年報（1996.1997.1998年度）
北上市立埋蔵文化財センター
東北大学埋蔵文化財調査年報　13
東北大学埋蔵文化財調査研究センター
東総文化財センター年報　5
財団法人東総文化財センター
房総風土記の丘年報　22　千葉県立房総風土記の丘
栃木県しもつけ風土記の丘資料館年報　第14号
栃木県教育委員会
東京都埋蔵文化財センター年報　20
東京都埋蔵文化財センター
年報　7　財団法人かながわ考古学財団
神奈川県立埋蔵文化財センター年報　18
財団法人かながわ考古学財団
静岡市立登呂博物館報　10　静岡市登呂博物館
年報16　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
年報19　財団法人茨城県教育財団
三重県埋蔵文化財年報　三重県埋蔵文化財センター

富山県埋蔵文化財センター年報
富山県埋蔵文化財センター
京都大学構内遺跡調査研究年報
京都大学埋蔵文化財研究センター
高槻市文化財年報　高槻市教育委員会
大阪府立近つ飛鳥博物館　館報5
大阪府立近つ飛鳥博物館
橿原考古学研究所年報24　奈良県立橿原考古学研究所
城郭研究室年報 vol.9　姫路市立城郭研究室
倉敷埋蔵文化財センター年報 6
倉敷埋蔵文化財センター
岡山大学構内遺跡調査研究年報 17
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
下関市立考古博物館年報5　下関市立考古博物館
埋蔵文化財調査センター年報VIII　島根県教育委員会
愛比売　財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
飯塚市歴史資料館年報 16.17　飯塚市歴史資料館
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報　福岡県教育委員会
福岡市埋蔵文化財センター年報 第18号
福岡市教育委員会
大分県埋蔵文化財年報 8　大分県教育委員会
大分県立歴史博物館年報1999　大分県立歴史博物館
熊本大学埋蔵文化財調査室年報 6
熊本大学埋蔵文化財調査室
読谷村立歴史民俗資料館年報 第25号
読谷村立歴史民俗資料館

調査報告書

油駒遺跡　えりも町教育委員会
北上遺跡群　上大谷地・江釣子古墳群・国見山廃寺
北上市埋蔵文化財センター
北上遺跡群　国見山廃寺・滝ノ沢遺跡
北上市教育委員会
北上遺跡群　江釣子古墳群　北上市埋蔵文化財センター
成沢II遺跡　北上市教育委員会
曽山遺跡　北上市教育委員会
唐戸崎遺跡　北上市教育委員会
金成遺跡III　北上市教育委員会
北上市極楽寺跡　北上市教育委員会
横町遺跡　北上市教育委員会
滝ノ沢遺跡V　北上市教育委員会
大堤遺跡　北上市教育委員会
江釣子古墳群　北上市教育委員会
浮牛城跡II　北上市教育委員会
南部工業団地内遺跡I　北上市教育委員会
南部工業団地内遺跡III　北上市教育委員会
藤沢遺跡III　北上市教育委員会
藤沢遺跡V　北上市教育委員会
柳之御所遺跡　岩手県教育委員会
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報
財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
青山甚太山遺跡　財団法人香取郡市文化財センター
中内原遺跡・北の内遺跡
財団法人香取郡市文化財センター
向井内遺跡　財団法人香取郡市文化財センター
掘込II遺跡　財団法人香取郡市文化財センター
地々免遺跡　財団法人香取郡市文化財センター
竜谷城跡I　財団法人香取郡市文化財センター
仲台遺跡　財団法人香取郡市文化財センター
織幡ササノ倉遺跡I　財団法人香取郡市文化財センター
神田遺跡II　財団法人君更津市文化財センター
正源戸B遺跡・子者清水遺跡
財団法人君更津市文化財センター
西谷古墳群・西谷遺跡
財団法人君更津市文化財センター
山王台遺跡・内屋敷遺跡
財団法人君更津市文化財センター
上用瀬遺跡II　財団法人君更津市文化財センター
金井崎遺跡　財団法人君更津市文化財センター
夏台遺跡　財団法人東総文化財センター
篠本城跡・城山遺跡　財団法人東総文化財センター
粟島台遺跡　銚子市教育委員会
事業報告IX　財団法人香取郡市文化財センター
美山町赤根遺跡（C地区）　東京都埋蔵文化財センター
日野市栄町遺跡　東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡№247・248
東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡№939遺跡II
東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡 第82.84.85.88.92集
東京都埋蔵文化財センター
汐留遺跡II　東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡V　東京都埋蔵文化財センター
川口町十内入東遺跡　東京都埋蔵文化財センター
代継・富士見台・西龍ヶ崎遺跡
東京都埋蔵文化財センター
明治大学記念館前遺跡　明治大学考古学博物館
平成7年度陵墓関係調査概要　宮内庁書陵部陵墓課
近衛天皇陵多宝塔の仏像について　ほか
宮内庁書陵部陵墓課
神奈川県埋蔵文化財調査報告 42.43
神奈川県教育委員会

海老名本郷 XV　富士ゼロックス株式会社
海老名本郷 XVI　富士ゼロックス株式会社
海老名本郷 XVII　富士ゼロックス株式会社
松本岩戸遺跡　財団法人かながわ考古学財団
福田丙二ノ区遺跡　財団法人かながわ考古学財団
川尻遺跡 II　財団法人かながわ考古学財団
三ノ宮・下谷戸遺跡（No 14）II
財団法人かながわ考古学財団
後山田南遺跡　財団法人かながわ考古学財団
高山横穴墓群（２次）　財団法人かながわ考古学財団
鎌倉城（二階堂紅葉ヶ谷）所在やぐら群
財団法人かながわ考古学財団
鎌倉城（大町３丁目）所財やぐら
財団法人かながわ考古学財団
極楽寺やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
福泉やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
長勝寺跡所在やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
極楽寺やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
弁ヶ谷東やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
堂地谷やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
陣屋谷戸やぐら群　財団法人かながわ考古学財団
大塚堂遺跡　財団法人かながわ考古学財団
和田山やぐら遺跡群　財団法人かながわ考古学財団
半原屈中原遺跡　財団法人かながわ考古学財団
吉岡遺跡群 VIII　財団法人かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群 XIII　財団法人かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群 XV　財団法人かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群 XVI　財団法人かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群 XVII　財団法人かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群 XVIII　財団法人かながわ考古学財団
長津田遺跡群 IV　財団法人かながわ考古学財団
長津田遺跡群 V　財団法人かながわ考古学財団
天神谷戸遺跡　財団法人かながわ考古学財団
三ツ俣遺跡 II　財団法人かながわ考古学財団
平和坂遺跡　財団法人かながわ考古学財団
長柄・桜山第１・２号墳　財団法人かながわ考古学財団
坪ノ内・貝ヶ窪遺跡／笠窪・谷戸遺跡
財団法人かながわ考古学財団
坪ノ内・宮ノ前遺跡　財団法人かながわ考古学財団
草山遺跡　財団法人かながわ考古学財団
上土棚南遺跡　財団法人かながわ考古学財団
池田Ｂ遺跡　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
大谷横穴群　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
押出シ遺跡（遺物編）
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静清バイパス総括編（集成図・補遺・一覧表）
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
川合遺跡志保田地区
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
桓武西宮・西浦遺跡
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
元島遺跡 I　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡・清水平野の埋没古環境情報
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
平瀬遺跡 II　松本市教育委員会
砂原遺跡 II　松本市教育委員会
竹渕南原遺跡 II　松本市教育委員会
芝沢遺跡 I・II 南栗遺跡 IV・V　松本市教育委員会
大輔原遺跡　松本市教育委員会
出川南遺跡 VI　松本市教育委員会
出川南遺跡 IX　松本市教育委員会
松本城下町跡試掘調査報告書　松本市教育委員会
市内遺跡調査報告 II　瓶子窯跡
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
名古屋大学加速器質量分析計業績報告書 XI
名古屋大学年代測定資料研究センター
野笹遺跡 I　財団法人岐阜県文化財保護センター
砂行遺跡　財団法人岐阜県文化財保護センター
南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡
財団法人岐阜県文化財保護センター
いんべ遺跡　財団法人岐阜県文化財保護センター
岩井谷遺跡　財団法人岐阜県文化財保護センター
上ヶ平遺跡 II　財団法人岐阜県文化財保護センター
上原遺跡 II　財団法人岐阜県文化財保護センター
船山北古墳群・船山北古窯跡群・船山北遺跡
財団法人岐阜県文化財保護センター
高畑遺跡財団法人岐阜県文化財保護センター
岩垣内遺跡　財団法人岐阜県文化財保護センター
戸入村平遺跡 II・小谷戸遺跡
岐阜県文化財保護センター
平成 10 年度各務原氏市内遺跡発掘調査報告書
各務原氏教育委員会
永代遺跡発掘調査レポート
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所
埋蔵文化財調査概要-平成 11 年度-
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所
発掘調査十年のあゆみ
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所
北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所
大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告
財団法人富山県文化財振興財団埋蔵文化財調査事務所

森南田遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告 IV
三重県埋蔵文化財センター
南遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
潮干遺跡（第２次）発掘調査報告
三重県埋蔵文化財センター
長遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
東村城跡　三重県埋蔵文化財センター
佐田遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
中出向遺跡（第２次）　三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報 I.III.VI.XII
三重県埋蔵文化財センター
道瀬遺跡（第２次）発掘調査報告
三重県埋蔵文化財センター
外山遺跡・片落Ｃ遺跡　三重県埋蔵文化財センター
中出向遺跡（第２次）　三重県埋蔵文化財センター
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告（Ｖ）
三重県埋蔵文化財センター
観音沖遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡
三重県埋蔵文化財センター
埋蔵文化財発掘調査概報 VI　三重県埋蔵文化財センター
門ノ上遺跡発掘調査報告　三重県埋蔵文化財センター
北蟻越遺跡（第１次）・津賀２号墳
三重県埋蔵文化財センター
六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）
三重県埋蔵文化財調査報告
高茶屋大垣内遺跡　三重県埋蔵文化財センター
古轡通りＢ遺跡・古轡通り古墳群発掘調査報告
三重県埋蔵文化財センター
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡
三重県埋蔵文化財センター
離宮院跡（法楽町地区）発掘調査報告
小俣町教育委員会
鳳凰寺遺跡第二次発掘調査報告書　大山田村教育委員会
山添遺跡発掘調査報告書　安濃町教育委員会
島の山古墳　川西町教育委員会
東明神古墳の研究　奈良県立橿原考古学研究所
三陵墓西古墳　奈良県立橿原考古学研究所
山口遺跡群　奈良県教育委員会
南郷遺跡群 II　奈良県教育委員会
長野市宮崎遺跡　立命館大学文学部
史跡・今城塚古墳　高槻市教育委員会
長原遺跡東部地区発掘調査報告 III
財団法人大阪市文化財協会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告 XIV.XV
財団法人大阪市文化財協会
難波宮跡の研究　第 11　財団法人大阪市文化財協会
今里大塚古墳・井ノ内車塚古墳第３自調査概要
大阪大学井ノ内車塚古墳調査団
財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告
財団法人八尾市文化財調査研究会
鬼塚遺跡第 13 次 15 次発掘調査報告書
財団法人東大阪市文化財協会
岩滝山遺跡第６次発掘調査報告書
財団法人東大阪市文化財協会
水走遺跡第４次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
植附遺跡第５次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
若江遺跡第 65 次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
神並遺跡発掘調査報告　財団法人東大阪市文化財協会
宮ノ下遺跡第３次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡北部の中・近世耕作地跡
財団法人東大阪市文化財協会
馬場川遺跡発掘調査報告書
財団法人東大阪市文化財協会
瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘調査報告書
財団法人東大阪市文化財協会
東大阪市下水道事業完形発掘調査概要報告
財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡第 42 次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
西ノ辻遺跡第 32 次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
貝花遺跡第３次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
鬼虎川遺跡第 25 次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
西堤遺跡第５次発掘調査報告
財団法人東大阪市文化財協会
西ノ辻遺跡　財団法人東大阪市文化財協会
西ノ辻遺跡第 17 次発掘調査報告書
財団法人東大阪市文化財協会
TSUBOHORI　姫路市教育委員会
高畑町遺跡 III　兵庫県教育委員会
波毛遺跡・川添遺跡　兵庫県教育委員会
袴狭遺跡　兵庫県教育委員会
砂入遺跡　兵庫県教育委員会
勝雄経塚　兵庫県教育委員会

北摂ニュータウン内遺跡調査報告書V
兵庫県教育委員会
外野波豆遺跡・外野柳遺跡　兵庫県教育委員会
北摂ニュータウン内遺跡調査報告書VI
兵庫県教育委員会
表山遺跡・池内群集墳　兵庫県教育委員会
三田城跡発掘調査報告書　兵庫県教育委員会
明石城跡III　兵庫県教育委員会
石ヶ坪遺跡　勝田町教育委員会
西村古墳群　勝北町教育委員会
福呂遺跡1　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
古城池南古墳　倉敷市埋蔵文化財センター
府中市内遺跡5　府中市教育委員会
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報XIII.XIV
広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室
神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墳
島根県教育委員会
三田谷III遺跡　島根県教育委員会
下山遺跡（1）　島根県教育委員会
勝負廻I遺跡・白石大谷II遺跡・シトギ免遺跡ほか
島根県教育委員会
野津原II遺跡（西区）・女夫岩西遺跡？城山遺跡
島根県教育委員会
社日古墳　島根県教育委員会
三田谷I遺跡　島根県教育委員会
西川津遺跡VII　島根県教育委員会
伊倉遺跡　下関市教育委員会
無多田遺跡　下関市教育委員会
綾羅木遺跡　下関市教育委員会
岩崎遺跡松山市教育委員会　財団法人松山市生涯
学習振興財団埋蔵文化財センター
大渕遺跡松山市教育委員会　財団法人松山市生涯
学習振興財団埋蔵文化財センター
来住・久米地区の遺跡III　松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
古市遺跡・下苅屋遺跡　松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
太山寺経田遺跡　松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
住吉神社跡　財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
史跡「松山城跡」内研民間跡地
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
新池遺跡・市場南組窯跡
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
阿方遺跡・矢田八反坪遺跡
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
湯築城跡　財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
南高井遺跡・森松遺跡
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
阿方春岡遺跡・阿方牛ノ江遺跡・矢田八反坪遺跡ほか
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
旦遺跡・宮之前遺跡・長沢石打遺跡ほか
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
円通寺遺跡・大柿遺跡　三好町教育委員会
勝瑞館跡　徳島県教育委員会
小路遺跡・上屋敷遺跡　久住町教育委員会
市第IV遺跡・トグウ遺跡・花立遺跡　久住町教育委員会
定留遺跡田畑地区台遺跡　中津市教育委員会
瀬戸墳墓群・瀬戸遺跡・帆足遺跡　大分県教育委員会
森の木遺跡　大分県教育委員会
尾漕遺跡　大分県教育委員会
千塚西遺跡　大分県教育委員会
四日市上ノ原横穴墓群　大分県教育委員会
其ノ田板碑　大分県教育委員会
玉沢地区条里跡　大分県教育委員会
治別当遺跡　大分県教育委員会
炭竈遺跡　大分県教育委員会
上ノ原平原遺跡　大分県教育委員会
小野家墓地　大分県教育委員会
中原舟久手遺跡　大分県教育委員会
原遺跡七郎丸1地区・口寺田遺跡　国東町教育委員会
安国寺遺跡　国東町教育委員会
遊牧民と農耕民の文化接触による中国文明形成過程の研究　九州大学文学部考古学研究室
合政遺跡群　那珂川町教育委員会
中原・ヒナタ遺跡群II　那珂川町教育委員会
大薮池遺跡群.後野・山ノ神前遺跡群
那珂川町教育委員会
観音山古墳群V　那珂川町教育委員会
前田遺跡群III　那珂川町教育委員会
安徳台　那珂川町教育委員会
古門遺跡群　鞍手町教育委員会
山川前田遺跡「水縄断層」　久留米市教育委員会
筑後国府跡　久留米市教育委員会
平成11年度久留米市内遺跡群　久留米市教育委員会
金丸遺跡　久留米市教育委員会
今泉遺跡　久留米市教育委員会
木塚遺跡　久留米市教育委員会
鳥飼小学校校庭遺跡　久留米市教育委員会
筑後国府跡　久留米市教育委員会

庄屋侍屋敷遺跡　久留米市教育委員会
神道遺跡　久留米市教育委員会
久木原遺跡　上陽町教育委員会
仁右衛門畑遺跡 I　福岡県教育委員会
上唐原了清遺跡 II　福岡県教育委員会
船越高原 A 遺跡 I　福岡県教育委員会
西新町遺跡 II　福岡県教育委員会
竹重遺跡　福岡県教育委員会
森原・藤坂古墳群　福岡県教育委員会
羽熊遺跡　福岡県教育委員会
陣山屋敷遺跡　福岡県教育委員会
浦ノ田遺跡 II　福岡県教育委員会
寄原遺跡・長者原遺跡　福岡県教育委員会
横溝中島遺跡　福岡県教育委員会
築城五反田遺跡・築城小迫遺跡　福岡県教育委員会
北大手木遺跡　福岡県教育委員会
頓野横道遺跡・浦田池南遺跡　福岡県教育委員会
大宰府史跡　九州歴史資料館
平原遺跡　前原市教育委員会
三沢古賀遺跡 2 区　小郡市教育委員会
西島下庄原遺跡　三沢蓮輪遺跡　小郡市教育委員会
上岩田遺跡調査概報　小郡市教育委員会
横隈上内畑遺跡 2　小郡市教育委員会
寺福童遺跡　小郡市教育委員会
津古片曽遺跡 2 区　小郡市教育委員会
大板井遺跡　小郡市史編集委員会
若宮遺跡　佐賀市教育委員会
村徳永遺跡　佐賀市教育委員会
森田遺跡 II　佐賀市教育委員会
増田遺跡群 IV　佐賀市教育委員会
若宮遺跡 3 ・ 4 区　佐賀市教育委員会
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書　佐賀市教育委員会
薬師森遺跡 2 区・築州遺跡 1 区　佐賀市教育委員会
上九郎遺跡 I　佐賀市教育委員会
上和泉遺跡 12 区・原ノ町遺跡 4 区　佐賀市教育委員会
古谷遺跡 4 区　佐賀市教育委員会
徳永遺跡 4 ・ 5 ・ 6 区　佐賀市教育委員会
唐津市内遺跡確認調査（16）　唐津市教育委員会
菅牟田荒谷遺跡（1）　唐津市教育委員会
岸高 II 遺跡　唐津市教育委員会
菅牟田西山遺跡（3）　唐津市教育委員会
枝去木分校入口遺跡　唐津市教育委員会
菜畑内田遺跡　唐津市教育委員会
野原遺跡　唐津市教育委員会
金田城跡　美津島町教育委員会
郷ノ浦町の古墳　壱岐郷土館
山中遺跡　郷ノ浦町教育委員会
大米遺跡　郷ノ浦町教育委員会
黒丸遺跡ほか発掘調査概報 vol.2　大村市教育委員会
玖島城跡　大村市文化財保護協会
塚原平古墳　熊本県不知火町教育委員会
中野内遺跡　北浦町教育委員会
佐牛野遺跡　えびの市教育委員会
昌明寺遺跡　えびの市教育委員会
浜川原遺跡　えびの市教育委員会
西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書 V　宮崎県教育委員会
国衙跡保存整備基礎調査概要報告書 IV　宮崎県教育委員会
宮崎県文化財年報平成 11 年度　宮崎県教育委員会
鬼の窟古墳. 西都原 205 号墳　宮崎県教育委員会
諏訪廻第 1 遺跡　三股町教育委員会
石河内本村遺跡　木城町教育委員会
神殿遺跡 B.C 地区　南平第 3 . 4 遺跡　中ノ原遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
石用遺跡・友尻遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
石塚遺跡・鳥ノ子遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
黒草第 1 ・第 2 ・第 3 遺跡　本野原遺跡・七野第 3 遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
上の原第 1 ・第 2 遺跡　白ヶ野第 3 遺跡 B 地区　宮崎県埋蔵文化財センター
山中前遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
竹ノ内遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
大島畠田遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
平田迫遺跡　宮崎県埋蔵文化財センター
佐牛野遺跡　えびの市教育委員会
浜川原遺跡　えびの市教育委員会
中野内遺跡　北浦町教育委員会
西大原・ヘゴノ原・流合・小原ノ原・愛宕 B ・中小路・別府・志風頭遺跡　加世田市教育委員会
栫ノ原遺跡　加世田市教育委員会
宮ヶ迫遺跡　松元町教育委員会
永野原遺跡　高山町教育委員会
尾ノ迫遺跡・吹切段遺跡・松ヶ迫田遺跡・長迫遺跡・菅牟田遺跡・井手山遺跡　大隅町教育委員会
西原段 II 遺跡　大隅町教育委員会
迫田遺跡　大隅町教育委員会
正戸山遺跡・大久保段遺跡・屋敷段遺跡・今塚段遺跡・貝ヶ段遺跡・早馬段遺跡・桑木畑遺跡ほか　大隅町教育委員会
日輪城（恒吉城）跡　大隅町教育委員会
敷領遺跡 II　弥次ヶ湯古墳　指宿市教育委員会

中尾Ⅰ・Ⅱ遺跡　出水市教育委員会
出水貝塚　出水市教育委員会
鹿児島（鶴丸）城二之丸跡Ｇ地点　鹿児島市教育委員会
加治屋園遺跡Ｂ地点　鹿児島市教育委員会
鹿児島紡績所跡Ｄ地点　鹿児島市教育委員会
谷山城跡Ｅ地点　鹿児島市教育委員会
一之宮遺跡Ｂ地点　鹿児島市教育委員会
伊佐之原遺跡　鹿児島市教育委員会
横峯Ｃ遺跡　南種子町教育委員会
石仏頭（II）遺跡　鹿屋市教育委員会
石仏頭遺跡　鹿屋市教育委員会
小野原Ａ遺跡（II）　鹿屋市教育委員会
松尾（II)遺跡・山之頭迫(II)遺跡　鹿屋市教育委員会
厚地松山製鉄遺跡　知覧町教育委員会
串木野城跡　串木野市教育委員会
昌明寺遺跡　えびの市教育委員会
新開原遺跡　大口市教育委員会
郡山遺跡　大口市教育委員会
勝毛遺跡　大口市教育委員会
下市来原遺跡　加治木町教育委員会
銘苅直禄原遺跡・銘苅原南遺跡　那覇市教育委員会
ナーチュー毛古墳群　那覇市教育委員会

パンフレット

苫小牧の埋蔵文化財　苫小牧市埋蔵文化財調査センター
仙台城本丸跡の発掘　仙台市教育委員会文化課
古代の大型建物跡記録集　財団法人かながわ考古学財団
名古屋市博物館だより 134　名古屋市博物館
作る・造る・創る　三重県埋蔵文化財センター
考古学と民俗学とのふれあい　天理大学文学部
史跡・今城塚古墳　高槻市教育委員会
かんどの流れ特別号　島根県教育委員会
かんどの流れ　島根県教育委員会
SORIN OTOMO　大分市教育委員会

図録

群集墳の時代　栃木県しもつけ風土記の丘資料館
群馬県立歴史博物館所蔵資料目録　民俗 II　群馬県立歴史博物館
空の玄関・羽田空港 70 年　大田区立郷土博物館
汐留遺跡　東京都埋蔵文化財センター
江戸時代の旅　弥次喜多道中　大田区立強度博物館
原東遺跡・川尻中村遺跡図録　財団法人かながわ考古学財団
福田丙二ノ区伊勢区　財団法人かながわ考古学財団
きょうのごはんなあに？　静岡市登呂博物館
縄文繚乱　富山県埋蔵文化財センター
残されたキャンバス-装飾古墳と壁画古墳-　大阪府近つ飛鳥博物館
発掘速報展大阪 2001　近つ飛鳥博物館
くらしと道の歴史　広島県立歴史民俗資料館
繚乱の時　松山市考古館
第 24 回　くるめの考古資料展　久留米市教育委員会
第 17 回特別展　おおいたの遺宝　大分市歴史資料館
第 18 回特別展　光君の物語　大分市歴史資料館

付編　桜ヶ丘団地 I-8 区(難治性ウイルス疾患研究センター増築地)の発掘調査

1. 調査に至る経過

鹿児島大学では，医学部に難治性ウイルス疾患研究センターの増築を予定している。増築予定地は，昭和 62 年に調査を行った臨床研究棟増築地の隣接地点にあたる。以前の調査では，弥生時代の住居跡や縄文時代早期の遺物包含層が確認され，本地点も同様に，良好な状態で遺跡が存在している可能性が高く，発掘調査を実施した。

2. 調査体制

本調査は，下記の体制で，平成 6 年 5 月 10 日から 7 月 28 日まで行った。

調査主体者　鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
　　上村俊雄

調査担当　鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長
　　上村俊雄

室員　中村直子・古澤生・大西智和・峰山いずみ

作業員　安倍松伊都子・池口洋人・石谷トキエ・畏谷ミエ子・岩戸エミ子・岩戸トシ子・岩戸ミツコ・請園アキエ・請園チリ・狩集エミ子・坂口ミエ子・寺光ミツ子・新海ミチ子・末吉サチ子・末吉ナミ・末吉ミヤ・諏訪田フサエ・谷口テル・谷口ノリ子・谷口勝・名越ヒデ子・西庄司・西村チエ子・野下カズ子・野下チリ子・福永シノブ・福永花江・増満ミエ子・松下ミチ・盛満アイ子・柳田キミ子・柳田二三子・横山アヤ子・脇トシ子・脇ツルエ

調査補助員

陣内高志(鹿児島大学法文学部 3 年)

3. 調査の経過

今回の調査は，難治性ウイルス疾患研究センターの増築地周囲 2m を拡大した範囲を調査対象地域とした。面積は約 500 m²である(Fig. 11)。調査区の中央に東西方向に道路が横切っており，この道路工事による掘削が桜島を起源とする桜島薩摩テフラ層(5 層)まで達し，調査区を南北に分断している状況である。

まず，表土を重機によって除去した。その後，層ごとに掘削作業を行った。

遺物は，2 層に弥生時代の遺物が，4 層に縄文時代早期の遺物が包含されていた。遺構は，3 層上面から弥生時代の住居跡と考えられる土壙や溝状遺構が，5 層上面からは縄文時代早期の集石遺構が検出された。5 層を重機で掘削した後，6 層の調査を行った。調査区に 2m 四方のメッシュを組み，格子目状に 6c 層まで掘り下げたが，遺物や遺構は認められなかった。この時点で，掘削作業を終了し，東壁と北壁の層位断面図を作成して，調査を終了した。

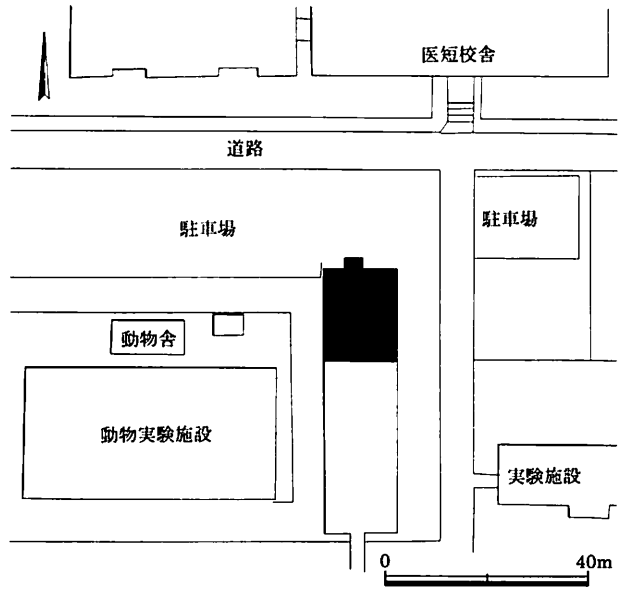


Fig. 11　調査地点(S=1/1500)
黒塗り部分が調査地点

4. 層位(Fig. 12・13, Tab. 2, PL. 1・2)

基本層位は，大別して 6 枚ある。1 層は表土層であり，桜ヶ丘団地地区造成時の建造物建設及び，それに伴う施設などの掘削が及び，現代に撹乱された層である。2 層は，弥生時代の遺物包含層であり，弥生時代前期・中期前半・終末期の遺物が包含される。遺構は 3 層に掘り込まれた状況で検出された。3 層は，約 6500 年前に降灰堆積した喜界アカホヤテフラ(K-Ah)である。4 層は縄文時代早期の遺物包含層である。遺構は，若干 5 層上面へと掘り込まれた状況で検出される。5 層は，約 11500 年前に降灰した桜島薩摩テフラ(Sz-S)であり，その堆積物の様相から 10 層に細分した。6 層は堆積土の色調や締まり具合などから，4 層に細分された。6d 層は約 22000 年前に降灰した桜島高峠 6/P17 テフラであり，5 層との間に堆積した 6 層は，実年代を推しても，後期旧石器時代から縄文時代草創期頃の包含層と考えられる。しかし，今回の調査では遺構・遺物ともに認められなかった。

調査区中央部，南西隅は，桜ヶ丘団地造成時に撹乱されている。調査区の層序は北から南側へと傾斜しており，旧地形が亀ヶ岡台地南側の緩斜面であったことが分かる。そのため北側は，団地造成時の削平が著しく，弥生時代の包含層(2 層)もほとんど消失している。

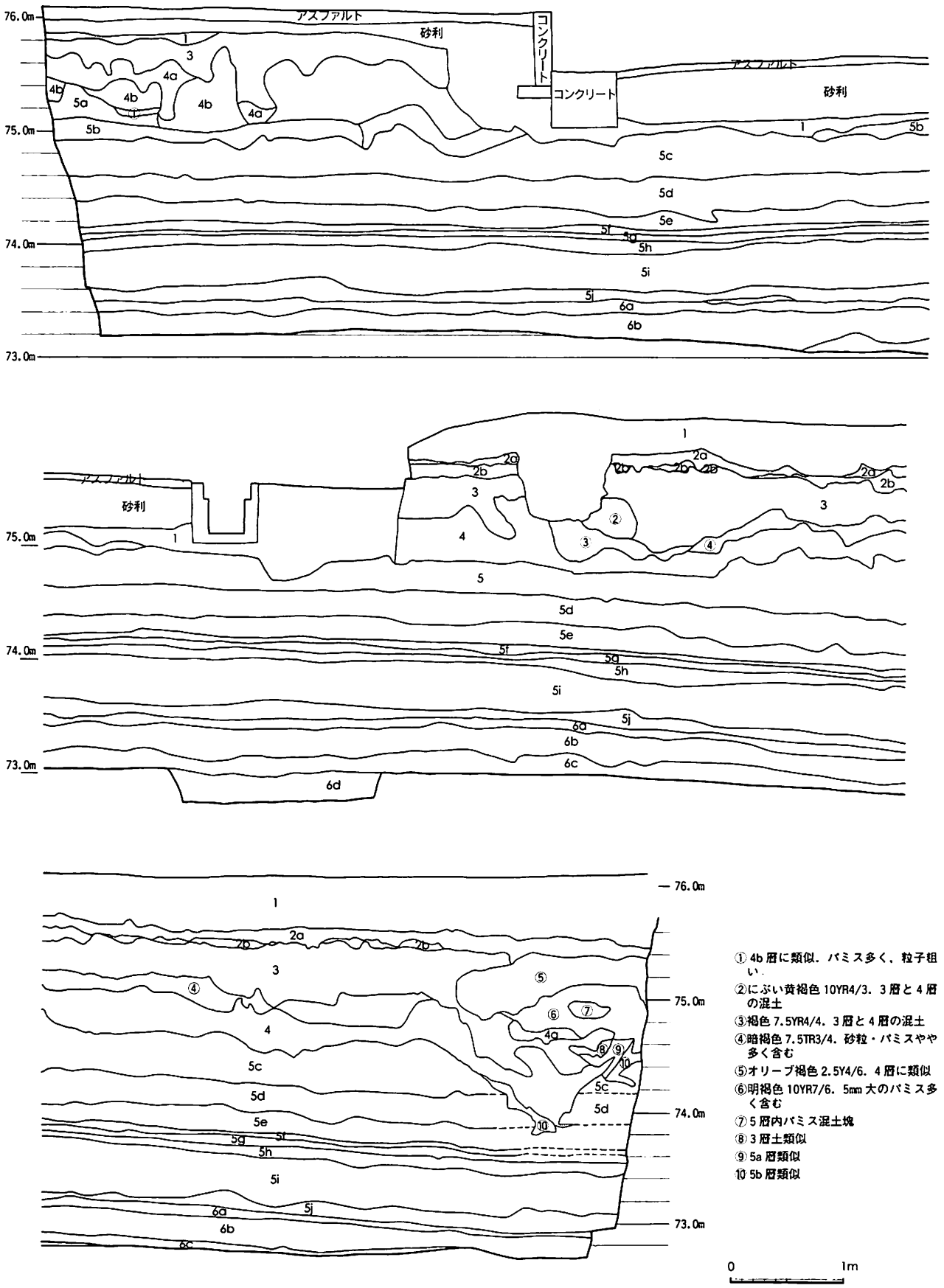


Fig.12　東壁断面(S=1/50)

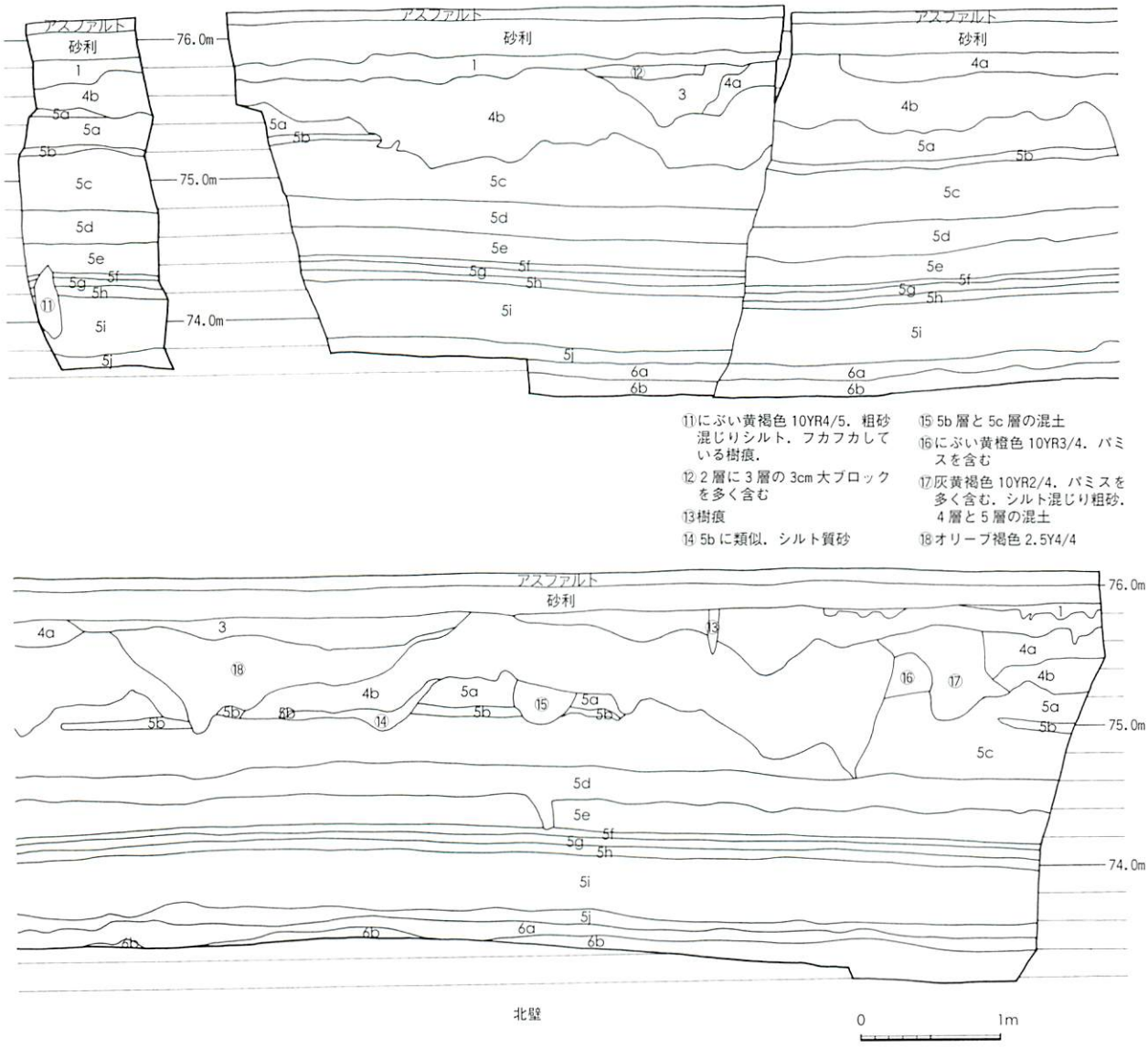


Fig.13　北壁断面(S=1/50)

PL.1　東壁南側

PL.2　北壁東側

Tab. 2　基本土層
遺物包含層は 2 層と 4 層

層序	土層様相	内容物	時期	性格
1層		現代遺物	現代	表土・客土
2a層	黒褐色(10YR2/3)シルト：やや粘性あり柔らかい		弥生時代(前期・中期前半・終末期)	遺物包含層
2b層	黒褐色(2.5Y3/2)シルト：やや粘性あり柔らかい		弥生時代(前期・中期前半・終末期)	遺物包含層
3層	明褐色(7.5YR5/8)シルト質砂：柔らかい	いわゆる「アカホヤ」	約6500年前：喜界アカホヤテフラ(K-Ah)	上面より弥生時代の遺構検出
4層	黒褐色(10YR2/3)シルト質砂	小石や1.2～5mm大のパミス含む	縄文時代早期前葉	遺物包含層：集石遺構(層中)
5a層	黄褐色(10YR6/5)シルト混じり粗砂	細かいパミスを含む。降下小軽石礫層	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5b層	褐色(5YR8/6)砂混じりシルト	下部は粗砂が混じる。水蒸気爆発の降下火山灰	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5c層	明黄褐色(10YR8/6)パミス：堅く締まる	1mm～5cm大のパミス。降下小軽石礫層	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5d層	明褐色(7.5YR6/5)パミス混じりシルト	水蒸気爆発の降下火山灰	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5e層	明黄褐色(10YR8/6)パミス：堅い	ベースサージ。溶岩小礫を含む。粒子の大小あり	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5f層	明黄褐色(10YR6/6)パミス混じりシルト：堅い	水蒸気爆発の降下火山灰	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5g層	黒褐色(10YR2/3)シルト	1mm～2cm大のパミス。降下小軽石礫層	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5h層	黒褐色(10YR6/5)パミス混じりシルト	水蒸気爆発の降下火山灰	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5i層	黄褐色(10YR8/7)シルト	降下小軽石礫層	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
5j層	明黄褐色(10YR8/6)粗砂層	パミス(5cm大以下)を多く含む。降下小軽石礫層	約11500年前：桜島薩摩テフラ(Sz-S)	
6a層	黒褐色(7.5YR1/3)シルト：水分を多く含み粘性あり	いわゆる「チョコ層」	後期旧石器時代～縄文時代草創期	遺物包含層：今回は出土せず
6b層	暗褐色(10YR3/3)シルト：水分を多く含み粘性あり	いわゆる「チョコ層」	後期旧石器時代～縄文時代草創期	
6c層	黒褐色(10YR2/3)シルト：水分を多く含み粘性あり	いわゆる「チョコ層」	後期旧石器時代～縄文時代草創期	
6d層	黒褐色(10YR2/3)シルト：水分を多く含み粘性あり	黄褐色の大小パミスを含む	約22000年前：桜島高峠6/P17テフラ(Sz-Tk6/P17)	

5. 遺構・遺物

5-1.　1 層(表土・撹乱部)の遺物(Fig.14,Tab.3,PL.3 ～ 5)

表土層(1 層)や撹乱層からは，縄文時代・弥生時代・古代の土器，近世の陶磁器が出土した。

1 は，縄文時代早期前葉の前平式の胴部片である。貝殻条痕を地文として，その上からヘラ状工具による文様を施す。その施文は何度もなぞるようにしながら行なわれている。2 は，弥生時代中期の入来Ⅱ式の口縁部，3・4 は，弥生時代の土器胴部片，5 は弥生時代の鉢形土器，6 は，入来Ⅱ式甕の底部である。7 は土師器でロクロ成形によるものである。8 は薩摩焼の鉢である。

Tab. 3　1 層出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
1	撹乱	前平式	深鉢・円筒形	胴部	外面：にぶい黄橙10YR6/4. 内面：にぶい褐7.5YR6/3. 器肉：灰褐10YR4/1.	粗砂：白色粒，黒色粒，石英，砂：白色粒，黒色粒，赤色粒，細砂：白色粒，黒色粒，赤色粒，石英.	3	外面：(―＼)貝殻条痕，(X)ヘラ描条線. 内面：(―)ヘラナデ→(?)ナデ.	胴部の厚さの違いが著しい.
2	撹乱	入来Ⅱ式	壺	口縁部	外面：橙7.5YR7/6. 内面：橙7.5YR6/6. 器肉：にぶい橙7.5YR6/4.	礫：白色粒，粗砂：赤色粒，白色粒，砂：輝石，細砂：黒色粒，石英.	3	口縁上面：(―)刷毛目→(―)ナデ. 口唇・口縁部下面：(―)ナデ. 内面：(?)ナデ；指頭圧痕顕著.	
3	撹乱	中期前半	甕	胴部(多条突帯文)	外面：灰褐7.5YR4/2. 内面：にぶい橙7.5YR6/4. 器肉：灰褐7.5YR4/1.	礫：白色粒，赤色粒，粗砂：白色粒，輝石，砂：石英，輝石，白色粒，細砂：黒色粒，赤色粒，石英.	2	外面：(―)ヘラナデ?→(―)ナデ. 内面：(＼)ナデ.	スス付着.
4	撹乱	中期前半	甕	胴部(3条突帯文)	外面：黒褐7.5YR3/1. 内面：にぶい褐7.5YR5/4. 器肉：にぶい橙7.5YR6/4.	粗砂：赤色粒，白色粒，輝石，砂：赤色粒，石英，細砂：石英，黒色粒.	4	外面：(―)ヘラナデ？→(―)ナデ. 内面：(―)刷毛目→(?)丁寧なナデ.	スス付着.
5	1層	前期-中期前半	鉢	口縁部	外面：褐灰10YR4/1. 内面：にぶい黄橙10YR7/2. 器肉：にぶい橙7.5YR7/4.	粗砂：赤色粒，細砂：石英，赤色粒.	1	外面：(?)磨き→(?)丁寧なナデ. 内面：(?)丁寧なナデ.	
6	1層	入来Ⅱ式	甕	底部(中実脚台)	外面：灰黄褐10YR5/2. 内面：灰褐10YR4/1. 器肉：にぶい赤褐5YR5/4.	礫：黒色粒，白色粒，粗砂：黒色粒，白色粒，雲母，砂：石英，黒雲母，白色粒，細砂：黒色粒，白色粒，石英.	6	外面：(＼)刷毛目→(｜)磨き. 立ち上がり部：(―)ヘラオサエ. 底面：(?)ヘラ削り→(?)磨き.	刷毛目の始点が目立つ. 内底面に炭化物付着. 底径7.6cm
7	撹乱	土師器，ロクロ成形	碗か皿	口縁部	外面・口縁：橙5YR6/6. 内面：橙5YR7/6.　器肉：にぶい黄橙10YR7/4.	細砂：黒色粒，白色粒.	1	外面：(―)ナデ. 口唇部直下にユビオサエによる凹部形成. 内面：(―)ナデ.	細かい擦過.
8	撹乱	薩摩焼(18・19世紀)	鉢	口縁部	外面：黒褐10YR2/2. 内面：灰褐7.5YR4/2. 器肉：黄褐10YR5/6.	礫：黒色粒，白色粒，粗砂：黒色粒，白色粒，砂：石英，細砂：黒色粒，白色粒.	2	外面：(―)刷毛目. 褐釉. 内面：(―)刷毛目.	

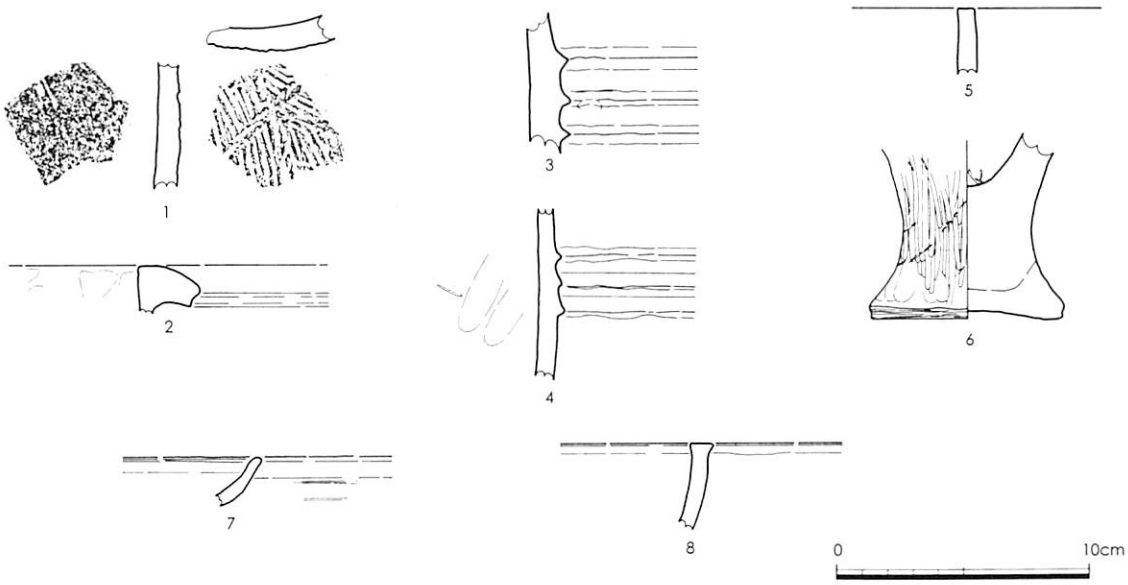
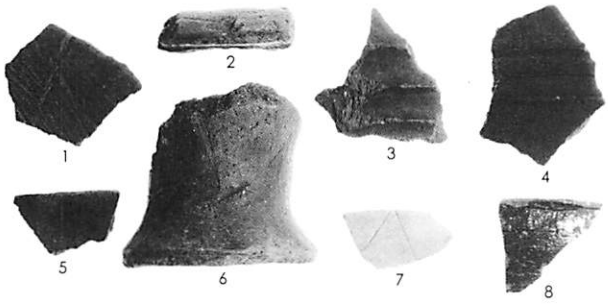


Fig.14　1 層(表土・撹乱部)出土遺物(S=1/3)



PL.3　1 層(表土・撹乱部)出土遺物

PL.4　6 の器面調整
下から上方向へと施された刷毛目調整の始点が確認できる。その後，縦位のヘラミガキを施す。立ち上がり部は，横位にナデられる.

PL.5　表土層除去後の調査区全景(西から)

5-2.　3 層上面検出遺構と遺物(Fig.15,PL.6･7)

調査区南側の 3 層上面で，弥生時代の遺構が検出された。住居跡が 3 棟，溝状遺構が 1 条，その他，ピット群と平面方形の不明土壙である。

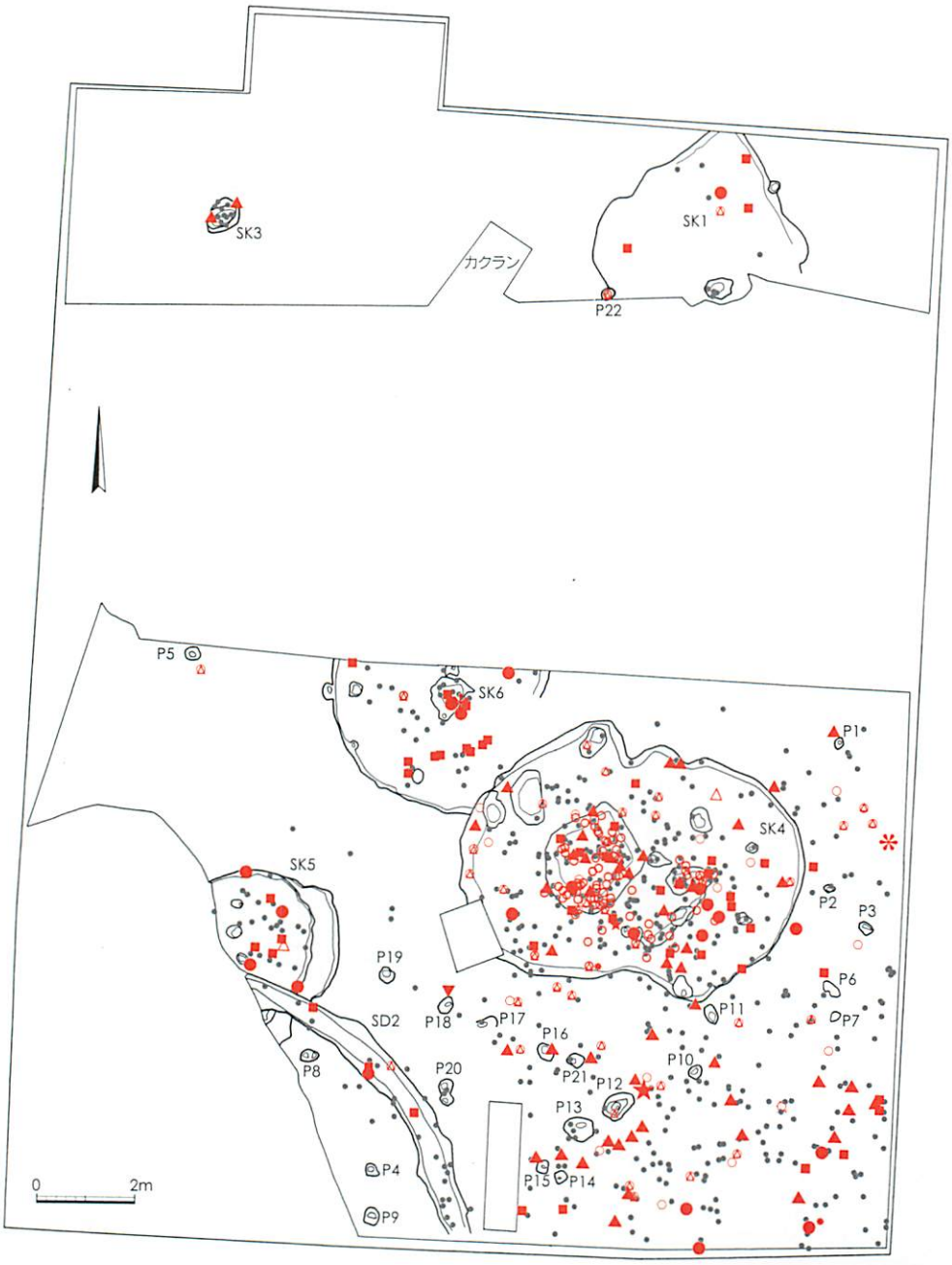


Fig.15　3 層上面
遺構配置･遺物出土状況(S=1/150)
凡例
● 弥生前期土器
✻ 入来 I 式
▲ 入来 II 式
▼ 黒髪式類似
△ 弥生中期前半
■ 弥生前期～中期前半
○ 中津野式
△ 打製石器(石斧･石鏃)
□ 石製紡錘車
• 土師器
★ 陶器
★ 磁器
● 弥生土器

PL.6　3 層上面の遺構検出状況

PL.7　3 層上面の遺構完掘状況(調査区南側)

ピット群(Fig. 16・17, Tab. 4・5, PL. 8・9)

明確なプランを把握することは出来なかった。ピット22からは，弥生時代中期前半の甕脚部(9)が出土している。

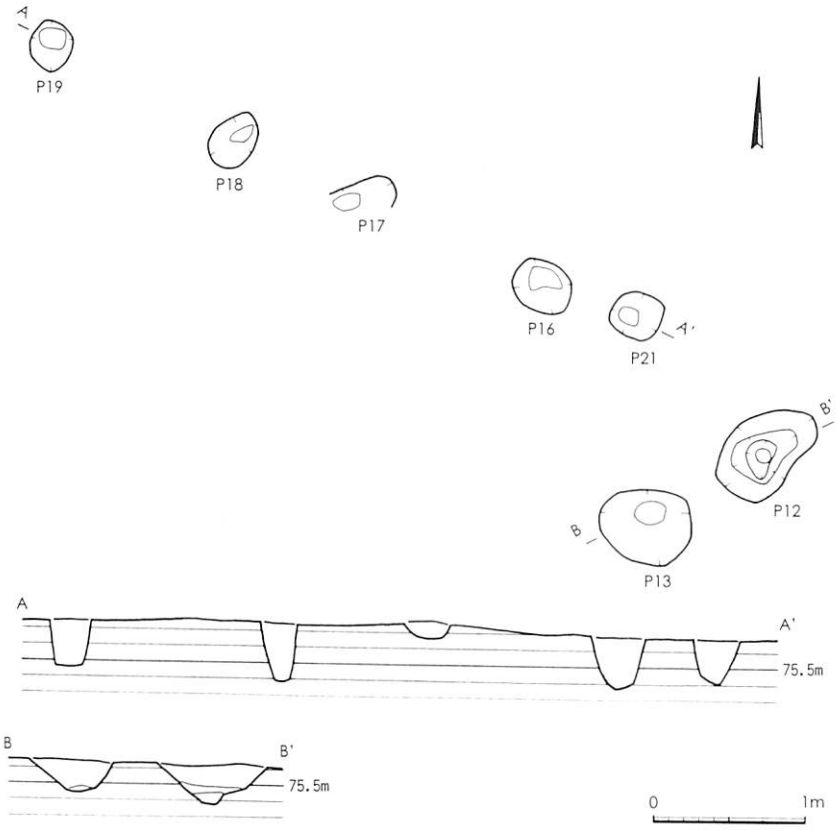


Fig. 16　3 層上面検出ピット(S=1/50)
列状に並んだ部分のみ図化．しかし，明確なプランとは確言できない．

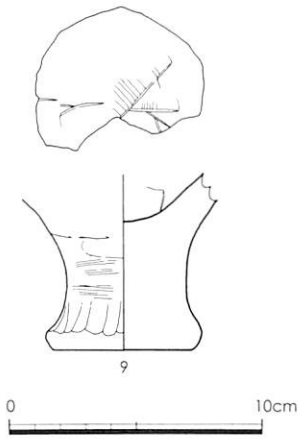
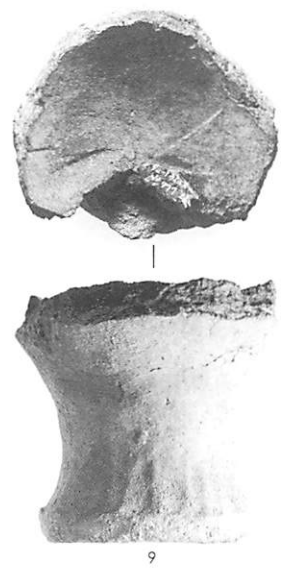


Fig. 17　ピット 22 出土遺物(S=1/3)



PL. 8　ピット 22 出土遺物
内底面は反時計回りに，刷毛目調整の始点が認められる．その後，丁寧にナデられる．底部外面は，縦位の刷毛目調整の後，立ち上がり部を縦位に，その上部は横位にナデられる．

Tab. 4　ピットサイズ一覧

遺構	検出面	埋土	平面形	平面サイズ(cm)	深さ(cm)
P1	3	黒褐色シルト	楕円形	22.5-26.2	41.5
P2	3	黒褐色シルト	楕円形	23.3-19.6	6.4
P3	3	黒褐色シルト	楕円形	27.8-17.2	6.1
P4	3	黒褐色シルト	楕円形	34.2-29.3	15.7
P5	3	黒褐色シルト	円形	32.1-31	36.6
P6	3	黒褐色シルト	楕円形？	45.7?-23.2?	5.5
P7	3	黒褐色シルト	楕円形	27.2?-19.8	-
P8	3	黒褐色シルト	楕円形	36.8-25.3	39.4
P9	3	黒褐色シルト	楕円形	31.5-29	13
P10	3	黒褐色シルト	楕円形	30.4-21.7	8.8
P11	3	黒褐色シルト	楕円形	45.1-24.3	9.4
P12	3	黒褐色シルト	楕円形	73.3-46.4	28
P13	3	黒褐色シルト	円形	56.5	22
P14	3	黒褐色シルト	楕円形	29.3-23.0	18.2
P15	3	黒褐色シルト	円形	31-29.4	22.6
P16	3	黒褐色シルト	楕円形	40.2-34	28.4
P17	3	黒褐色シルト	楕円形？	22?	11.6
P18	3	黒褐色シルト	楕円形	39.9-28.8	38.2
P19	3	黒褐色シルト	楕円形	33.2-29.2	30.4
P20	3	黒褐色シルト	楕円形	57.7-20	25
P21	3	黒褐色シルト	円形	32.4	28.4
P22	3	黒褐色シルト	楕円形	29-19.8	17

PL. 9　ピット 22 内土器出土状況
横倒しになり，脚部のみ出土．

Tab. 5　ピット 22 出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
9	ピット22	中期前半	甕	底部(中実脚台)	外面:にぶい黄2.5Y6/4.内面・器肉:暗灰黄2.5Y4/2.	粗砂:赤色粒,白色粒,砂:黒色粒,細砂:黒色粒.	4	外面:(｜)刷毛目→(—｜)ナデ.内底面:(—)反時計周りの刷毛目→(—)ナデ.外底面:(?)ヘラナデ?	底径5.2cm

1 号溝(SD2)(Fig. 18・19, Tab. 6・7, PL. 10 ~ 13)

調査区南側中央部に，ほぼ北西－南東方向に弧状に延びるが，調査区西側の撹乱のため破壊されており，全形は不明である。確認可能な南端部は，調査区の南に延びている。断面形がほぼ台形を呈する。出土遺物が少なく，帰属する時期は確定できないが，埋土は黒褐色(2.5Y3/1)シルトで堅く締まっている。埋土中からは，弥生時代前期の甕(10)や，弥生前期～中期前半段階の壺(11・12)が確認される。SK5 の弥生時代前期の住居を切っている。

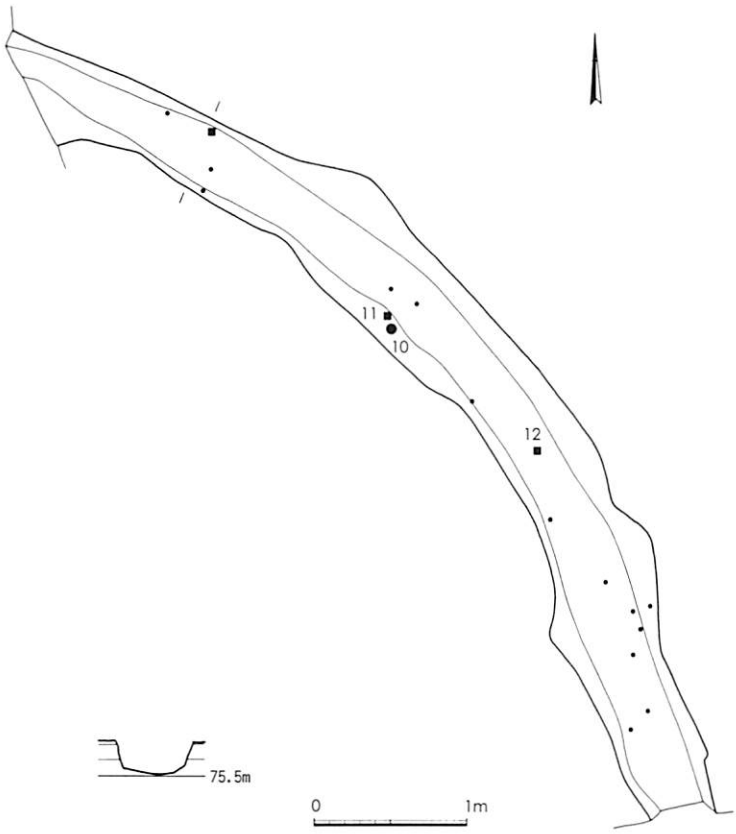
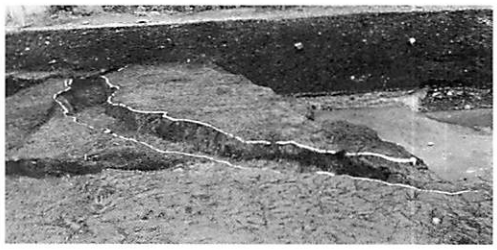


Fig. 18　1 号溝(SD2)(S=1/50)
凡例　●弥生前期，■弥生前期～中期前半，●弥生土器.

PL. 10　1 号溝(SD2)遺物出土状況



PL. 11　1 号溝(SD2)完掘状況

PL. 12　1 号溝(SD2)埋土断面

Tab. 6　1 号溝(SD2)サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
溝1(SD2)	Fig. 18	弧状	－	－	20-30	性格不明 ＊幅44-70cm

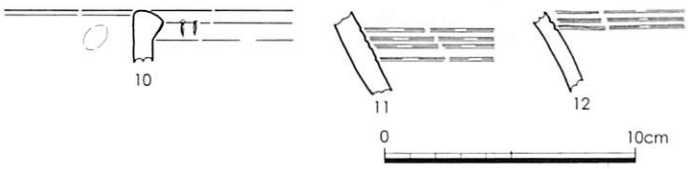


Fig. 19　1 号溝(SD2)出土遺物(S=1/3)

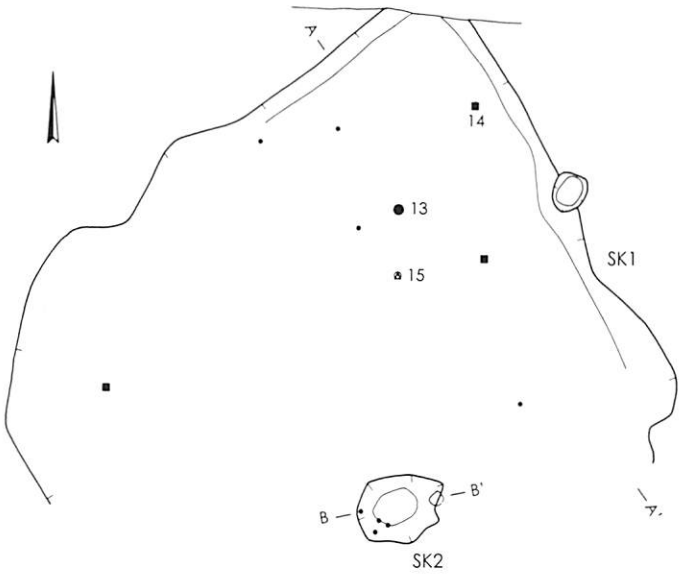
PL. 13　1 号溝(SD2)出土遺物

Tab. 7　1 号溝(SD2)出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
10	溝1(SD2)	前期	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面･器肉:にぶい黄橙10YR7/3. 内面:にぶい黄橙10YR6/3.	粗砂:石英, チャート. 細砂:白色粒, 赤色粒, 石英.	3	外面:(—)ナデ. 内面:(—)ナデ･指頭圧痕.	
11	溝1(SD2)	前期-中期前半	壺	胴部(4条平行沈線文)	外面･器肉:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:にぶい黄橙10YR7/4.	粗砂:黒色粒, 赤色粒, 砂:白色粒, 赤色粒, 黒色粒, 細砂:白色粒, 赤色粒, 黒色粒, 石英.	3	外面:(—)ナデ. 内面:(—)ナデ.	
12	溝1(SD2)	前期-中期前半	壺	胴部(多条平行沈線文)	外面･器肉:にぶい橙7.5YR6/4. 内面:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:白色粒, 粗砂:石英, 砂:白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 石英.	2	外面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ. 内面:(ナデ).	

土壙 1(SK1)・土壙 2(SK2)(Fig. 20・21, Tab. 8 ~ 10, PL. 14 ~ 18)

調査区北側は，3 層直上まで桜ヶ丘団地造成時の掘削が及んでいるため，遺構の残りは悪かった。埋土の違いは分かったが，残存状況からは，土壙 2 との明確な切り合い関係を導くことは困難であった。北側隅をみる限り方形状に落ち込むが，性格は不明である。埋土は，上部が暗褐色(10YR3/3)シルトで黄色パミスを含み，比較的柔らかい。他の遺構とは埋土の色調などが異なるため，弥生時代の遺構と確言できない。下部は黄褐色(10YR5/6 シルト)を基調とし，上部土との混土である。他の住居の埋土とは異なる。埋土中からは，口縁部直下に二条の突帯を巡らす前期甕(13)と，工字状突帯破片(14)，中期前半段階のいわゆる絡縄突帯甕の胴部破片(15)が出土した。土壙 2 は，断面形が擂鉢状を呈する。その性格は不明である。埋土は，暗褐色(10YR3/4)砂質シルトで，炭化粒を多く含む。埋土中からは，弥生土器胴部小破片が出土した。



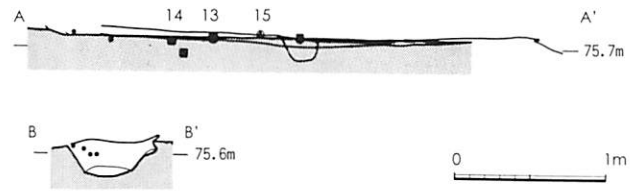
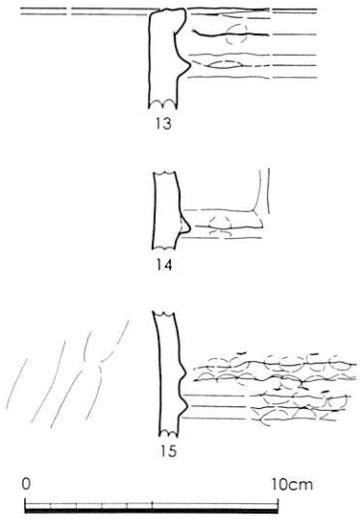
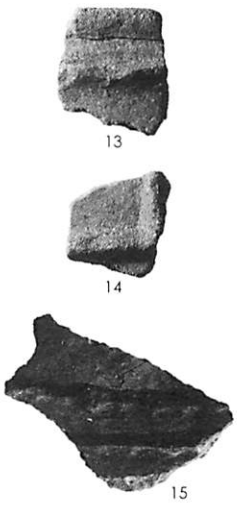


Fig. 20　土壙 1(SK1)・土壙 2(SK2)(S=1/50)
凡例　●弥生前期，△弥生中期前半，■弥生前期～中期前半，弥生土器



PL. 21　土壙 1(SK1)出土遺物(S=1/3)



PL. 14　土壙 1(SK1)出土遺物

Tab. 8　土壙 1(SK1)サイズ

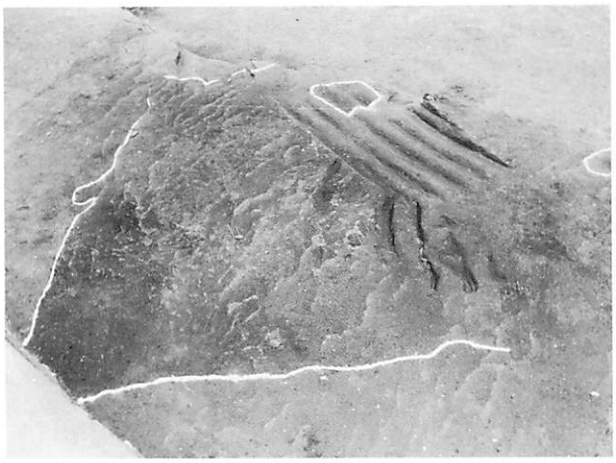
遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
土壙1(SK1)	Fig. 20	方形	(4. 0)	(3. 6)	2-10	性格不明・土壙2との新旧関係不明

Tab. 9　土壙 2(SK2)サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
土壙2(SK2)	Fig. 20	楕円形	0. 6	0. 44	22-24	性格不明・土壙1との新旧関係不明

Tab. 10　土壙 1(SK1)出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
13	土壙1(SK1)	前期後半	甕	口縁部(2条突帯文)	外面:にぶい赤褐5YR5/3. 内面:明赤褐2. 5YR5/6. 器肉:赤灰2. 5YR4/1.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 砂:白色粒, 輝石, 細砂:白色粒, 黒色粒, 石英.	3	内外面:(—)ナデ.	口縁接合部位明瞭.
14	土壙1(SK1)	前期後半	甕	胴部(工字状突帯文)	外面:にぶい赤褐5YR4/4. 内面:にぶい黄褐10YR5/4. 器肉:灰黄褐10YR5/2.	砂:白色粒, 輝石, 石英.	4	内外面:(—)ナデ.	
15	土壙1(SK1)	中期前半	甕	胴部(多条の絡縄突帯文)	外面:橙7. 5YR6/6. 内面:明赤褐5YR5/6. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:黒色粒, 赤色粒, 砂:白色粒, 石英, 輝石, 細砂:黒色粒, 石英.	2	外面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ. 内面:(—)ナデ・指頭圧痕.	



PL.15　土壙 1(SK1)・土壙 2(SK2)検出状況

PL.17　土壙 1(SK1)完掘状況

PL.18　土壙 2(SK2)完掘状況

PL.16　土壙 1(SK1)・土壙 2(SK2)遺物出土状況

土壙 3(SK3)(Fig. 22・23, Tab. 11・12, PL. 19)

1 号溝，土壙 1・2 と同様に，残存状況が悪い。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトで，1cm 大の炭化粒を含む。埋土 2 層からは，入来Ⅱ式甕(16・17)が出土したほか，小破片が数点出土している。

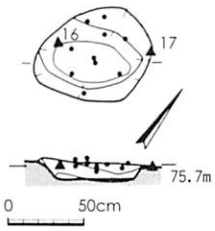


Fig. 22　土壙(SK3)(S=1/50)

凡例
▲入来Ⅱ式
● 弥生土器

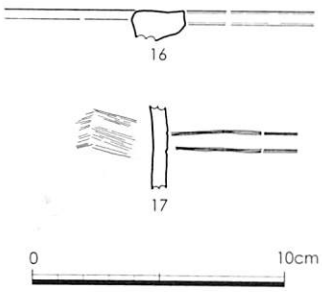


Fig. 23　土壙 3(SK3)出土遺物(S=1/3)

Tab. 11　土壙 3(SK3)サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
土壙3(SK3)	Fig. 22	不定形	0.76	0.6	10	性格不明

PL. 19　土壙 3(SK3)出土遺物

Tab. 12　土壙 3(SK3)出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
16	土壙3(SK3)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:にぶい褐7.5YR6/3.	礫:白色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 石英.	2	口縁部:(—)ナデ.	
17	土壙3(SK3)	入来Ⅱ式	甕	胴部(2条平行沈線文)	外面:灰褐7.5YR4/1. 内面:にぶい褐7.5YR5/3. 器肉:にぶい褐7.5YR5/4.	粗砂:石英, 砂:黒色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	2	外面:(—)ヘラ磨き. 内面:(＼)刷毛目(?)ナデ.	スス付着

1a・b号住居跡(SK4)(Fig.24～26, Tab.13～17, PL.20～28)

中央部やや西よりに径約2m，深さ約50cmの落ち込みを持つ。遺構内にピットが13基認められ，深浅ある。特にピットE･Iは掘り込みが深くしっかりしており，住居に伴う柱穴と認定してよさそうである。

遺物は，同遺構西側では，中津野式(33～41)が中央土壙床上面や埋土から比較的多く出土するが，口縁部による個体数判別は2個体ほどと考えられる。その他，石製紡錘車(42)も出土している。その他埋土には，やや浮くような状況で，入来Ⅱ式が出土し(21～27･30)や櫛描波状文をもつ壷(31)，弥生前期の土器(18～20)も若干認められる。東側では中津野式は少なく，弥生前期の土器(43～45)が床面にはりつくような状況で出土する。その他，打製石鏃(48)も埋土中から出土している。この住居跡の平面形がくびれをもつ楕円形であること，東西で僅かに深さが異なること，遺構南東部に段状の落ち込みがあること，出土遺物の分布状況などから，東側の弥生

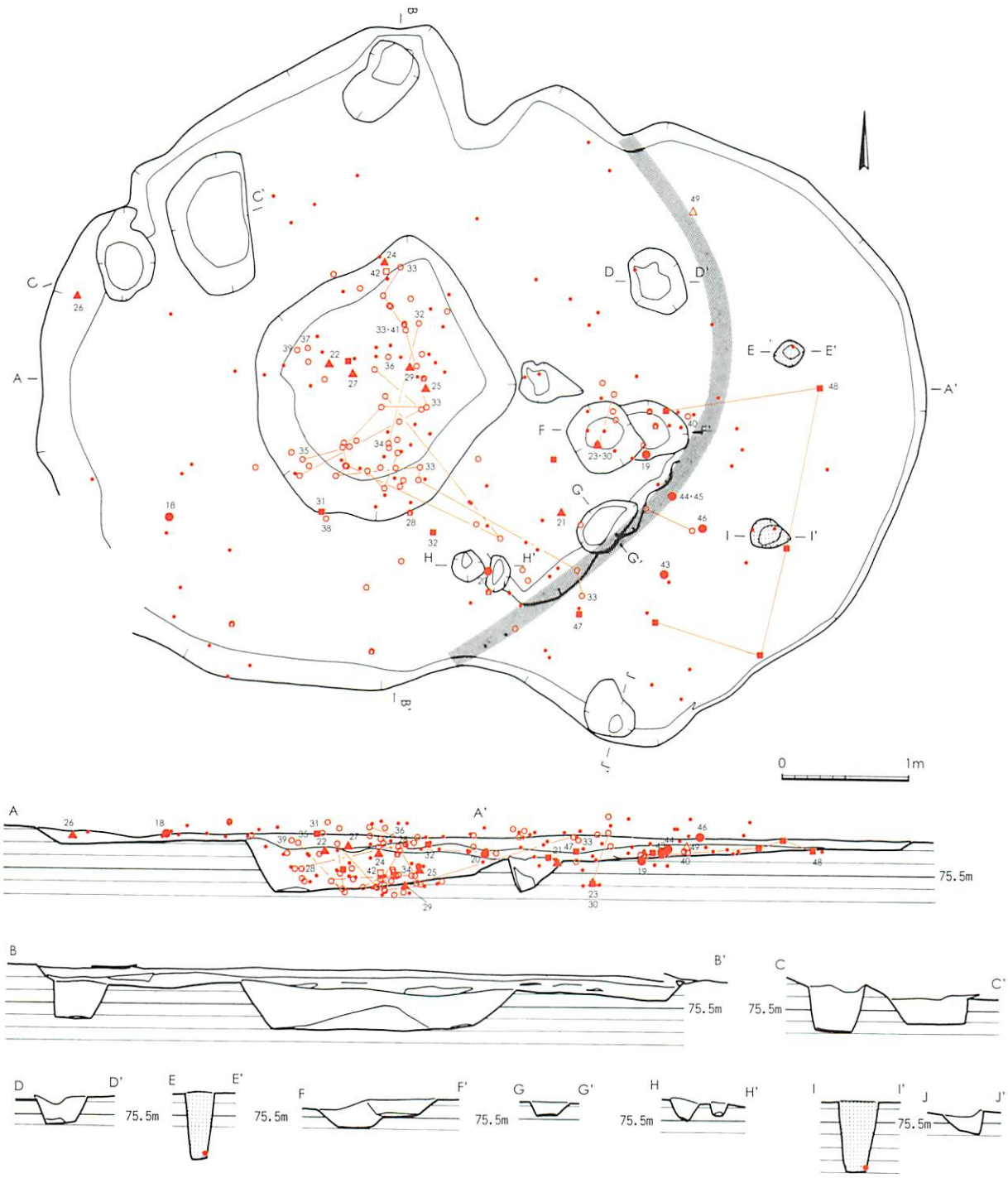


Fig.24　1a号(SK4a)･1b号(SK4b)住居跡(S=1/50)
凡例　●弥生前期，▲入来Ⅱ式，　弥生中期前半，■弥生前期～弥生中期前半，○中津野式，•弥生土器，△打製石鏃，□石製紡錘車．

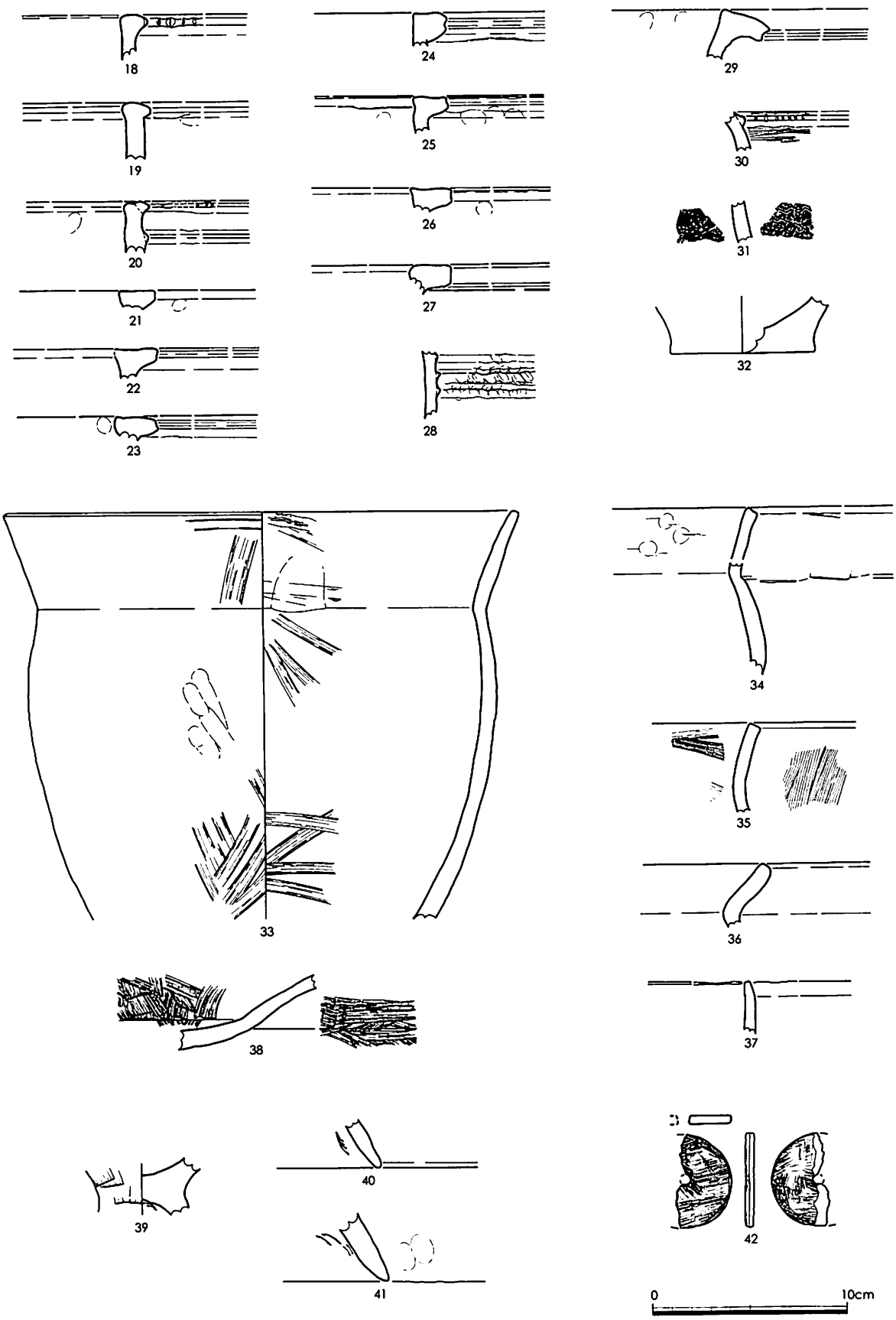
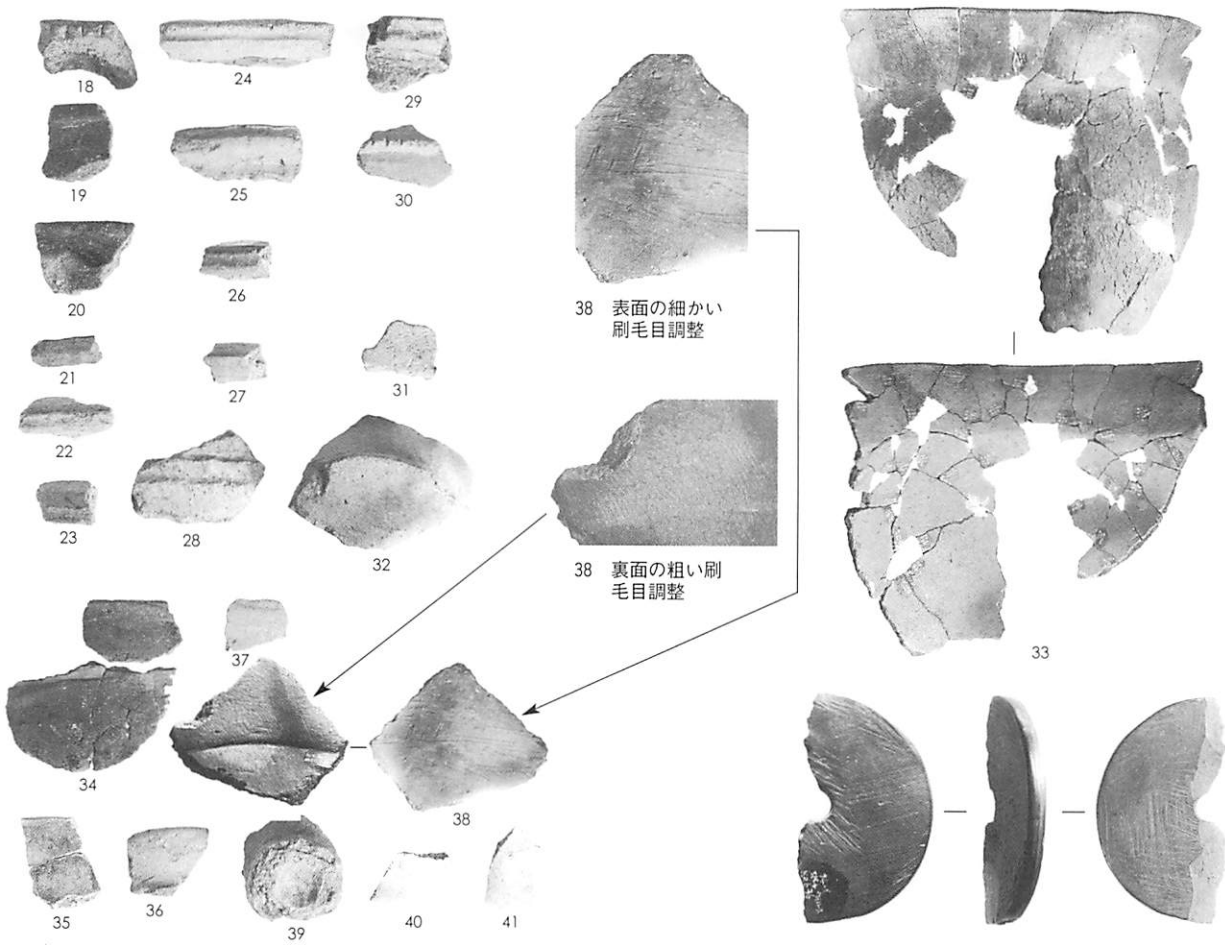


Fig. 25　1a 号(SK4a)住居跡出土遺物(S=1/3)



PL.20　1a 号(SK4a)住居跡出土遺物

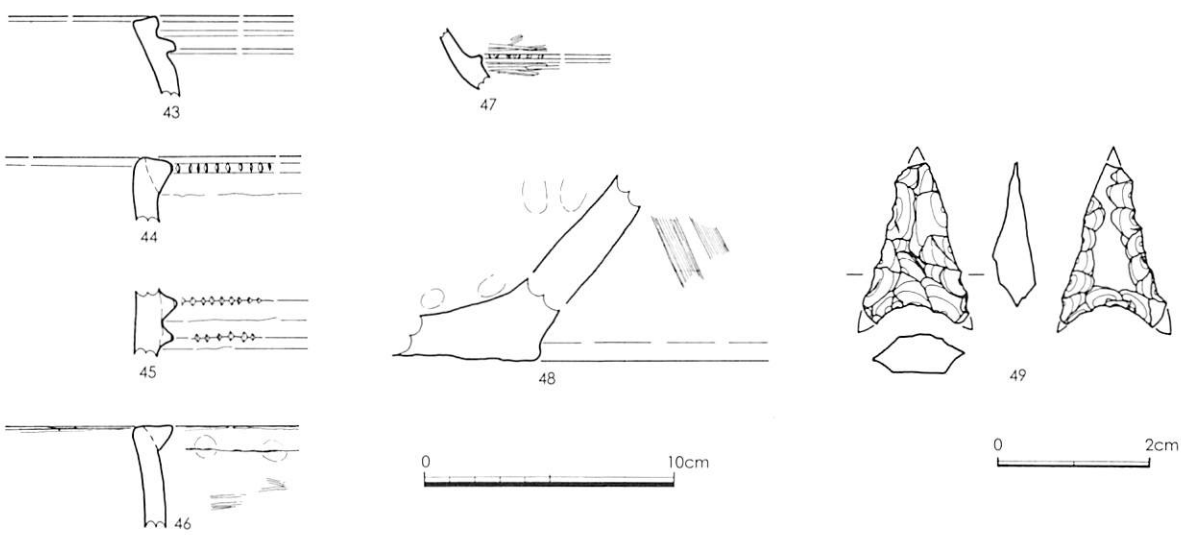
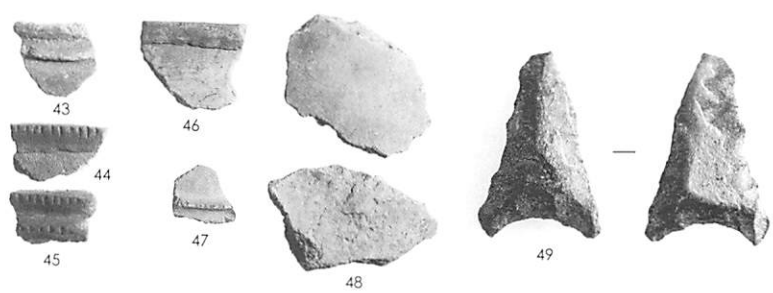
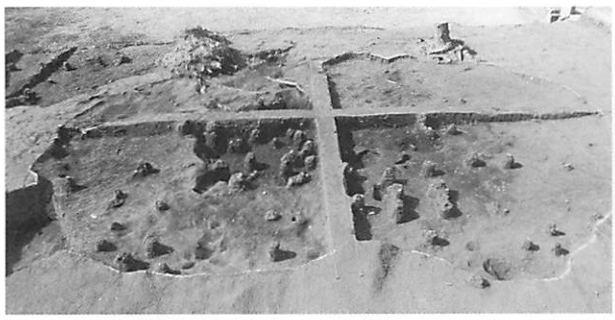


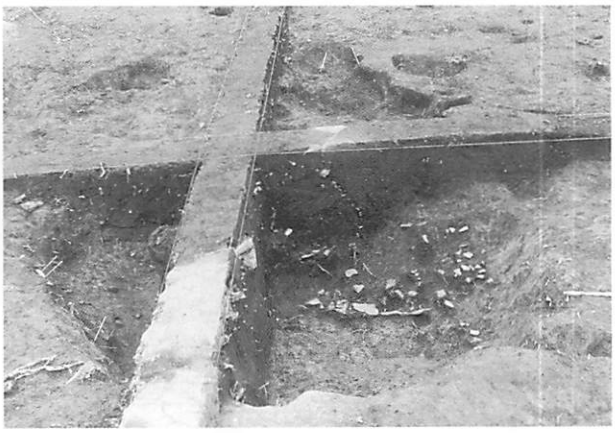
Fig.26　1b 号(SK4b)住居跡
出土遺物(S=1/3, 49 のみ S=1/1)



PL.21　1b 号(SK4b)住居跡出土遺物



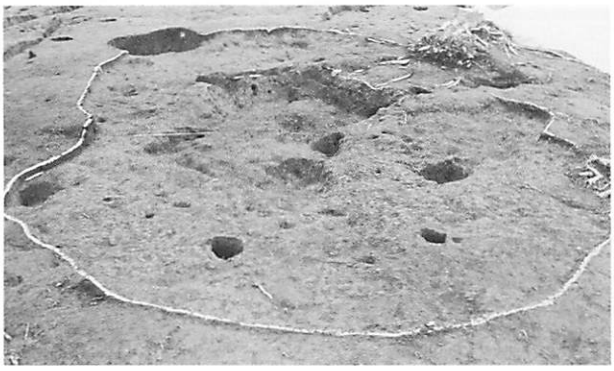
PL. 22　1a 号(SK4a)・1b 号(SK4b)住居跡遺物出土状況



PL. 23　1a 号(SK4a)住居跡中央ピット内遺物出土状況

PL. 24　1a 号(SK4a)住居跡中央ピット内紡錘車出土状況

PL. 25　1a 号(SK4a)住居跡中央ピット内完掘状況



PL. 26　1a 号(SK4a)住居跡完掘状況

PL. 27　1a 号(SK4a)・1b 号(SK4b)住居跡完掘状況

Tab. 13　1a 号(SK4a)・1b 号(SK4b)住居跡サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
1a号住居跡(SK4a)	Fig. 24	円形	(5. 17)	(5. 17)	26-46	SK4 b を切る ＊中央土壙深24-79cm
1b号住居跡(SK4b)	Fig. 24	円形	(4. 93)	(4. 93)	(14-20)	SK4aに切られる

Tab. 14　1a 号(SK4a)住居跡出土紡錘車観察

No.	出土地点	材質	径(cm)	厚さ(cm)	孔最大径(cm)	孔最小径(cm)	重量(g)	備考
42	1a号住居跡(SK4a)中央土壙	ホルンフェルス化した頁岩	5	0. 4～0. 5	0. 7	0. 5	8. 87	縦横に粗い研磨痕

Tab. 15　1b 号(SK4b)住居跡出土土器観察

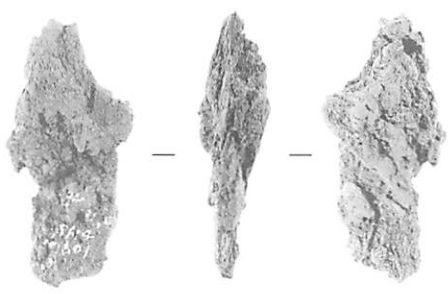
No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
43	1b号住居跡(SK4b)	前期後半	鉢	口縁部(2条突帯文)	内外面・器肉:にぶい褐7. 5YR5/4.	礫:赤色粒, チャート, 粗砂:赤色粒, チャート, 砂:輝石, チャート, 白色粒, 細砂:黒色粒, チャート.	6	外面:(—)ナデ. 内面:不明.	
44	1b号住居跡(SK4b)	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面:にぶい橙7. 5YR5/3. 内面:橙7. 5YR6/4. 器肉:橙7. 5YR7/6.	礫:赤色粒, 粗砂:赤色粒, 輝石, 砂:チャート, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	5	内外面:(—)ナデ.	口縁接合部位明瞭. 45と同一個体
45	1a号住居跡(SK4b)	前期後半-中期前半	甕	胴部(多条刻目突帯文)	内外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい橙7. 5YR6/4. スス部:灰褐7. 5YR4/2.	礫:赤色粒, 粗砂:赤色粒, 砂:赤色粒, チャート, 細砂:黒色粒, チャート.	4	突帯部:(—)ナデ. 内面:(?)ナデ.	44と同一個体
46	1b号住居跡(SK4b)	前期後半	甕	口縁部(突帯文)	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:明赤褐5YR5/6. スス部:灰褐5YR4/2. 器肉:にぶい赤褐5YR5/4. スス部:灰褐5YR4/2.	粗砂:赤色粒, チャート, 砂:輝石, 赤色粒, チャート, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	5	外面・口縁:(—)ヘラ磨き→(?)ナデ. 内面:(?)丁寧なナデ.	
47	1b号住居跡(SK4b)	前期後半-中期前半	壺	胴部(小刻目突帯文)	外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 内面:浅黄2. 5YR7/4. 器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	礫:赤色粒, 粗砂:石英, 砂:チャート, 細砂:黒色粒, チャート.	2	外面:(—)ヘラ磨き. 内面:(—)ヘラナデ.	30と同一個体の可能性あり.
48	1b号住居跡(SK4b)	前期後半-中期前半	壺	底部(平底)	外面:にぶい褐7. 5YR5/3. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:灰褐5YR4/2.	礫:赤色粒, チャート, 粗砂:赤色粒, チャート, 黒色粒, 石英, 砂:輝石, チャート, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	8	外面:(＼)刷毛目→(?)ナデ. 内面:ナデ?・指頭圧痕.	

Tab. 16　1a 号(SK4a)住居跡出土土器観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
18	1a号住居跡(SK4a)	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	内外面:にぶい黄橙10YR6/3. 器肉:灰黄褐10YR4/2. 一部:にぶい黄褐10YR5/3.	粗砂:チャート, 石英, 砂:チャート, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	4	口縁部:(—)ナデ.	
19	1a号住居跡(SK4a)	前期後半	甕	口縁部(突帯文)	外面:黒褐5YR3/1. 内面:にぶい黄褐5YR4/3. 器肉:にぶい黄褐5YR4/3.	礫:赤色粒, 粗砂:チャート, 砂:チャート, 輝石, 細砂:チャート, 輝石, 石英.	4	口縁部:(—)ナデ.	スス付着.
20	1a号住居跡(SK4a)	前期後半	甕	口縁部(2条突帯文)	外面:にぶい黄褐10YR5/3. 内面:黒褐10YR3/2. 器肉:にぶい褐7. 5YR5/4.	礫:チャート, 赤色粒, 粗砂:チャート, 輝石, 砂:チャート, 石英, 細砂:石英.	4	口縁部:(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
21	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:灰褐7. 5YR4/2. 内面・器肉:にぶい褐7. 5YR5/4.	粗砂:赤色粒, 輝石, 砂:赤色粒, 輝石, 細砂:黒色粒.	3	口縁部:(—)ナデ.	
22	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR5/4. 内面・器肉:明黄褐10YR7/6.	砂:赤色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	3	口縁部:(—)ナデ.	
23	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面・器肉:にぶい褐7. 5YR5/3. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4.	粗砂:赤色粒, 砂:輝石, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	3	口縁部:(—)ナデ.	
24	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	小型甕?	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい橙10YR6/4. 器肉:暗灰黄2. 5Y5/2.	礫:チャート, 粗砂:赤色粒, 黒雲母, 細砂:黒色粒, 石英.	4	口縁部:(—)ナデ.	口縁接合部位明瞭.
25	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:橙7. 5YR6/6. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい褐7. 5YR6/3.	礫:チャート, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	2	口縁部:(—)ナデ.	
26	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい褐7. 5YR5/3. 内面・器肉:にぶい橙7. 5YR6/4.	礫:赤色粒, 粗砂:黒色粒, チャート, 砂:輝石, 赤色粒, 細砂:黒色粒.	3	口縁部:(—)ナデ.	
27	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい褐7. 5YR6/3.	粗砂:チャート, 砂:黒色粒, チャート, 細砂:黒色粒.	3	口縁部:(—)ナデ.	
28	1a号住居跡(SK4a)	中期前半	甕?	胴部(多条絡縄突帯文)	外面:にぶい黄橙10YR6/3. 内面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	砂:チャート, 輝石, 細砂:黒色粒, チャート.	3	内外面:(?)ナデ.	
29	1a号住居跡(SK4a)	入来Ⅱ式	壺	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR6/3. 内面:灰黄褐10YR6/2. 器肉:にぶい灰黄褐10YR5/2.	礫:赤色粒, 粗砂:赤色粒, チャート, 砂:輝石, 赤色粒, 細砂:黒色粒.	2	外面:(｜)粗い刷毛目. 内面・口縁部:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	
30	1a号住居跡(SK4a)	前期-中期前半	壺	胴部(刻目突帯文)	内外面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗:チャート, 黒色粒, 砂:赤色粒, チャート, 細砂:黒ウンモ,, 黒色粒.	3	外面:(—)ヘラ磨き. 内面:(—)丁寧なナデ.	47と同一個体の可能性あり.
31	1a号住居跡(SK4a)	中期前半?	壺	胴部(櫛描波状文)	内外面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:チャート, 砂:輝石, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	3	内外面:(?)ナデ.	121・122と同一個体の可能性あり.
32	1a号住居跡(SK4a)	前期後半-中期前半	壺	底部(平底)	内外面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:石英, 砂:赤色粒, 輝石, 細砂:赤色粒, 黒色粒, 石英.	3	内外面・外底面:(?)丁寧なナデ.	底径(7. 4)cm.
33	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	口縁部-胴部	外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:褐灰7. 5YR4/1.	粗砂:白色粒, 赤色粒, 砂:チャート, 細砂:黒色粒.	4	外面:口縁上部:(—)刷毛目→(—)ナデ. 口縁下部(｜)刷毛目→(—)丁寧なナデ. 胴部:(｜＼)刷毛目→(｜)ナデ. 内面:口縁;(—)刷毛目→(—)丁寧なナデ. 胴部上半;(—＼)丁寧なナデ. 胴部下半;(—＼／)丁寧なナデ.	スス付着. 口径(26)cm.
34	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	口縁部	外面:黒褐10YR3/2. 内面:にぶい黄褐10YR5/4. 器肉:暗灰黄2. 5YR4/2.	礫:チャート, 粗砂:赤色粒, 石英, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	5	外面:口縁;(—)刷毛目→(—)ナデ. 胴部:(?)ナデ. 内面:口縁;(—)刷毛目→(—)ナデ. 胴部;(?)ナデ.	スス付着.
35	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	口縁部	外面:橙7. 5YR6/6. 内面:橙7. 5YR7/6. 器肉:にぶい橙7. 5YR7/4.	粗砂:チャート, 赤色粒, 砂:チャート, 輝石, 石英, 細砂:チャート, 輝石.	3	外面:(｜)刷毛目→(?)ナデ. 口縁;(—)ナデ. 口唇:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	スス付着.
36	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	小型甕?	口縁部	外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉中心:褐灰7. 5YR5/1.	礫:赤色粒, 砂:赤色粒, チャート, 細砂:黒色粒, 石英.	3	外面:(—)刷毛目→(?)ナデ. 内面:(—)刷毛目→(?)ナデ→(｜)刷毛目?.	
37	1a号住居跡(SK4a)	中津野式?	鉢	口縁部	外面・器肉:にぶい橙7. 5YR6/4. 内面:橙7. 5YR6/6.	砂:赤色粒, チャート, 砂:赤色粒, 細砂:黒色粒.	3	内外面:(—)ナデ.	口唇が歪む.
38	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	高杯	坏・屈曲部	外面:にぶい黄褐10YR5/3. 内面:にぶい黄橙10YR6/4. スス部:褐灰10YR4/1. 器肉:褐灰10YR4/1.	礫:チャート, 赤色粒, 粗砂:黒色粒, 石英, 砂:赤色粒, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	4	外面:(—)刷毛目→(?)ナデ. 内面:(｜＼)刷毛目→(?)ナデ.	内面タール状の黒色物質付着.
39	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	底部(中空脚台)	外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 底部内:黒褐7. 5YR3/1. 器肉:褐灰7. 5YR4/1. スス部:灰褐7. 5YR4/1.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:チャート, 砂:赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	7	外面:(＼)刷毛目→(?)ナデ. 内面:不明.	内面スス付着.
40	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	底部(中空脚台)	内外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい褐7. 5YR6/3.	粗砂:赤色粒, 砂:チャート, 細砂:黒色粒.	4	外面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面(—)ナデ. 部分的に刷毛目の始点あり.	
41	1a号住居跡(SK4a)	中津野式	甕	底部(中空脚台)	外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 内面:灰褐7. 5YR4/2. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:チャート, 白色粒, 砂:チャート, 細砂:黒色粒.	5	外面:(?)ナデ・指頭圧痕. 内面:(＼)刷毛目→(｜—)ナデ.	

Tab. 17　1b 号(SK4b)住居跡出土石鏃観察

No.	出土地点	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
48	1b号住居跡(SK4b)埋土	細粒砂岩	2. 2	1. 4	0. 5	0. 92	自然面残す部分あり

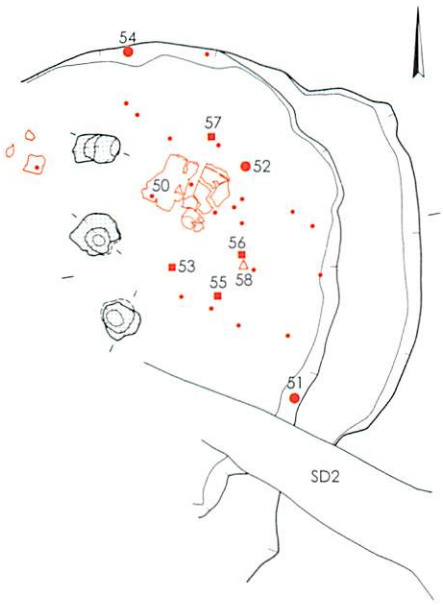


PL. 28　1a 号(SK4a)住居跡中央ピット内出土鉄片
1. 2cm 幅, 厚さ 0. 2cm ほどの鉄片が錆膨れしたものである.

前期の住居を西側の終末期(中津野式)の住居が切っている関係にある, と判断されるのではないだろうか。ここで, 西側の新しい住居を 1a 号(SK4a), 東側の古い住居を 1b 号(SK4b)としておく。1a 号の中央ピットの埋土中から鉄片も出土したが, 製品であるか否かの判断がつきにくかった(PL. 28)。発掘時には 2 つの住居や中央土壙とも埋土は区別がつかず, 黒褐色(10YR2/2)シルトで, パサついた埋土であった。

2 号住居跡(SK5)(Fig. 27 ~ 29, Tab. 18 ~ 20, PL. 29 ~ 34)

平面形はほぼ円形を呈すると推定されるが，撹乱によって西半部は破壊されている。東側に方形の浅い段を有する。遺構内にピットが 3 基認められる。比較的深くしっかりしたピットであり，住居に付随する柱穴であると判断される。この住居跡は，SD2 に切られている。また，遺構中央部やや北よりに，弥生時代前期の甕形土器が出土した(50)。この土器は，口縁部を打ち欠かれており，さらに縦半分に割りとられている。しかし，復元すると，土器の大半が欠失した状況であり，住居内埋土から



PL. 29　2 号住居跡(SK5)遺物出土状況

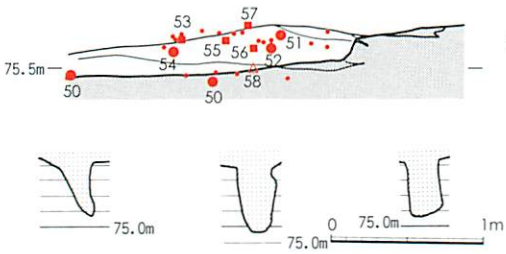


Fig. 27　2 号(SK5)住居跡 (S=1/50)

凡例　●弥生前期
■弥生前期～中期前半
●弥生土器
△打製石斧

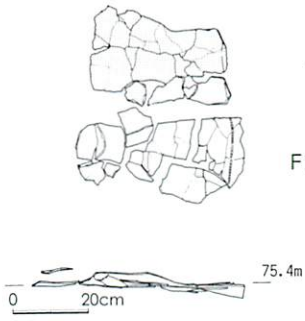
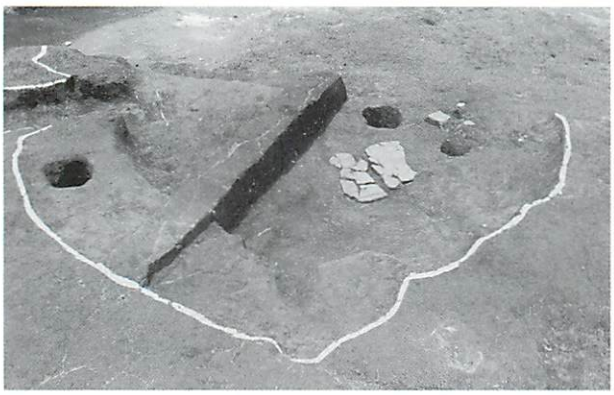
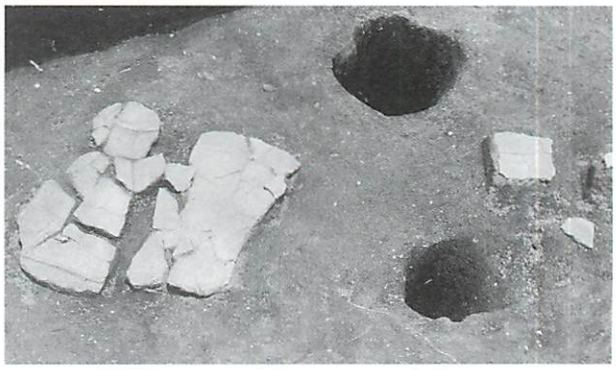


Fig. 28　2 号(SK5)住居跡床面出土土器(50) (S=1/20)

網掛けは，裏面を表す.



PL. 30　2 号住居跡(SK5)床面出土土器(50)(I)



PL. 31　2 号住居跡(SK5)床面出土土器(50)(II)

Tab. 18　2 号住居跡(SK5)サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
2号住居跡(SK5)	Fig. 27	円形	3.53	(2.42)	22-34	SD2に切られる･西半分は撹乱により消失

Tab.19　2 号住居跡(SK5)出土土器観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
50	2号住居跡(SK5)	前期後半	甕	胴部(1条刻目突帯文)-底部(平底)	外面:暗赤褐5YR3/6一赤褐5YR4/8,黒褐10YR2/2一黒10YR1.7/1.内面:にぶい赤褐5YR4/4一黒褐5YR2/2一黒褐5YR2/1.	礫:白色粒,粗砂:赤色粒,チャート,輝石,砂:輝石,赤色粒,細砂:赤色粒,黒色粒.	9	外面:口縁部(一)細かい刷毛目?→(一)ナデ.突帯部:(一)ナデ.胴上半部:(一)ヘラ磨き.胴下半部;(｜)ヘラ磨き・刷毛目状の始点あり.,立ち上がり部:(一)ヘラナデ.内面:口縁:(一)刷毛目→(一)丁寧なナデ.胴部(一)刷毛目→(一)ナデ.立ち上がり部;(一)刷毛目→(一)丁寧なナデ.内底面:ナデ.外底面:木葉圧痕→ナデ消す.	口縁部を欠失.外底面までススが付着.木葉圧痕あり.底径10.6～11.3cm.口径(約45cm?).
51	2号住居跡(SK5)	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	内外面:灰黄褐10YR5/2.器肉:にぶい黄褐10YR5/3.	粗砂:赤色粒,砂:赤色粒,細砂:赤色粒,白色粒.	2	内外面:ヘラ磨き→(一)ナデ.	52と同一個体の可能性あり.
52	2号住居跡(SK5)	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	内外面:黒褐10YR3/2.器肉:にぶい黄褐10YR4/3.	粗砂:赤色粒,細砂:赤色粒.	5	内外面:(?)ヘラ磨き→(一)ナデ.	51と同一個体の可能性あり.
53	2号住居跡(SK5)	前期後半	甕	胴部(多条刻目突帯文)	外面:黒褐2.5Y3/1.内面:黒褐10YR3/1.器肉:褐灰10YR4/1.	礫:石英,細砂:赤色粒,白色粒.	8	突帯部:(一)ナデ.内面:(?)ナデ.	突帯接合部位明瞭.
54	2号住居跡(SK5)	前期後半	甕	底部(平底)	外面:にぶい黄褐7.5YR5/4.内面:灰黄褐10YR4/2.器肉:灰黄褐10YR4/2.	砂:赤色粒,細砂:赤色粒,白色粒,黒色粒.	3	外面:(一)ヘラ磨き→(｜)ヘラ磨き.内面:(｜)ヘラ磨き→(?)ナデ.外底部:木葉圧痕.	底部外面に木葉圧痕あり.
55	2号住居跡(SK5)	前期後半	鉢	口縁部	外面:黒褐2.5Y3/1.口縁・内面:にぶい褐7.5YR5/4.器肉:にぶい褐7.5YR5/4.	砂:白色粒,輝石,細砂:黒色粒,赤色粒.	3	内外面・口唇:(一)ヘラ磨き.	
56	2号住居跡(SK5)	前期後半	壺	胴部(頸部付近)	外面:にぶい橙7.5YR6/4.内面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:赤色粒,砂:黒色粒,白色粒,細砂:赤色粒,黒色粒.	2	外面:(一)細かいハケメ→(一)ナデ.内面:ナデ?	
57	2号住居跡(SK5)	前期後半	壺	底部(平底)	外面:橙5YR6/6.内面:にぶい黄橙10YR6/4.器肉外:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:赤色粒,白色粒,砂:輝石,細砂:輝石,白色粒.	3	外面:(／)ヘラ磨き→(?)ナデ.立ち上がり部:(一)ヘラ磨き→(?)ナデ.内面:(一)刷毛目→(＼)ヘラ磨き.外底面:ヘラ磨き.	

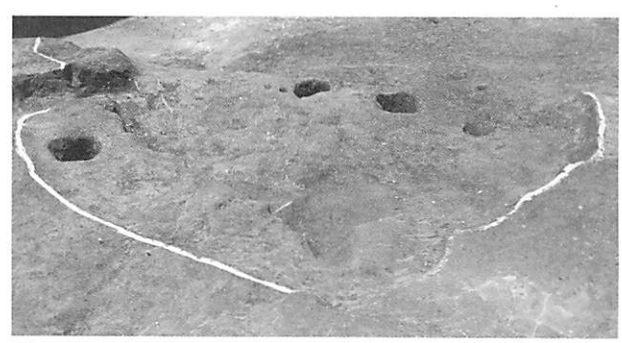
Tab.20　2 号住居跡(SK5)出土打製石斧観察

No.	出土地点	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
57	2号住居跡(SK5)	ホルンフェルス化した細粒砂岩か粗粒頁岩	9.3	5.6	2.4	139	刃部欠失部分にも潰しが入る.転用か.

も同個体の破片を認めることは出来なかった。この半裁された甕形土器は，口縁部を欠失しているが，残存している口径は 40cm 前後，最大器高は 16cm，底径 10.6 ～ 11.3cm の刻目突帯文を有する比較的大型の甕である。おそらく完形時には，口径・高さともに，5cm ほど大きくなると考えられる。外面の器面調整は，口縁部突帯間をヨコナデ，胴部突帯下位 6 ～ 7cm 間横方向のヘラミガキ，下半部を縦方向のミガキによって整形している。底部の立ち上がりにはユビでヨコナデをして巡らせる。底面にはアカメガシワの木葉圧痕があり，これはヘラ工具でナデ消している。比較的大型の土器であるため，製作時に台から離れやすいように工夫したものであるのかも知れない。土器製作時の情報を伝える重要な資料である。外底面から口縁部付近までは煤の付着が見られ，底を上げた状態で火にかけていることが分かる。54 もまた木葉圧痕がつくが，これはサルトリイバラのものである可能性が高い。

出土状況は，横倒しになり，口底と表裏とを対称にし，北西向きに並べられて出土した。また，そこからやや西側に約 1 mほど離れた場所からも同個体の一部が出土している。この状況は，何らかの祭祀行為としての作為が認められる。住居の廃棄に伴う祭祀行為と考えておきたい。土器にはススの付着があるものの，住居内に炭の広がりも認めることは出来ない。また，同一個体と思料される口縁部もないことから，住居外のある場所で一度火にかけた後，口縁部を打ち欠き，縦に割り取って，住居内に上述のような状態に並べたものであると判断できる。この土器以外は，前期土器破片が床面よりもやや浮いている状態で出土しているが，50 とは別個体である。甕(50 ～ 54)，鉢(55)，壺(56･57)が認められるが，そのほとんどが弥生前期の範疇で考えられる。その他床着で破損した打製石斧の基部(58)が出土している。埋土は，黒褐色(10YR2/3)シルトである。ピットは，黒色(10YR1.7/1)シルトで，パサつき，柔らかい。

PL.32　2 号住居跡(SK5)完掘状況(南から)



PL.33　2 号住居跡(SK5)完掘状況(東から)

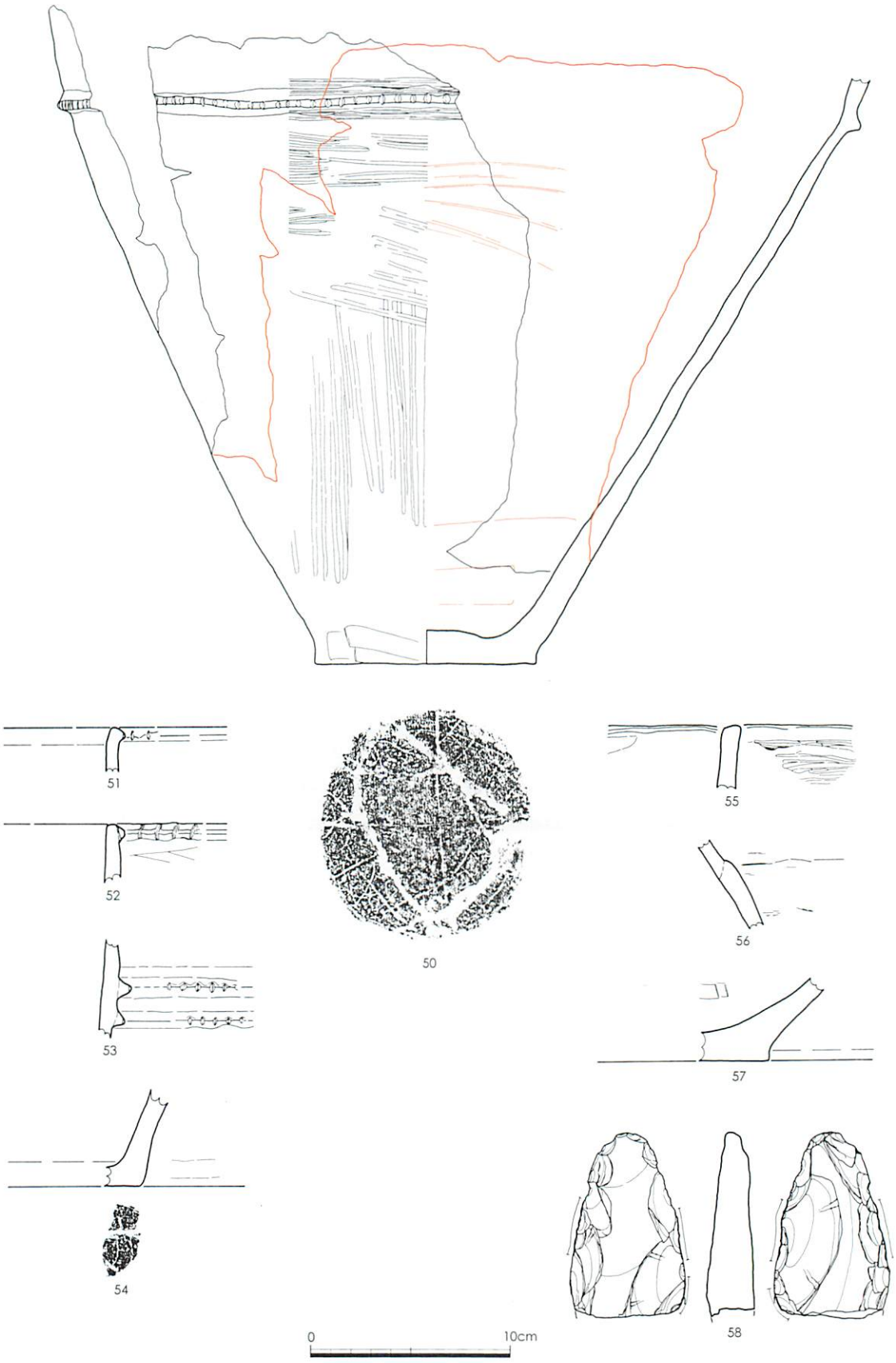
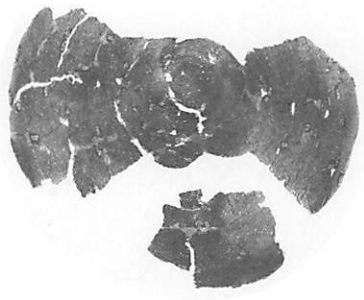
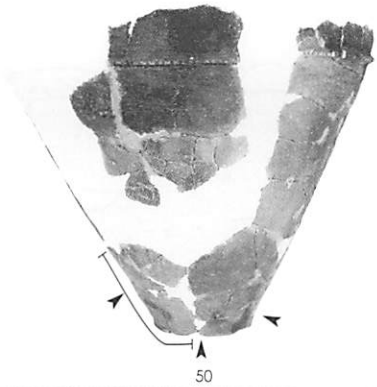


Fig. 29　2 号住居跡(SK5)出土遺物(S=1/3)

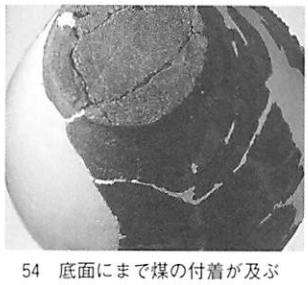
外面の器面調整
突帯下部は横方向，同部は縦方向のヘラミガキが施される



内面の器面調整

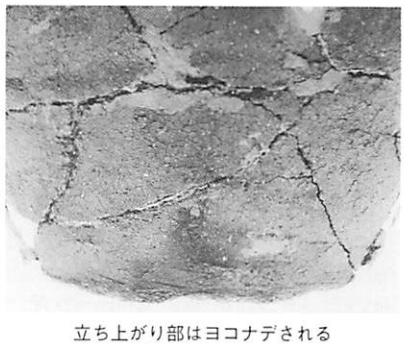


50

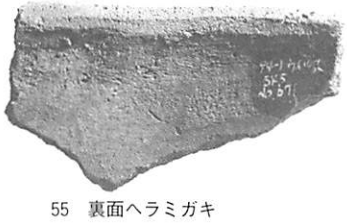


54　底面にまで煤の付着が及ぶ

底部のアカメガシワの木葉痕

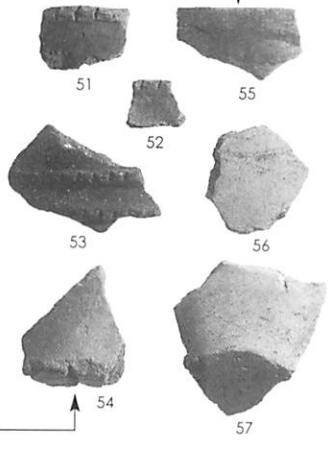


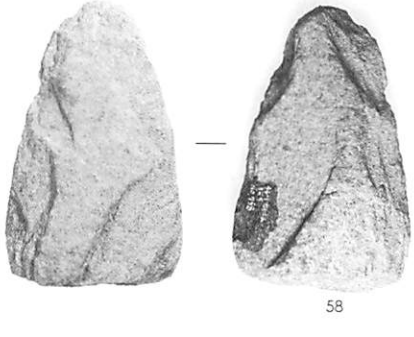
立ち上がり部はヨコナデされる



55　裏面ヘラミガキ

54　底面サルトリイバラ(?)圧痕





58

PL. 34　2 号住居跡(SK5)出土遺物

3 号住居跡(SK6)(Fig. 30･31, Tab. 21･22, PL. 35～37)

平面形は円形を呈すると考えられるが，これも造成時の掘削を受け，北半分は破壊されている。南側の一部を SK4 に切られていると考えられる。中央部に径 80cm ほどの落ち込みがある。底面は硬く踏み固められており，床面であろうと思われる。壁際にピットが 3 基認められるが，柱穴であるかははっきりしない。出土遺物は，認定できるものが入来 I 式甕(59)で，他には弥生中期前半甕底部(62)，おそらく同時期くらいであろうと考えられる鉢(63)，壷(64～67)などで，ほぼ同レベルから出土している。埋土は(2.5Y3/2)シルトで堅く締まった土で，黄色パミスを含む。

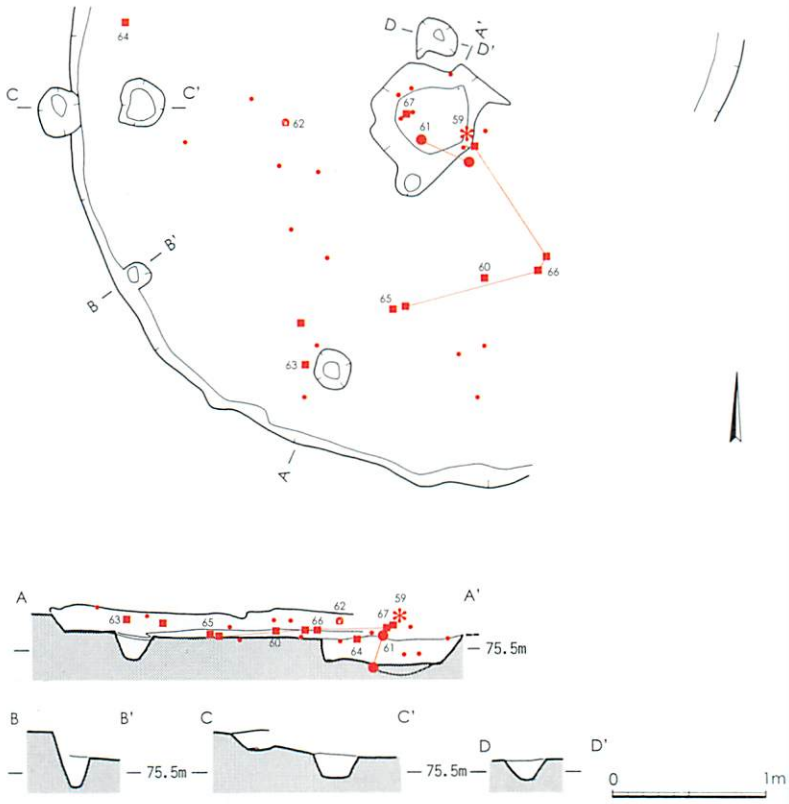
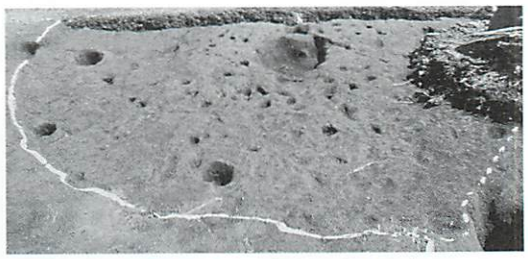


Fig. 30　3 号住居跡(SK6)(S=1/50)
凡例　●弥生前期，＊入来 I 式，■弥生前期～中期前半，●弥生土器

PL. 35　3 号住居跡(SK6)遺物出土状況



PL. 36　3 号住居跡(SK6)完掘状況(南から)

Tab. 21　3 号住居跡(SK6)サイズ

遺構名	図番号	プラン	主軸長(m)	短軸長(m)	検出深(cm)	備考
3号住居跡(SK6)	Fig. 30	円形	(2.72)	(2.94)	14-22	SK4aに切られる・北半分は撹乱により消失　＊中央土壙深14-24cm

Tab. 22　3 号住居跡(SK6)出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
59	3号住居跡(SK6)	入来Ⅰ式	甕	口縁部(2条突帯文)	外面:にぶい褐7.5YR5/3.内面:にぶい褐7.5YR5/4.スス部:にぶい褐7.5YR4/1.器肉:灰黄褐7.5YR5/3.	礫:白色粒,赤色粒,砂:石英,細砂:赤色粒,黒色粒,石英.	4	外面:(＼)整調な刷毛目→(—)ナデ.突帯部:(—)ナデ.口縁:(—)ナデ･細擦痕.内面:口縁:(—)ナデ.胴:(＼)ナデ.	スス付着
60	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	甕	胴部(2条刻目突帯文)	外面:にぶい黄褐10YR5/4.内面:橙7.5YR6/6.器肉外:にぶい黄橙10YR6/4.器肉内:橙7.5YR6/6.	礫:赤色粒,白色粒,砂:輝石,石英,白色粒,細砂:赤色粒,白色粒.	5	外面:上部:(｜)刷毛目→(—)ナデ.下部:(—)刷毛目→(—)ナデ.突帯部:(—)ナデ.内面:(?)ナデ.	
61	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	甕	底部(平底)	外面:にぶい褐7.5YR5/4.内面:にぶい黄褐10YR5/3.器肉:橙5YR6/6.	礫:赤色粒,白色粒,粗砂:白色粒,石英,輝石,砂:白色粒,細砂:黒色粒,白色粒.	9	外面:(｜)ヘラ磨き→(?)ナデ.内面･外底面:(?)ナデ.	底径(9)cm
62	3号住居跡(SK6)	中期前半	甕	底部(中実脚台)	内外面:にぶい褐7.5YR5/3.器肉:にぶい褐7.5YR5/4.	粗砂:石英,赤色粒,細砂:黒色粒.	3	外面:(—)ナデ.外底面:ヘラナデ?	
63	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	鉢	口縁部	外面:にぶい黄2.5YR6/4･黄灰2.5YR4/1.内面:黄灰2.5YR4/1.器肉:にぶい褐7.5YR5/4.	粗砂:白色粒,砂:白色粒,赤色粒,細砂:黒色粒,白色粒,赤色粒.	6	外面:(｜)ヘラ磨き.内面:(｜)ヘラ磨き.口唇:(—)ナデ.	
64	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	壷	口縁部付近(内外面に突帯文)	内外面:にぶい褐7.5YR5/4.器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:赤色粒,白色粒,粗砂:赤色粒,砂:黒色粒,赤色粒,細砂:黒色粒,白色粒.	5	内外面:(—)ヘラ磨き.	
65	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	壷	胴部(暗文状調整)	外面:にぶい褐7.5YR5/4.内面:橙7.5YR6/6.器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	粗砂:赤色粒,白色粒,砂:黒色粒,白色粒,細砂:黒色粒,白色粒.	4	外面:(—)ヘラ磨き→(—)ナデ,横位の暗文状調整.内面:ヘラ磨き→(?)ナデ.	
66	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	壷	底部付近(平底)	外面:にぶい黄橙10YR6/4.内面:黒褐10YR3/1.器肉:黒褐10YR3/1―にぶい黄橙7.5YR6/4.	礫:白色粒,粗砂:白色粒,細砂:黒色粒,赤色粒.	5	外面:(｜)ヘラ磨き→(?)ナデ.内面:不明.	内面炭化物付着
67	3号住居跡(SK6)	前期後半-中期前半	壷	底部(平底)	外面:暗灰黄2.5Y5/2.内面:にぶい黄橙10YR6/4.器肉:黄灰2.5Y4/1.	粗砂:赤色粒,砂:石英,細砂:黒色粒,白色粒.	2	外面:(＼)ヘラ磨き→(?)ナデ.内面:(＼)ヘラ磨き→(?)ナデ.外底面:ヘラナデ?	底径(5.2)cm

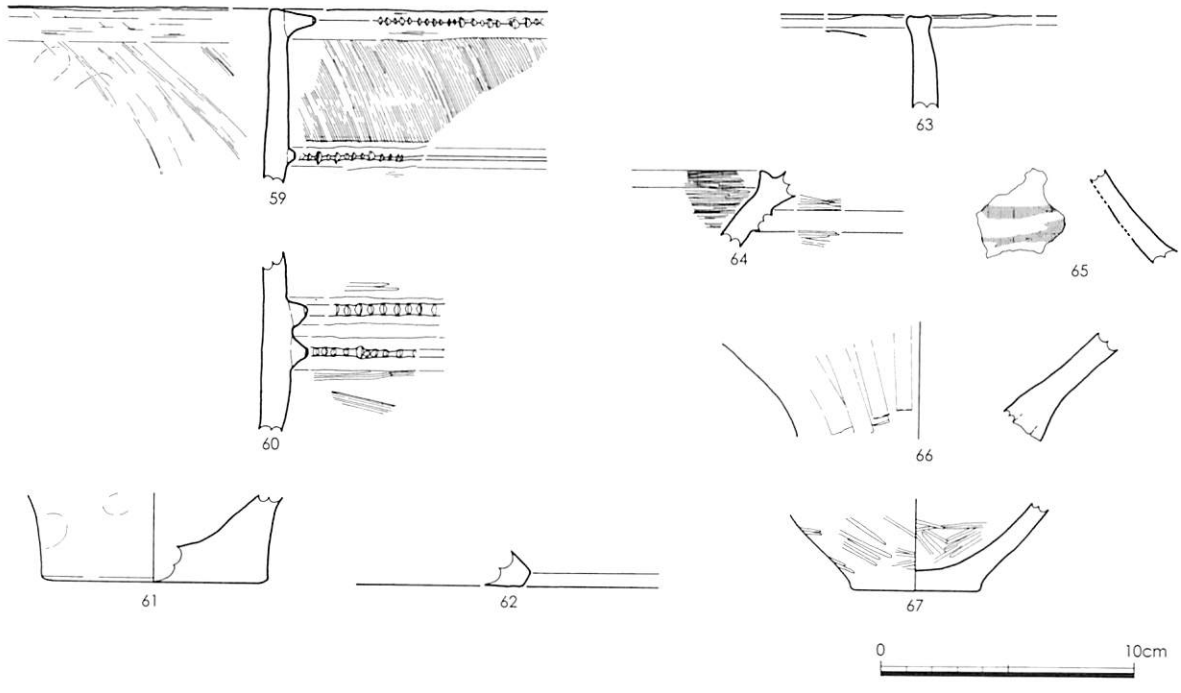
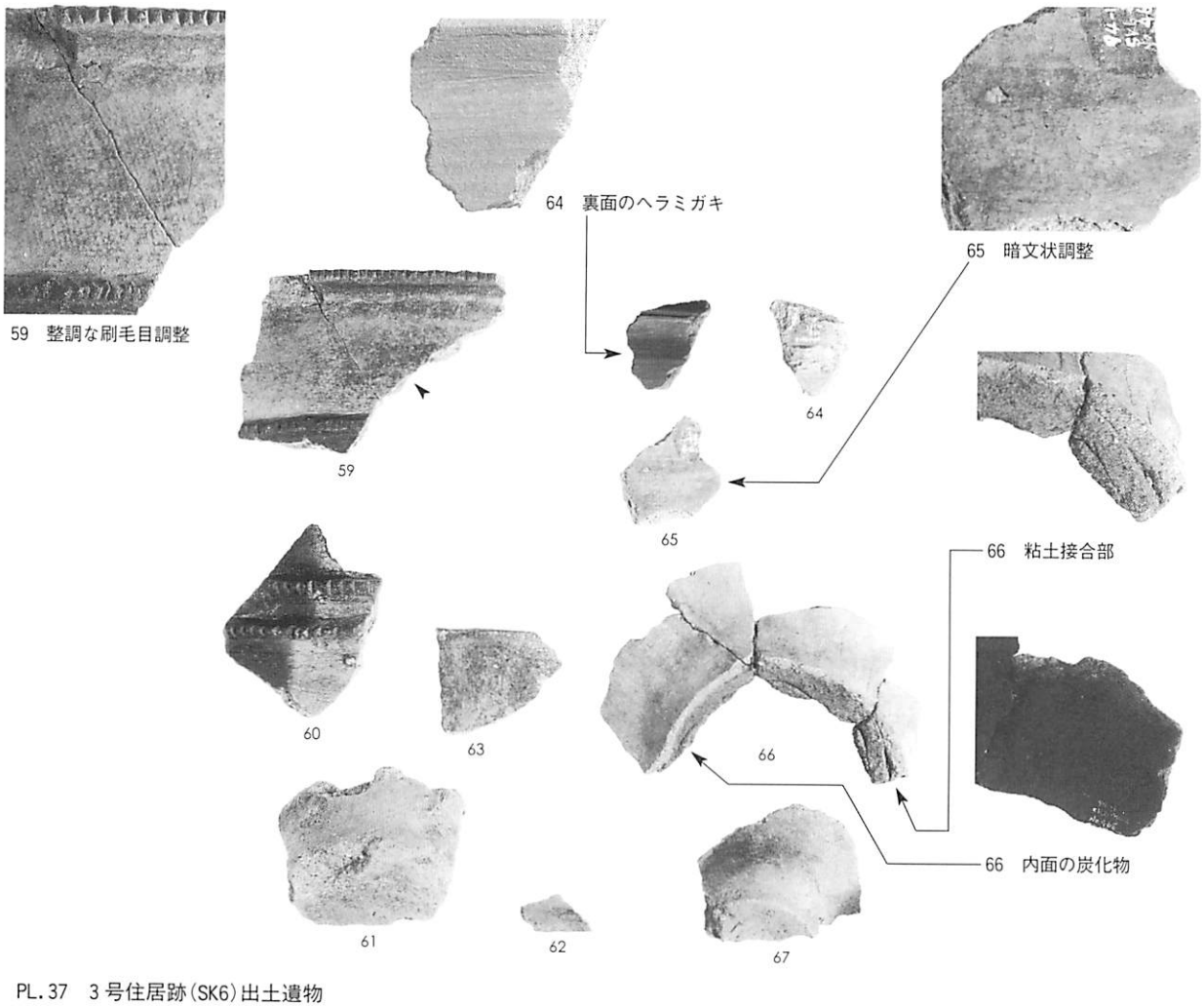


Fig. 31　3 号住居跡(SK6)出土遺物(S=1/3)



PL. 37　3 号住居跡(SK6)出土遺物

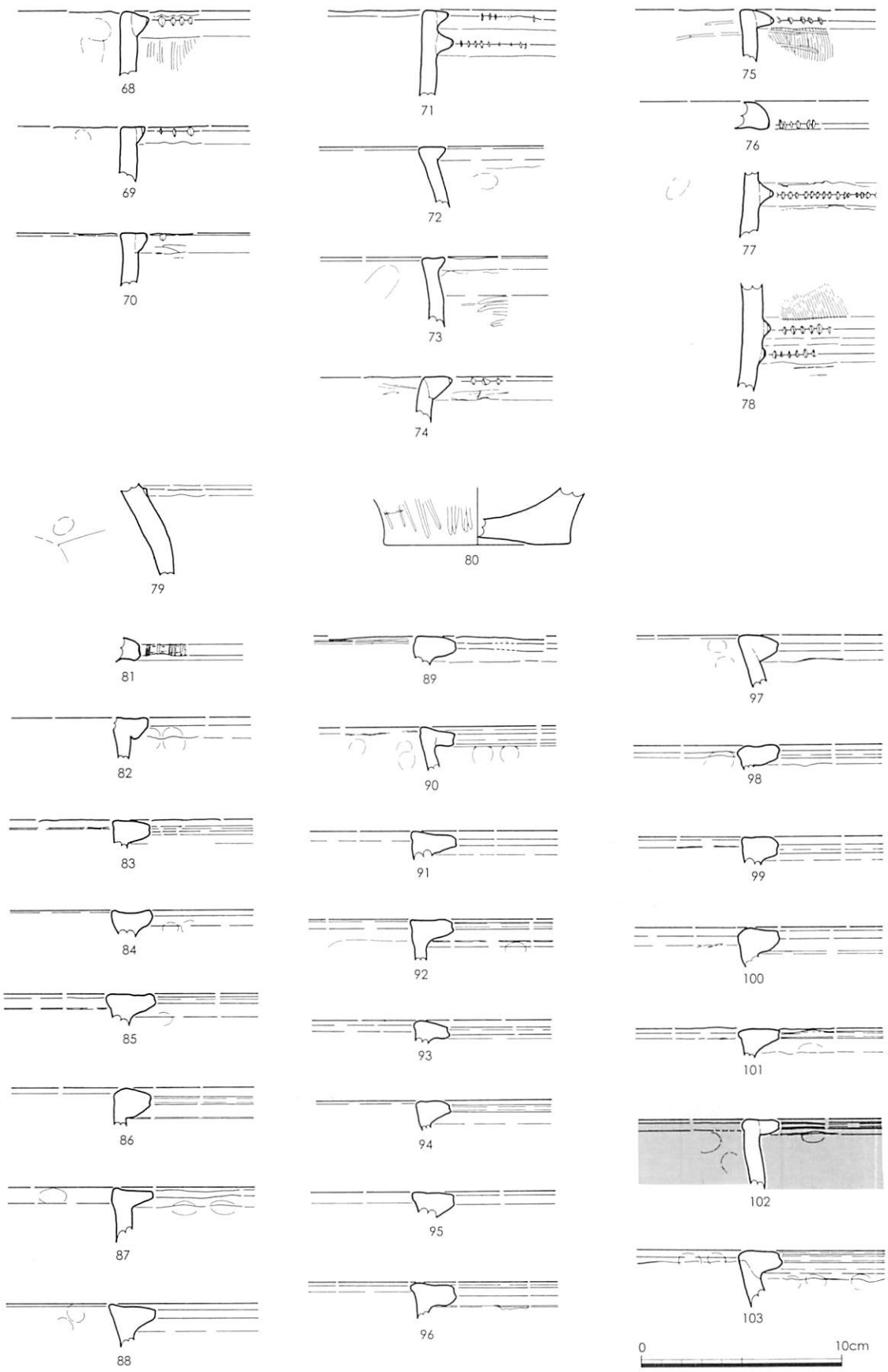
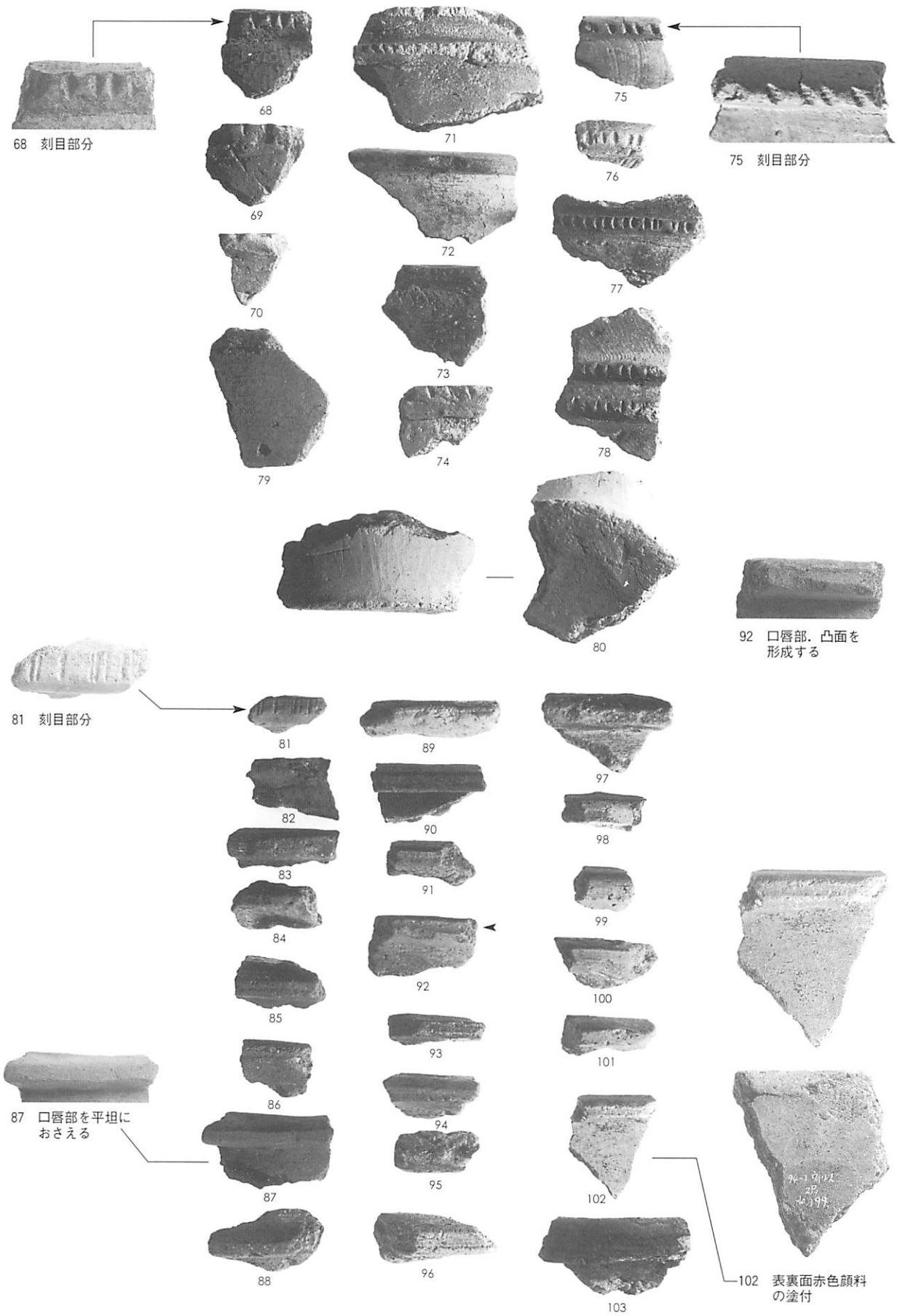


Fig. 32　2 層出土遺物(Ⅰ)(S=1/3)



PL.38　2 層出土遺物(Ⅰ)

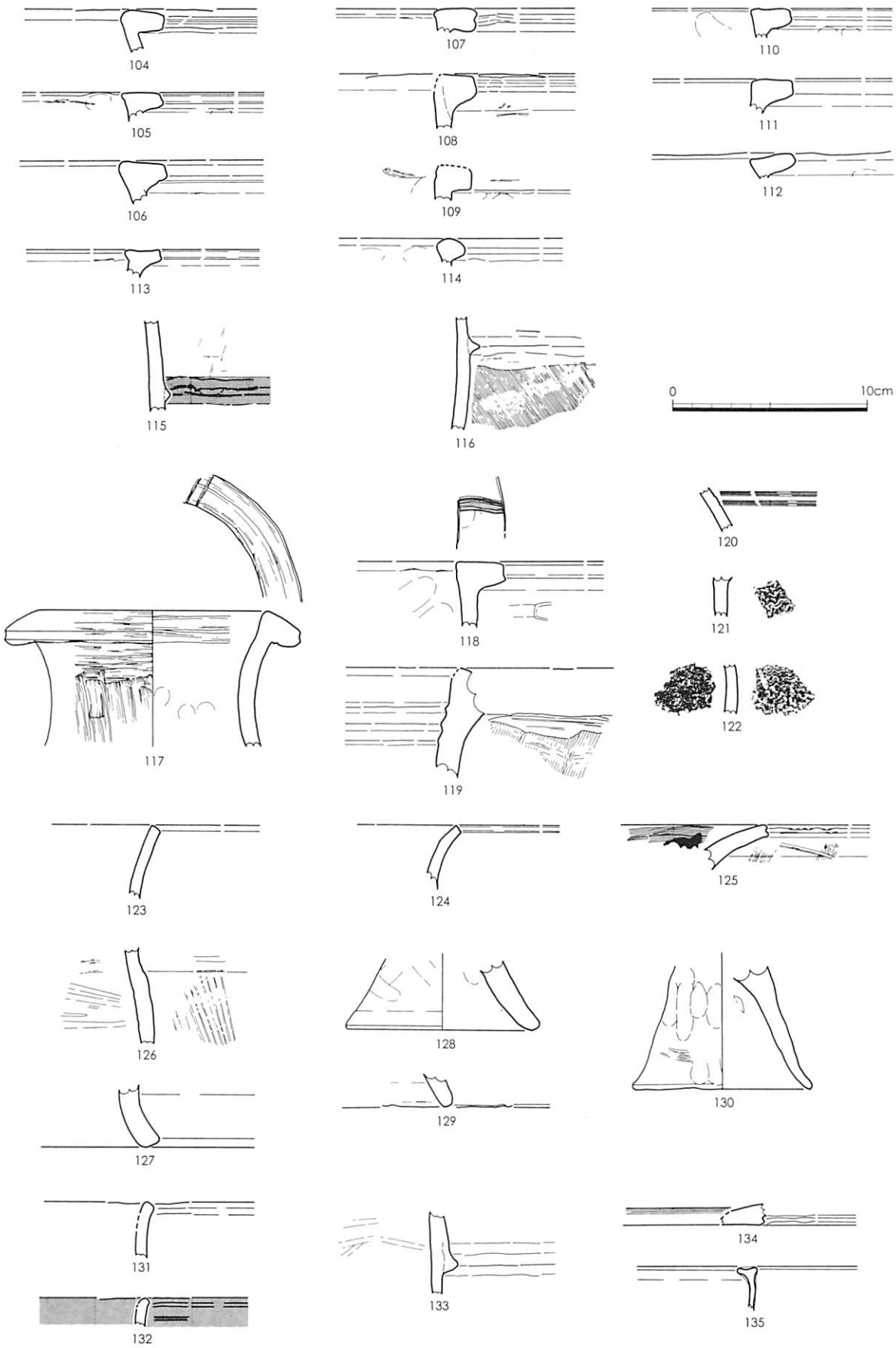
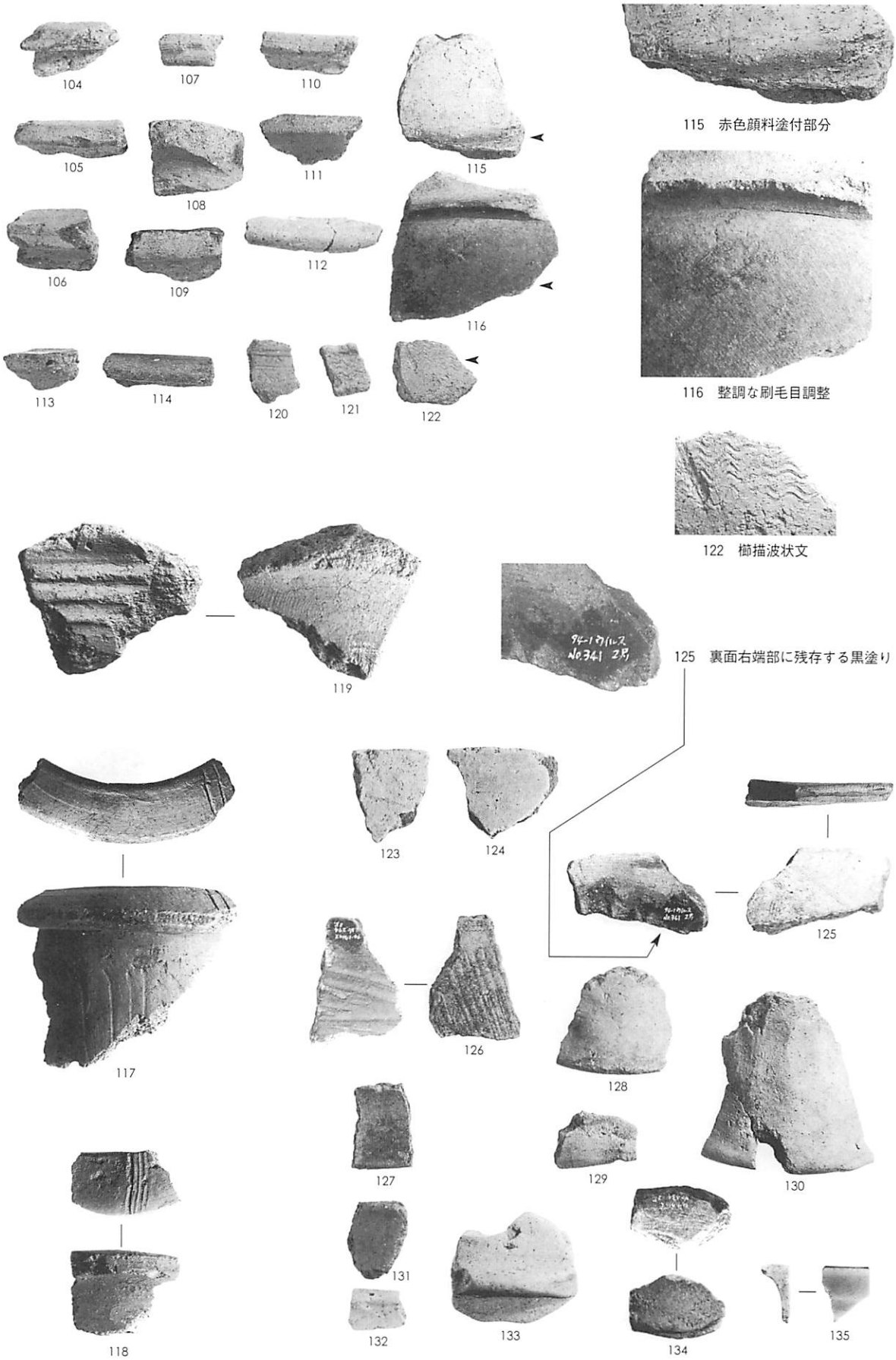


Fig. 33　2 層出土遺物(II)(S=1/3)



PL. 39　2 層出土遺物(II)

Tab. 23　2 層出土遺物観察(Ⅰ)

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
68	2層	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面・口縁:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:明赤褐5YR5/6. 器肉:明黄褐10YR6/6.	粗砂:石英, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	外面:(丨)刷毛目→(?)ナデ. 内面:(?)ナデ. 口縁上面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
69	2層	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面・口縁・内面:にぶい赤褐5YR5/4. 器肉:灰褐7. 5YR6/2.	礫:赤色粒, 白色粒, 砂:石英, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	3	内外面:(—)ヘラ磨き→ナデ.	
70	2層	前期後半	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面:橙7. 5YR7/6. 口縁・内面・器肉:橙5YR6/8.	粗砂:輝石, チャート, 黒雲母, 細砂:輝石, チャート.	2	外面:(—)ヘラナデ→ナデ. 内面・口縁:ナデ?	
71	2層	前期後半	甕	口縁部(口縁部直下の2条刻目突帯文)	内外面:にぶい黄褐10YR5/4. 器肉:褐灰10YR4/1.	粗砂:石英, 白色粒, 砂:黒色粒, チャート, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面・口縁部:(—)ナデ.	
72	2層	前期後半	甕	口縁部(突帯文)	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:灰褐10YR4/1.	粗砂:石英, 白色粒, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	2	内外面・口縁部:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	
73	2層	前期後半	甕	口縁部(突帯文)	外面:黒10YR1. 7/4. 内面・器肉:赤褐5YR4/6.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:赤色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒.	5	内外面:(—) ヘラナデ→(—)ナデ. 口縁:細擦痕. 内外面に指頭圧痕.	スス付着.
74	2層	入来Ⅰ式?	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面:明赤褐5YR5/8. 口縁・内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:灰黄褐10YR5/2.	礫:白色粒, 粗砂:赤色粒, 砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒.	4	外面:ナデ?. 内面・口縁:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
75	2層	入来Ⅰ式?	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面:暗赤褐5YR3/6. 口縁・内面:赤褐5YR4/6. 器肉:灰黄褐10YR5/2.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	2	外面:(丨)刷毛目→(—)ヘラ磨き. 口縁部上面:(—)細擦痕. 内面:(?)ヘラ磨き.	
76	2層	入来Ⅰ式?	甕	口縁部(刻目突帯文)	外面:にぶい褐7. 5YR6/3. 内面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:にぶい橙7. 5YR7/4.	礫:白色粒, 粗砂:輝石, 砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	外面:(丨)刷毛目. 口縁部:(—)ナデ.	
77	2層	前期後半-中期前半	甕	胴部(刻目突帯文)	外面上部:黒褐10YR2/2. 外面下部:灰黄褐10YR5/2. 内面:黒褐10YR3/1. 器肉外面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉内面:にぶい褐7. 5YR5/4.	礫:赤色粒, 白色粒, 細砂:輝石, 石英, 白色粒.	5	外面:(丨)刷毛目→(?)ナデ. 内面:(?)ナデ・指頭痕.	突帯接合部位明瞭.
78	2層	前期後半-中期前半	甕	胴部(2条刻目突帯文)	外面:赤褐5YR4/8. 内面:赤褐5YR4/6. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	6	外面:(＼—)刷毛目→(?)ナデ. 内面:ナデ?.	スス付着. 突帯接合部位明瞭.
79	2層	前期後半-中期前半	壺	胴部(小突帯文)	外面:赤褐5YR4/8. 内面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:赤色粒, チャート. 砂:黒色粒, 白色粒, 黒石英, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	外面:(—)ヘラ磨き→(?)ナデ. 内面:(?)ナデ・指頭圧痕.	
80	2層	前期後半-中期前半	壺?	底部(若干の上げ底)	内外面:橙7. 5YR6/6. . 器肉:黄灰2. 5Y4/1.	粗砂:チャート, 石英, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	4	外面:(丨)刷毛目?→(丨)ヘラ磨き. 外底面:ヘラ削りによって, 上げ底にしている. 内底面は剥落しているため不明.	底径(9. 4)cm.
81	2層	入来Ⅱ式	甕	口唇部(口唇端部に刻み)	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉:10YR4/1.	粗砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:輝石, 白色粒.	3	内外面:(—)ナデ?.	
82	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:褐灰7. 5YR4/1.	礫:白色粒, 砂:輝石, 白色粒, チャート, 細砂:黒色粒, 白色粒.	4	内外面:(—)ナデ・指頭圧痕.	口縁接合部位明瞭.
83	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 口縁上面・内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい褐7. 5YR5/4.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:輝石, チャート, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	6	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 口縁部上面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
84	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:橙7. 5YR6/6. 内面:橙7. 5YR7/6. 器肉:にぶい橙7. 5YR7/3.	粗砂:石英, 赤色粒, 砂:輝石, 細砂:黒色粒, 白色粒.	2	内外面:(—)ナデ?. 指頭圧痕.	
85	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:橙7. 5YR6/6. 器肉:にぶい橙10YR5/3.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:赤色粒, 砂:白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	4	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ. 口縁部上面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	
86	2層	入来Ⅱ式	小型甕?	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR5/4. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4.	礫:チャート, 粗砂:チャート, 輝石, 白色粒, 砂:輝石, 白色粒, 細砂:黒色粒.	6	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)丁寧なナデ.	
87	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:褐灰5YR4/1. 器肉:にぶい褐7. 5YR5/3.	礫:赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	5	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)丁寧なナデ.	
88	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 内面:にぶい橙5YR6/4. 器肉:にぶい橙7. 5YR6/4.	礫:黒色粒, 白色粒, 粗砂:輝石, 砂:輝石, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	
89	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面・口縁上面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:明褐7. 5YR5/6. 器肉:褐灰10YR5/1.	粗砂:チャート, 輝石, 白色粒, 砂:白色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 輝石.	6	内外面:ナデ?.	全面摩滅.
90	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:黒褐10YR3/1. 内面:褐10YR4/4. 器肉:暗灰黄2. 5Y5/2.	粗砂:チャート, 細砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, 石英.	2	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	スス付着. 口縁接合部位明瞭.
91	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:灰褐7. 5YR5/1.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:赤色粒, 輝石, 砂:輝石, 石英, 細砂:黒色粒.	5	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
92	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR6/4. 内面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	3	内外面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	
93	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい褐7. 5YR5/4. 器肉:にぶい橙7. 5YR6/4.	礫:赤色粒, 粗砂:黒色粒, 赤色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	5	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
94	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:橙5YR7/6. 内面・器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	粗砂:白色粒, 石英, 砂:黒色粒, 白色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	
95	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:灰褐7. 5YR5/1.	礫:赤色粒, 砂:輝石, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面:(—)ナデ?.	
96	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:浅黄2. 5Y7/3. 器肉:にぶい橙5YR7/4.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:輝石, 赤色粒, 白色粒, 石英細砂:黒色粒, 石英.	4	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
97	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:灰黄2. 5Y6/2. 内面・器肉:にぶい橙7. 5YR6/4.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:輝石, 石英, 細砂:黒色粒, 石英.	3	外面・口縁上面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面:(—)ナデ.	スス付着. 口縁接合部位明瞭.
98	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面・器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:赤色粒, 輝石, 砂:白色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	3	内外面:(—)ナデ. 内外面に指頭圧痕.	口縁接合部位明瞭.
99	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面・器肉:橙5YR6/6.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:輝石, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	4	内外面:(—)ナデ.	
100	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:明赤褐5YR5/6. 器肉:灰褐5YR4/1.	礫:白色粒, 粗砂:黒色粒, 砂:輝石, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	2	内外面:(—)ナデ.	
101	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 内面:橙7. 5YR6/6. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:白色粒, , 砂:黒色粒, 輝石, 細砂:黒色粒.	3	内外面:(—)ナデ. 口縁上面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
102	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内外面:にぶい橙7. 5YR6/4. 内外面赤塗付:明赤褐5YR5/6. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	粗砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	内外面に赤色顔料塗布.
103	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:黒褐5YR3/1. 内面・器肉:赤褐5YR4/6.	礫:黒色粒, 白色粒, 粗砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面・口縁上面:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ.	スス付着.
104	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面・口縁上面:明赤褐5YR5/6. 内面:明褐7. 5YR5/6. 器肉:橙7. 5YR6/6.	粗砂:赤色粒, 白色粒, チャート, 砂:黒色粒, 細砂:黒色粒, 赤色粒, 石英.	6	内外面:(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
105	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR5/3. 内面:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:灰黄2. 5Y4/1.	粗砂:赤色粒, 白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒.	5	内外面:(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
106	2層	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:橙5YR6/6. 内面・口縁上部:にぶい橙7. 5YR6/4. 器肉:灰黄褐10YR5/2.	粗砂:赤色粒, 輝石, 石英, 砂:黒色粒, 輝石, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒.	4	外面:(—)刷毛目→(—)ナデ. 内面・口縁上面:丁寧なナデ.	

Tab. 24　2 層出土遺物観察(II)

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
107	2層	入来II式	甕	口縁部	内外面:橙7.5YR6/6. 器肉:にぶい橙7.5YR6/4.	粗砂:輝石, 白色粒, 砂:輝石, 石英, 輝石, 細砂:黒色粒.	5	内外面:(—)ナデ?. 口唇の凹線は, 始点と終点の接合部か?	
108	2層	入来II式	甕	口縁部	内外面:明赤褐5YR5/6. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:白色粒, 黒色粒, 粗砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, チャート, 石英, 砂:黒色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	6	外面:(—)ハケ→(—)ナデ. 内面:(—)ナデ?. 口縁上面:(—丨)刷毛目→(—)ナデ.	内面が摩滅.
109	2層	入来II式	甕	口縁部	内外面:明赤褐5YR5/6. 口縁上部・器肉:褐灰10YR4/1.	礫:白色粒, 黒色粒, 粗砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面:(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	口唇部が摩滅.
110	2層	入来II式	甕	口縁部	外面・器肉:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:にぶい黄褐10YR5/4.	粗砂:黒色粒, 石英, 輝石, 砂:輝石, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	5	内外面:(—)ナデ. 内面に指頭圧痕.	
111	2層	入来II式	甕	口縁部	内外面・器肉:にぶい赤褐5YR5/4.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 石英.	6	内外面:(—)ナデ.	
112	2層	肥後・黒髪式類似	甕	口縁部	内外面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉:褐灰10YR4/1.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	内外面:(—)ナデ.	胎土は他の土器と類似.
113	2層	入来II式?	小型甕か鉢	口縁部	内外面:にぶい褐7.5YR6/3. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 粗砂:白色粒, 黒色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	7	内外面:(—)ナデ.	口縁部内面にも張り出しをもつ.
114	2層	入来II式?	鉢	口縁部	外面:にぶい橙7.5YR6/4. 内面:橙7.5YR7/6. 器肉:にぶい褐7.5YR5/3.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:輝石, 赤色粒, 砂:輝石, 黒色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	7	内外面:(—)ナデ.	
115	2層	中期前半	壺?	胴部(突帯文)	外面上部:にぶい黄橙10YR6/4. 外面下部:明赤褐5YR5/6. 内面:橙7.5YR6/6. 器肉:褐灰10YR4/1.	粗砂:赤色粒, 白色粒, 砂:輝石, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	5	外面:(丨)ヘラナデ. 突帯部:(—)ナデ. 内面:(?)ナデ.	突帯部に赤色顔料塗布.
116	2層	中期前半?	甕?	胴部(突帯文)	外面:黒褐10YR3/2. 内面:褐10YR4/4. 器肉:明黄褐10YR6/6—にぶい黄橙10YR6/3.	粗砂:赤色粒, 白色粒, チャート, 砂:石英, 赤色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒.	4	外面:(＼)整調な刷毛目→(—)ナデ. 突帯部:(—)ナデ. 内面:ナデ?.	スス付着.
117	2層	入来II式	壺	口縁部(口縁部上面に平行沈線文)	内外面:橙5YR6/6. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:黒色粒, 赤色粒, 砂:赤色粒, 黒色粒, 白色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒.	6	外面:下部:(丨)整調な刷毛目→磨き. 上部:(—)ナデ. 口縁部:(—)ヘラナデ→(—)ナデ. 内面:口縁:(—)ヘラナデ→(—)ナデ. 頸部:(—＼)ナデ.	口径(11.8)cm.
118	2層	入来II式	甕	口縁部(口縁部上面に平行沈線文)	外面:赤灰2.5YR4/1. 内面:灰黄褐10YR5/2. 器肉:にぶい黄橙10YR6/4.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 赤色粒, 砂:黒色粒, 輝石, 石英, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 石英.	4	内外面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	
119	2層	入来II式	壺	口縁部(内面に3条突帯文)	外面・口縁上部:橙5YR6/6. 内面:にぶい橙5YR6/4. 器肉:橙7.5YR6/6.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:白色粒, 黒色粒, 赤色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 白色粒.	9	外面:下部:(丨)刷毛目→(—)ナデ. 上部:(—)ナデ. 内面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	口唇部欠失.
120	2層	前期後半-中期前半	壺?	胴部(二叉状工具による平行沈線文)	外面・器肉:橙7.5YR6/6. 内面:明褐7.5YR5/6.	砂:輝石, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面:ナデ?	
121	2層	中期前半?	壺?	胴部(小突帯文・櫛描波状文)	外面:にぶい橙7.5YR6/4. 内面・器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:黒色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	3	内外面:ナデ?	
122	2層	中期前半?	壺?	胴部(櫛描波状文)	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:にぶい褐7.5YR5/3. 器肉:灰褐7.5YR5/2.	粗砂:白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	4	内外面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	
123	2層	中津野式	甕	口縁部	外面:橙5YR6/6. 内面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:黒褐5YR3/1.	粗砂:赤色粒, 砂:輝石, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒, チャート, 石英.	2	外面・口唇:(—)ヘラナデ→(—)ナデ. 内面:(丨—)ナデ.	
124	2層	中津野式	甕	口縁部	内外面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉:褐灰10YR4/1.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	2	内面・口唇:(—)細かい刷毛目→(—)ナデ. 外面:口縁上部:細かい刷毛目(—)→(—)ナデ. 下部:(丨)整調な刷毛目→(—)ナデ.	
125	2層	中津野式	高杯?	口縁部	外面:にぶい橙7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙10YR6/3. 器肉:褐灰7.5YR4/1.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	2	外面:(丨)刷毛目→(—)ナデ. 内面:(—)刷毛目→(—)ナデ.	内面黒塗り?
126	2層	中津野式	甕	胴部(頸部付近)	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:オリーブ黒5Y3/1. 器肉:黄灰2.5YR6/2.	粗砂:赤色粒, 白色粒, 砂:白色粒, 細砂:黒色粒.	2	外面:頸部:(—)ヘラナデ. 胴部:(＼)粗い刷毛目→(—)ナデ. 内面:(—＼)ヘラナデ.	
127	2層	中津野式	甕	底部(中空脚台)	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:にぶい橙7.5YR6/4. 器肉:にぶい橙7.5YR6/4.	粗砂:白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 石英.	2	外面:(—)ヘラ磨き状(光沢あり). 内面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	
128	2層	中津野式	甕	底部(中空脚台)	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉:にぶい橙5YR6/4.	粗砂:赤色粒, 石英, 砂:輝石, 石英, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	5	内外面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ.	底径(9.4)cm.
129	2層	中津野式	甕	底部(中空脚台)	外面・底部:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:明赤褐5YR5/6. 器肉:褐灰10YR5/1.	砂:赤色粒, 白色粒, 輝石, 細砂:黒色粒, 石英.	1	内外面:(—)ヘラナデ→ナデ.	
130	2層	中津野式	甕	底部(中空脚台)	内外面:橙7.5YR6/6. 器肉:明黄褐10YR6/6.	礫:赤色粒, 白色粒, 粗砂:赤色粒, 白色粒, 砂:輝石, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	6	外面:(—)ナデ・指頭圧痕. 内面:(＼)刷毛目→(—)ヘラナデ.(—)ナデ.	底径(9)cm.
131	2層	?	?	口縁部	内外面:赤褐5YR4/8.	粗砂:赤色粒, 石英, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	2	内外面:(—)ヘラ磨き状.	
132	2層	土師器	碗か皿	口縁部	外面・口縁:橙5YR6/6. 内面:明赤褐5YR5/8　胎土:にぶい黄橙10YR7/3.	砂:黒色粒, 石英.	1	外面:(—)ナデ. 内面:(—)ナデ(細かい擦痕).	
133	2層	?	?	胴部(1条突帯文)	外面:橙7.5YR6/8-にぶい黄橙10YR7/4. 内面:明赤褐5YR5/8. 器肉:明黄褐10YR7/6.	礫:白色粒, 赤色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒.	1	外面:(—)ヘラナデ→(—)ナデ. 内面:(—)ヘラ磨き状.	器壁の厚さの違いが著しい. 器面摩滅.
134	2層	土師器, ロクロ	碗か皿	底部	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉:にぶい橙7.5YR7/4.	細砂:黒色粒, 石英.	1	外底面:ヘラ削り→ナデ. 内面:ナデ(細かい擦痕).	
135	2層	?	香炉?	口縁部	外面:明緑灰7.5GY7/1. 内面:明緑灰10GY8/1. 器肉:灰白10Y8/1.	細砂:黒色粒.	1	内外面施釉	釉が厚い.

2 層出土の遺物(Fig. 32・33, Tab. 23・24, PL. 38・39)

弥生前期～中期前半古段階(68～80)

口縁部資料のみで弥生前期甕と中期前半古段階の入来Ⅰ式甕を区別することは難しい。型式学的な傾向としては，口縁部突帯が，前期の小さなものから，中期の大きく張り出していくものになっていくと考えられる。あえて区分するならば，68～73 までは前期甕，74～76 が入来Ⅰ式の範疇に入るものと考えられる。壺(79・80)もこの時期の所産であろうと考えられる。

弥生中期前新段階(81～122)

典型的な入来Ⅱ式甕は，口唇部を押さえて凹面を形成するものが多い。1 点のみ口唇部に刻みを有する資料も確認された(81)。甕(小型甕を含む)(81～111・116)・鉢(113・114)・壺(115・117～122)が得られた。102 は口縁

部表裏面に，115 は突帯部付近のみ赤色顔料が塗布される。櫛描波状文をもつもの(122･123)や，肥後地域の黒髪式に類似する資料(112)も認められた。どちらも中期前半に属するものと考えられる。

弥生終末期(123～130)

中津野式の甕(123･124･126 ～ 130)・高坏(125)などが認められた。125 は，内面に黒塗りの一部が残っている。

時期不詳(131～135)

小破片であり，特徴の分かりにくい土器や陶磁器類をここに包括する。131 は，口縁部であるが，つくりが雑である。133 は，笹貫式段階の口縁部を肥厚させる甕に類似するが，本調査地点では，他には 1 点も出土していないため，確言できない。132･134 は，土師器と思われるが，器種などは判然としない。132 は内外面に赤色顔料が塗布されている。135 は青磁の香炉と考えられる破片である。他に薩摩焼と思われるものの小破片も出土している。これらはほとんどが後世の紛れ込みであると考えられる。

5-3.　5 層上面検出遺構(Fig.34,PL.40･41)

縄文時代早期の集石遺構やピット群，風倒木によるものと考えられている層位横転が確認された。

集石遺構(Fig. 35, Tab. 25, PL. 42～44)

調査区北西隅で検出された。5 層に幅 1.4m，約 20cm の深さの落ち込みがあり，その落ち込みに 4 層土を埋土として，やや浮いた状態で，火を受けて赤化した石を含めて 21 点検出された。

石質は，安山岩が 12 点で最も多く，次いで砂岩，角閃石安山岩，軽石質になった安山岩と続く。総重量は 5.914kg。安山岩は比較的大型に属し，小さなものはシャープな割れ口が多く，受熱破損した結果であると考えられる。また，ほとんどが水磨を受け，角が丸みを帯びている。すなわち，本集石遺構は，安山岩が主として選択され，河原で採集されたものと考えられる。調理施設としての機能性を考えるならば，一度のみで放棄されるものではないであろうから，幾度の加熱に耐えうる耐久性や保温性などが意識されて選択されている可

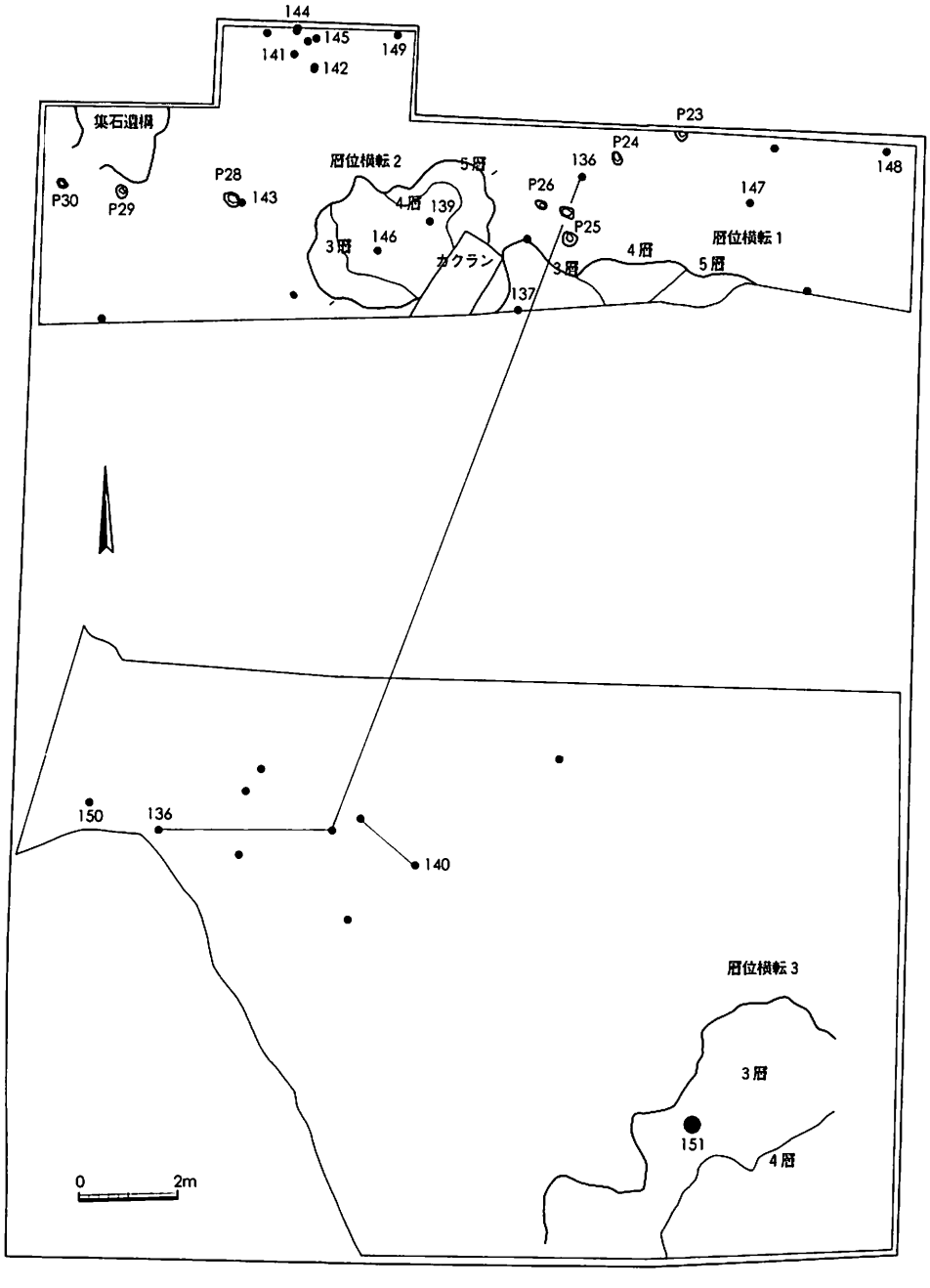
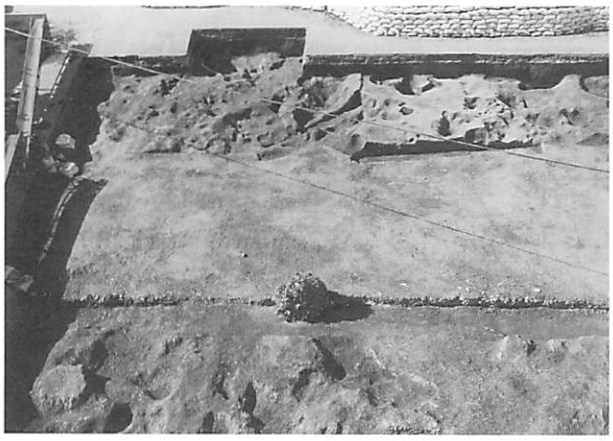


Fig. 34　5 層上面遺構配置・遺物出土状況(S=1/150)
凡例　●縄文土器、●石器



PL.40　調査区北側 5 層上面検出状況

PL.41　調査区南側 5 層上面検出状況

能性がある。また，集石が比較的少ないことや，遺物包含層中から受熱した石材も少なくないことからは，遺構が廃棄された後，何らかの要因によって礫が散逸してしまったものと考えられる。

集積部や落ち込み部から炭や土器などは確認されなかった。石の加熱は遺構そのもので行なわれたのではないのであろう。

Fig.35　集石遺構(S=1/120)

Tab.25　集石遺構構成岩石一覧

No.	石質	重量(g)	大きさ(cm)	備考
A	安山岩	802	6.61-12.11	
B	砂岩	27	1.63-4.63	No.Iと接合
C	砂岩	36	1.83-5.48	
D	砂岩	43	1.87-5.1	
E	安山岩	308	5.84-7.93	
F	角閃石安山岩	86	3.55-5.92	
G	安山岩	278	5.96-7.5	
H	安山岩	107	3.67-6.44	
I	砂岩	52	2.47-5.72	No.Bと接合
J	角閃石安山岩	280	5.59-9.27	
K	安山岩	608	6.52-10.98	
L	安山岩	563	6.76-10.94	
M	角閃石安山岩	457	5.54-8.78	
N	安山岩	638	7.98-11.14	
O	安山岩	200	4.95-7.34	
P	安山岩	326	5.03-9.28	
Q	安山岩(軽石質)	50	3.4-6.88	
R	安山岩	67	1.45-5.17	
S	安山岩(軽石質)	30	3.93-7.77	
T	安山岩	86	3.86-5.04	
U	安山岩	866	8.38-11.87	

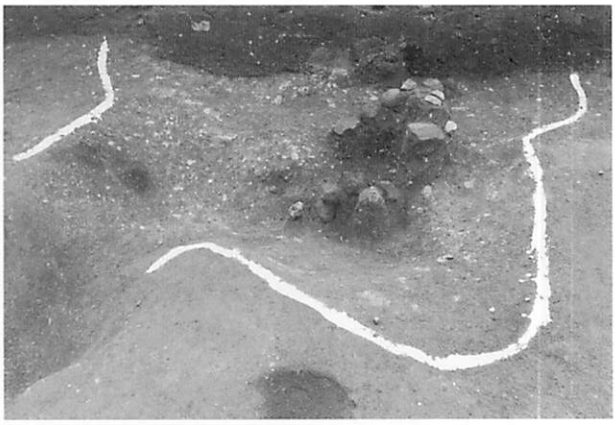
ピット群(Tab.26, PL.45・46)

ピットのプランは明確にできない。ほとんど濁りのない「喜界アカホヤテフラ(K-Ah)」が埋土になっている。これは，人為的な掘り込みとは考えにくく，樹木などが立ち枯れた後にアカホヤが自然堆積したものではないかと考えられる。

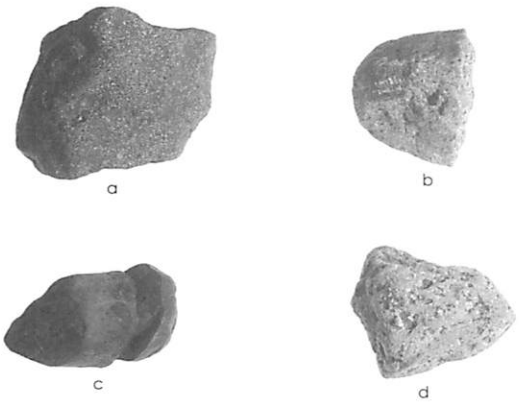
層位横転(局部断層)(Fig.36, PL.47～50)

遺構ではないが，風倒木によるものと考えられている層位横転が 3 箇所で確認された。倒木方向は，横転 1 は，西方向，横転 2 は南西方向，横転 3 は判然としないが，北西方向と考えられる。主に東方向から風力を受けて倒れた可能性がある。

PL.42　集石遺構検出状況(Ⅰ)
上部検出状況



PL.43　集石遺構検出状況(Ⅱ)
浅い掘り込みが 5 層上面に及び，石が散乱している



PL.44　集石遺構の構成岩石
a 安山岩，b 角閃石安山岩，c 砂岩，d 軽石質の安山岩

Tab.26
ピットサイズ一覧

遺構	検出面	埋土	平面形	平面サイズ(cm)	深さ(cm)
P23	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	25.8-?	26
P24	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	26.7-20.2	37.4
P25	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	円形	29.7	46
P26	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	30.8-18.4	32.5
P27	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	26.7-14.4	12.4
P28	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	36-25.9	22
P29	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	26.9-22.4	13.3
P30	5	明褐色 (7.5YR5/8) シルト質砂	楕円形	21.7-17.2	6.8

PL.45　5 層上面検出ピット

PL.46　5 層上面検出ピット断面

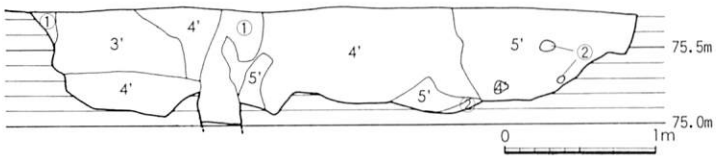


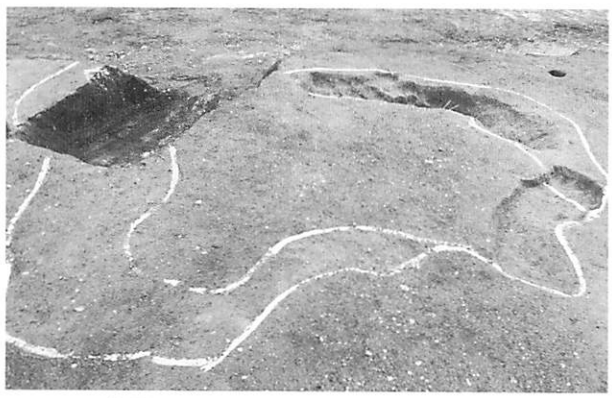
Fig.36　層位横転 2 断面(S=1/50)
①オリーブ褐色(2.5Y4/6)．柔らかい砂混じりシルト．1cm 大のパミスを含む．
②にぶい橙色(5YR6/4)．堅く締まる．5b 層類似．

PL.47　層位横転 1 断面

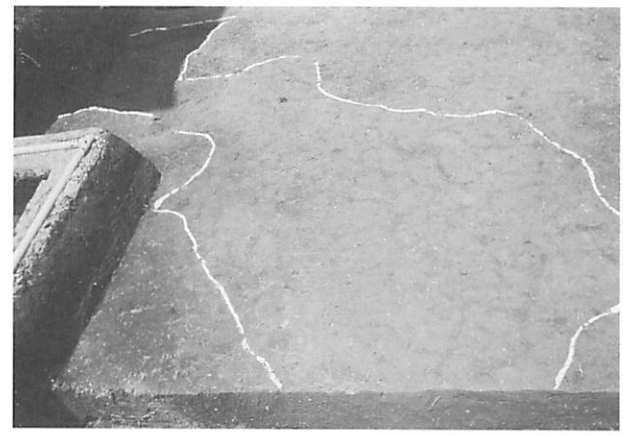
3 層・4 層出土遺物(Fig.37・38, Tab.27・28,PL.48 ~ 50)

縄文時代早期前葉土器

角筒(136 ~ 140)，円筒(141 ~ 150)が見られ，ほとんどが小破片であるが，前者の出土も少なくない。全形の窺える資料は角筒土器 1 点のみ(136)であった。単純な横位の貝殻条痕のみを地文とするものは少なく，ほとんどが，その上か



PL.48　層位横転 2(北から)



PL.49　層位横転 3(東から)

PL.50　層位横転 3 断面(東から)

PL.51　4 層出土角筒土器(136)出土状況

ら文様状の貝殻条線や列点を施す。モチーフは，ほとんどが小破片のために判断しがたいが，136 のように，一つの軸を中心にその左右に横位の山形文を有するものであろう。条線の要素としては，列点文(138)や押し引き状の文様などがある(145 ・ 146)。また，底部外面には，貝殻条痕が施されるものもある(148･150)。石器は，破損した砂岩製磨石 1 点のみ得られた。集石遺構から出土したわけではないが，火を受けて赤化している。類例遺跡にも集石のなかに磨石が入っている例などもあることから，集石遺構などの礫に転用されたものであると考えられる。他にも包含層中から安山岩や溶結凝灰岩なども大小あわせて 50 点ほど出土しており，そのサイズや丸みを帯びること，火を受けた痕跡も認められることから，集石遺構で用いられたような目的で遺跡付近へと運ばれたものであろうと推測できる。

Tab.28　3 層出土磨石観察

No.	出土地点	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
152	3層	細粒砂岩	28.05	7.5	7.5	516	破損･火を受けて赤化･磨面は2箇所･側面に敲打痕あり

5-4.　6 層の調査

約 2m ほど堆積した 5 層「桜島薩摩テフラ(Sz-S)」を重機によって掘り下げ(PL.52)，その後 6 層を 2 × 2 m の格子目状に 6c 層まで掘り下げ，調査を行なった(PL.53)。しかし，遺構，遺物ともに認めることは出来なかった。

PL.52　重機による 5 層除去の様子

PL.53　6 層調査終了

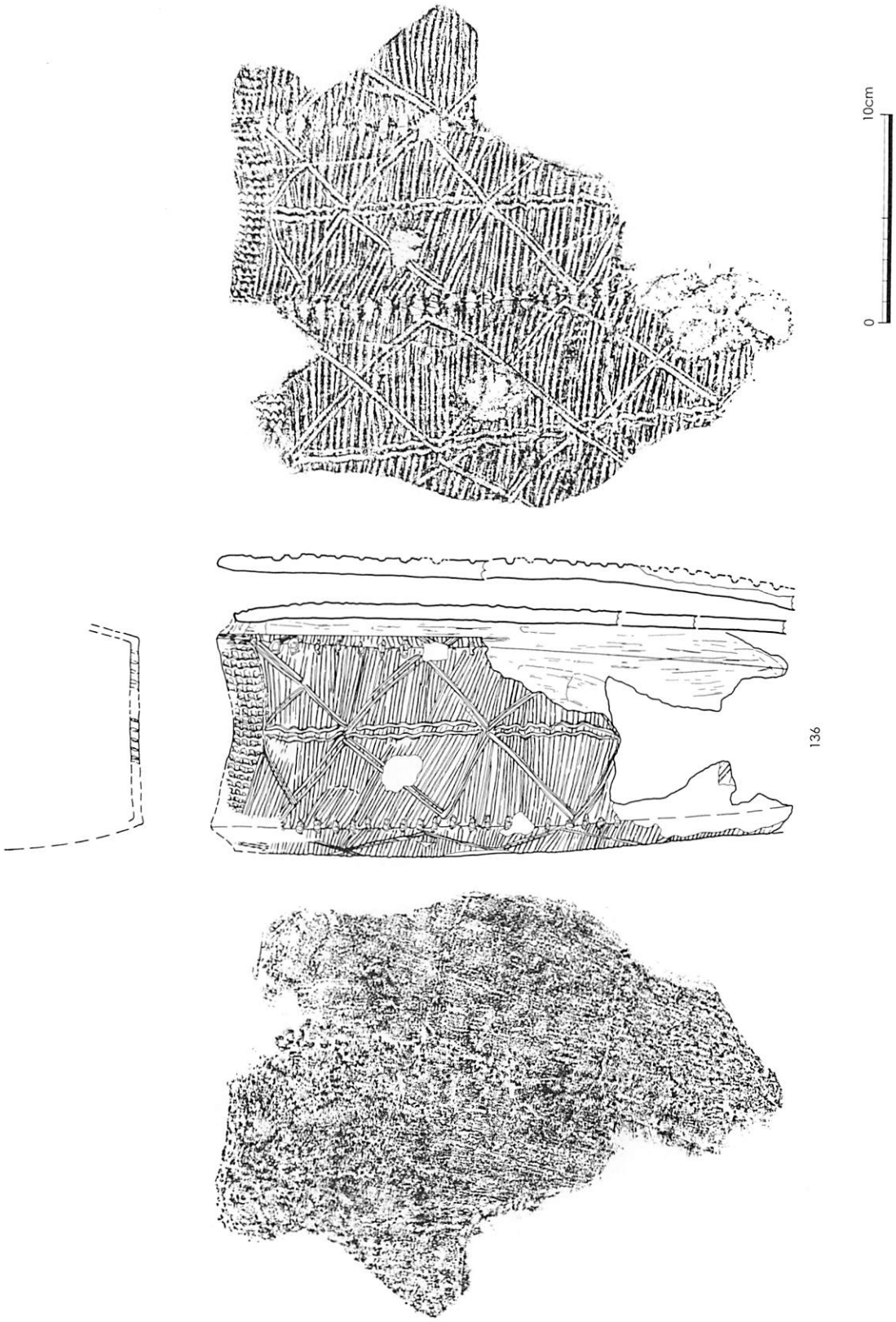
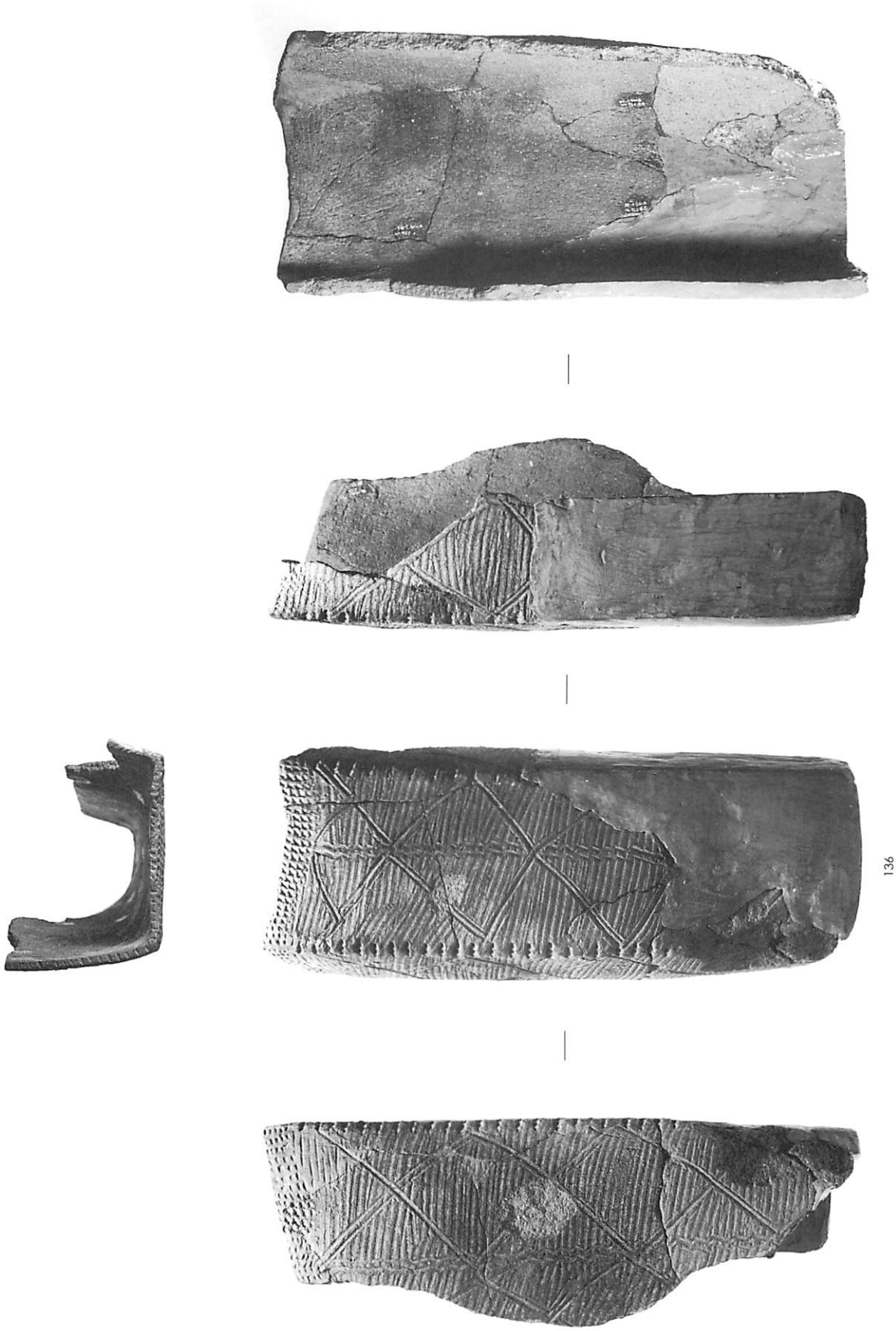


Fig. 37　4 層出土土器(136)(S=1/3)



PL.54　4 層出土角筒土器(136)

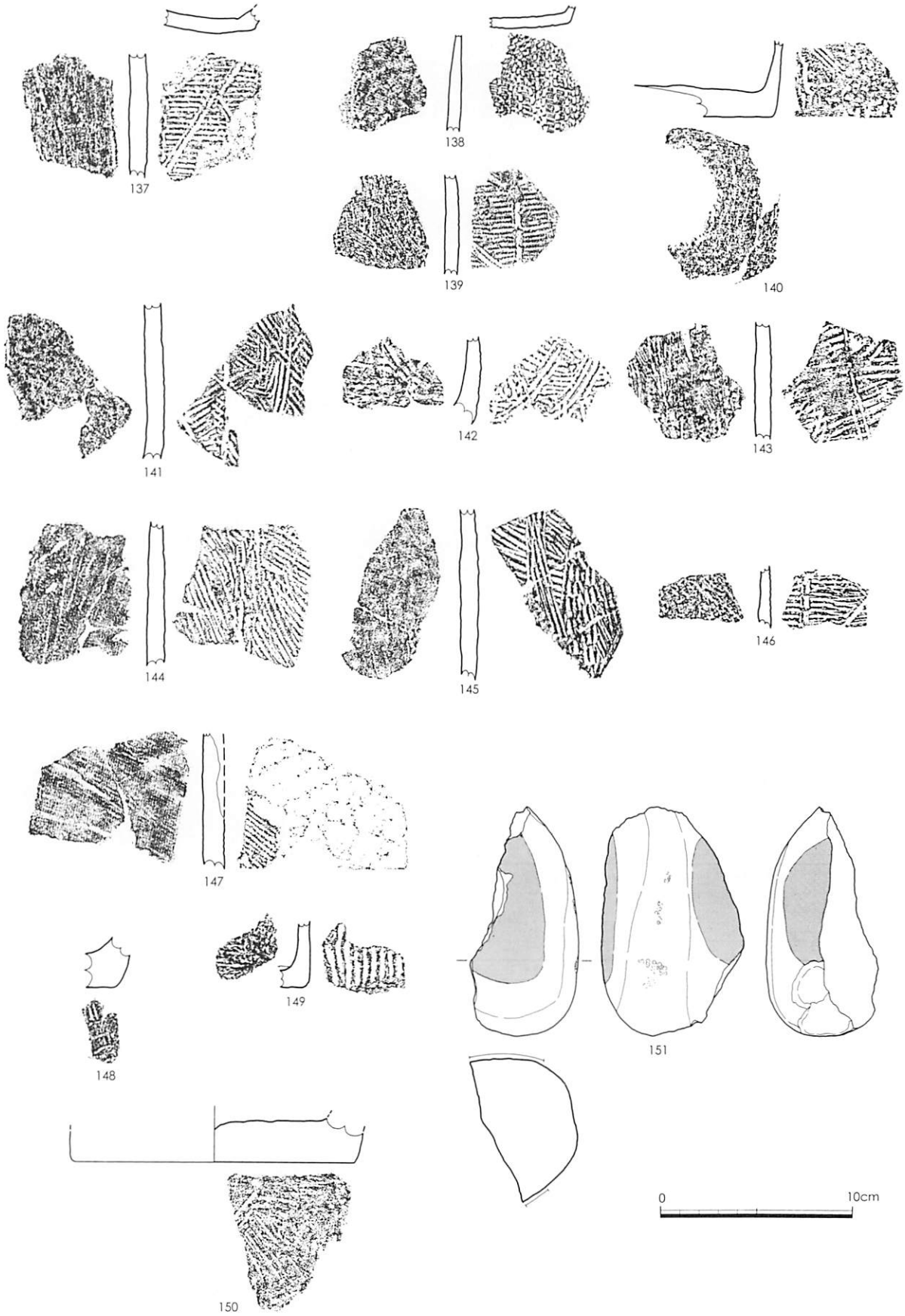
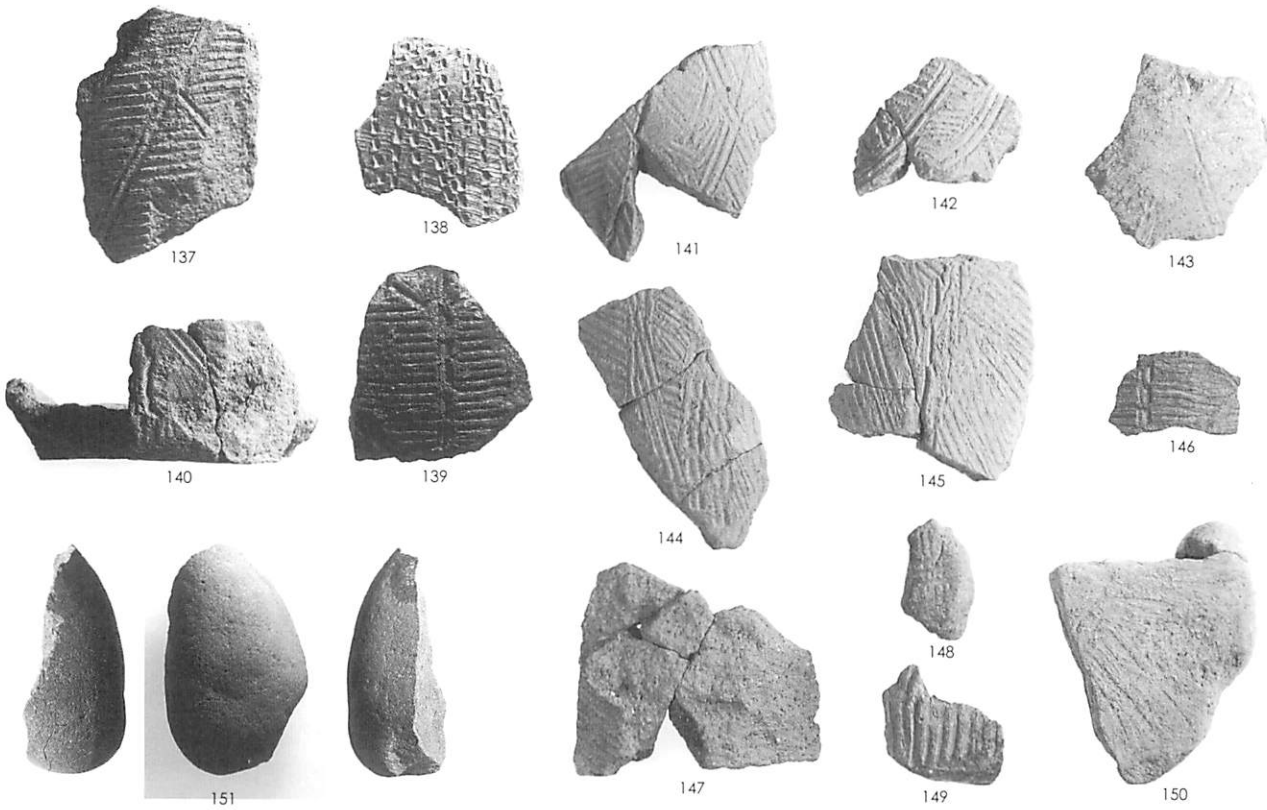


Fig. 38　3･4 層出土遺物(S=1/3)



PL.55　3･4 層出土遺物

Tab.27　3･4 層出土遺物観察

No.	層	種別	器種	部位	色調	混和材	混和材の多さ	調整	備考
136	4層	前平式	深鉢･角筒形	口縁部-胴部	外面:灰黄褐10YR4/2一明赤褐5YR5/6一橙7.5YR6/6. 内面:にぶい黄褐 1 0YR5/4一褐灰10YR5/1. 器肉:にぶい黄褐 1 0YR5/4.	礫:白色粒, 粗砂:赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	9	外面:地文;(—)貝殻条痕→口唇部ヘラ刻み;口縁部左から右方向への貝殻刺突文. 胴部;(｜)波状貝殻条線→(／＼)貝殻条線. コ角部;貝殻刺突文. 内面:口縁:(—)ヘラナデ→ナデ. 胴部:(｜＼)ヘラナデ→ナデ. 角部→ヘラナデ→ナデ.	スス付着. ハジケ. 口径(11.4)cm.
137	4層	前平式	深鉢･角筒形	胴部	外面･器肉:にぶい褐7.5YR5/3. 内面:にぶい黄橙10YR5/4.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 輝石, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	7	外面:(—)貝殻条痕→(X)貝殻条線･(｜)貝殻列点文. 内面:(｜)ヘラナデ→ナデ.	ハジケ.
138	4層	前平式	深鉢･角筒形	胴部	内外面:にぶい黄橙10YR6/4. 器肉:黒10YR2/1.	粗砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒.	5	外面:(—)ヘラ擦痕→(／｜)ヘラ列点文. 内面:ヘラ磨き状.	
139	4層	前平式	深鉢･角筒形	胴部	外面:黒褐10YR3/1. 内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉:暗灰黄2.5Y4/2. スス部:黒褐色2.5YR3/1.	砂:黒色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒, 石英.	8	外面:(—)貝殻条痕→(＼)貝殻条線. 内面:(｜＼)ヘラナデ.	スス付着.
140	4層	前平式	深鉢･角筒形	底部(平底)	外面:にぶい褐7.5YR5/3. 内面:にぶい褐7.5YR5/4. 器肉:灰褐7.5YR5/2.	礫:白色粒, チャート, 粗砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒石英.	9	外面:(—)貝殻条痕→(＼)貝殻条線. 内面:(｜)ヘラナデ→ナデ. 外底面:ヘラナデ→ナデ. 内底面:ヘラナデ→ナデ.	
141	3層	前平式	深鉢･円筒形	胴部	外面:にぶい黄橙色10YR6/4一褐灰10YR4/1. 内面:にぶい黄橙色10YR6/4. 器肉:褐灰10YR4/1.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, 石英, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 白色粒.	6	外面:(—｜＼)貝殻条痕. 内面:(｜)ヘラナデ→ナデ.	条痕がランダム.
142	4層	前平式	深鉢･円筒形	胴部(底部付近)	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:黒2.5Y3/1. 器肉内側:黒2.5Y3/1. 外側:にぶい赤褐5YR5/4.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 細砂:赤色粒, 黒色粒.	5	外面:(—)貝殻条痕→(／)貝殻条線. 内面:(—＼)ヘラナデ.	
143	4層	前平式	深鉢･円筒形	胴部	外面:にぶい褐7.5YR5/3. 内面:黒褐2.5Y3/1. 器肉:暗灰黄2.5Y4/2.	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	7	外面:(—)貝殻条痕･一部ナデ消される→(／＼)貝殻条線. 内面:(｜)ヘラナデ→ナデ.	
144	4層	前平式	深鉢･円筒形	胴部	内外面:にぶい褐7.5YR5/4. 器肉:褐灰7.5YR4/1.	粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒.	5	外面:(—)貝殻条痕→(｜)貝殻条線･2条貝殻列点文.	
145	3層	前平式	深鉢･円筒形	胴部	外面:にぶい橙7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙10YR6/3. 器肉:褐灰7.5YR4/1.	礫:黒色粒, 白色粒, 粗砂:黒色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒.	6	外面:(＼)貝殻条痕→(｜)貝殻列点文. 内面:(｜)ヘラナデ→ナデ.	
146	4層	前平式	深鉢･角筒形?	胴部	外面:黒10YR2/1. 内面:灰黄褐10YR4/2. 器肉:黒褐2.5Y3/2.	粗砂:白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	6	外面:(—)貝殻条痕→(＼｜／)貝殻条線･貝殻列点文. 内面(＼)ヘラナデ.	
147	4層	前平式	深鉢･円筒形	胴部	外面･器肉:にぶい黄褐10YR5/4. 内面:にぶい褐7.5YR5/4.	粗砂:黒色粒, 赤色粒, チャート, 砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒, チャート, 輝石, 細砂:黒色粒, 白色粒, 赤色粒.	8	外面:(＼)貝殻条痕. 内面:(＼)ヘラナデ→ナデ.	全面ハジケ.
148	3層	前平式	深鉢･円筒形	底部(平底)	外面:灰褐7.5YR5/2. 内面:にぶい褐10YR5/2. 器肉内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器肉外面:橙5YR6/6.	粗砂:白色粒, 石英, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒.	5	外面:(｜)貝殻条痕. 内面:(—)ヘラナデ→ナデ. 内底面:?. 外底面:(#)貝殻条痕.	外面は摩滅.
149	3層	前平式	深鉢･円筒形	底部(平底)	外面:にぶい橙5YR6/4. 内面･器肉:黒褐5YR2/1.	粗砂:輝石, 白色粒, 砂:黒色粒, 細砂:黒色粒.	5	外面:(｜)貝殻条痕. 内面:(｜)ヘラナデ･始点あり. 内底面:ヘラナデ. 外底面:ヘラナデ?	
150	4層	前平式	深鉢･円筒形	底部(平底)	外面:にぶい橙7.5YR6/4. 内面:にぶい黄褐10YR 5 /3. 器肉:褐灰10YR4/1.	粗砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 砂:黒色粒, 赤色粒, 石英, 細砂:黒色粒, 赤色粒.	8	立ち上がり部外面:(｜)貝殻条痕. 内底面:粘土接合部やヘラ状工具の刺突痕あり. 外底面:(#)貝殻条痕?	

6. まとめ

本調査区では，縄文時代早期の集石遺構と土器・石器類，弥生時代前期～中期前半，終末期にかけての住居跡や溝，土器・石斧・石鏃・紡錘車などが確認された。

縄文時代早期前葉

集石遺構と少量の土器・石器が確認された。集石遺構は，掘り込みに礫が密集し，底石がない形態のもので，掘り込みの広さに対して，礫の数は決して多くない。八木澤一郎氏分類の「集石３類」に比定され，縄文早期に多いという特徴に矛盾しない[3]。県内類例遺跡では，比較的数基がまとまって確認されるが，本調査区においては１基しか確認されていない。これは調査面積にもよるであろうが，集落の規模・存続期間とも相関する可能性も考えられる。本調査地点の同遺構は安山岩が多く，水磨によって角の丸みを帯びた 10cm 内外の大きさの礫で構成され，受熱により赤化したものも少なくない。小さなものは割れ口のシャープなものが多く，使用時の破損と考えたほうがよいだろう。また，遺構だけでなく縄文時代早期の遺物包含層中からも火を受けた安山岩礫が出土している。

集石遺構を調理施設として推定するならば，一度の使用だけで礫を廃棄するものではないであろうから，河原から，より耐久性と保温性にすぐれた安山岩礫を選別し，集落に持ち帰った可能性がある。そして廃棄された後に何らかの理由で散逸してしまったものであろう。南九州地方の縄文時代早期前半においては，住居跡と集石遺構，そして連結土壙の３点が特徴となるが[4]，桜ヶ丘団地内においては，連結土壙は未確認である。

遺物量は比較的少ない。南接する I-7･8 区(臨床研究棟増築地)[5]においても，遺物量は少なく，遺構は検出されていない。本調査区よりも北側の I･J-10 区(受水槽設置地点)[6]においては，遺物量も比較的豊富で，住居跡が１基だけ検出されている。これらのことからは，当時の居住域の中心部は，桜ヶ丘団地内の北側に位置すると考えられる。型式学的な新旧関係から考えれば，同地区はやや古手の土器群のようであり，今回の典型的な前平式[7]の要素ではない。したがって，I･J-10 区はやや古い段階の居住域を示している可能性がある。

土器は，いわゆる「前平式土器」であり，現在，縄文時代早期の前葉に位置づけられている。円筒形，角筒形の両者が確認されている。角筒形の量も少なくない。遺物の型式学的新旧関係から類推すれば，桜ヶ丘団地地区内の北側の I･J-10 区→今回の調査区である I-7･8 区付近→東側の E-8･9 区(MRI-CT 装置棟建設地)[8]というように，南東側に向かって居住域を移動している可能性がある。また，亀ヶ原遺跡の早期後半の塞ノ神式土器採集地点[9](現 A･B-4～7 区)もその可能性を支持するものと考える。

石器は，磨石しか見受けられなかったが，これは破損後，焼石へと転用されたものと考えられる。

弥生時代(前期･中期前半･終末期)

ここにおける弥生土器様式名称とその時期については，中園聡氏の編年案に従う[10]。

今回の調査では，弥生時代前期～終末期の住居跡４基，性格不明土壙が１基，ピット群が数基確認された。また，住居内や包含層からは，土器・石器類が出土している。

弥生前期の２号住居(SK5)は，溝１(SD2)に切られており，中期前半古段階の３号住居(SK6)と弥生時代中期前半新段階の 1b 号住居(SK4b)は弥生時代終末期の 1a 号住居(SK4a)に切られている。土壙３(SK3)は遺物から，中期前半新段階に属する。切りあい関係から推定される新旧関係は，Tab.29 のようになり，各遺構の埋土中の遺物から導き出される時期差と遺構の空間的な配置も重複することなく，問題はない。南側に隣接する I-7･8 区における調査でも，住居跡が３棟と土壙，数基の溝状遺構が検出されており，住居や土壙は弥生時代前期～中期前半段階に位置づけられる。溝１(SD2)は，その５号溝に対応する可能性が高い(Fig.39)。この調査では，弥生時代終末期の中津野式が溝埋土中から出土しており，終末期に位置づけられる。今回の調査では，弥生前期～中期前半の遺物が出土したが，２号住居を切って造営されていることを考慮すれば，溝１の所属年代も弥生終末期と考えたほうが妥当であろう。

さて，今回，包含層中より出土した土器の中で，最も量の多いのは中期前半新段階の入来Ⅱ式である。しかし，この時期に所属する遺構はほとんど分かっておらず，今回は土壙３が唯一のものである。また，1a 号住居の埋土中にも比較的多くの入来Ⅱ式が認められた。あるいは，1a 号住居は，入来Ⅱ式の時期の住居も重複している可能性があるが，住居形態などからは３基も切り合っていたかは判然としない。唯一同時期である土壙３が北側に位置することや，旧地形の傾斜が北から南方向であることを考え合わせると，入来Ⅱ式段階の生活域は北側にあり，そこの遺物が本調査区へと流れ込んでいたと

Tab.29　３層上面検出遺構の切り合いと遺物による新旧関係

弥生前期	弥生中期前半古段階	弥生中期前半新段階	弥生終末期
1b号住居(SK4b)			→ 1a号住居(SK4a)
2号住居(SK5)			→ 溝1(SD2)
	3号住居(SK6)		→ 1a号住居(SK4a)
		土壙3(SK3)？	

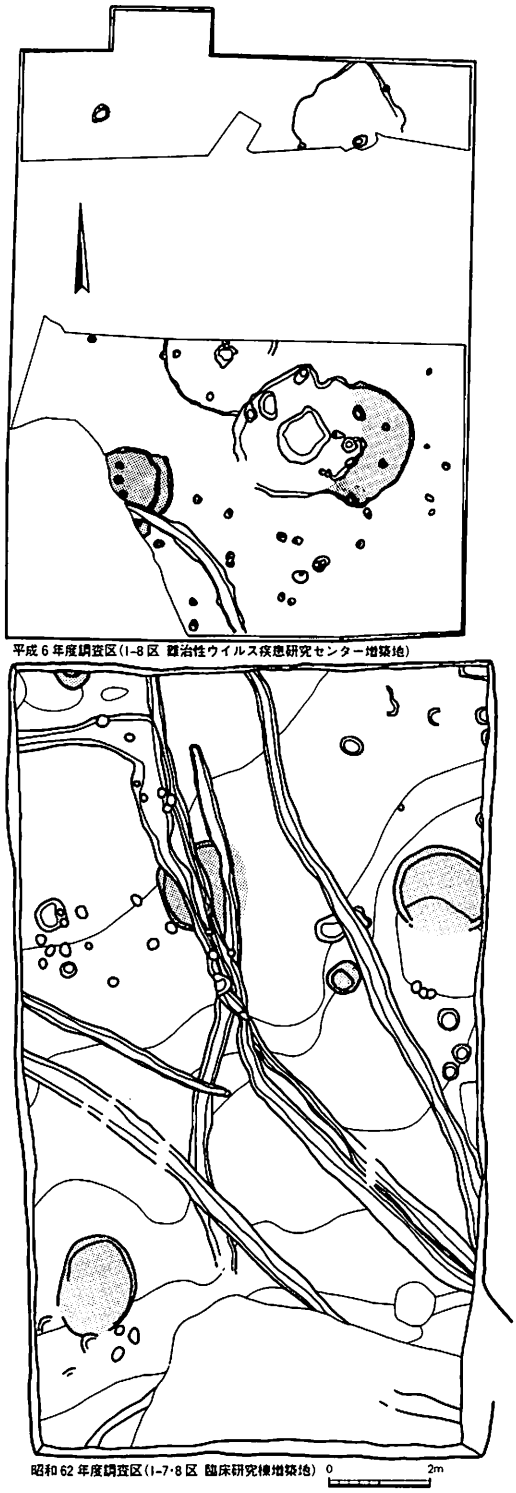


Fig.39　H・I-8 区弥生前期遺構配置図
網掛け部分が、弥生時代前期の遺構

考えたほうがいいのかもしれない。しかし，北側の状況は桜ヶ丘団地造成当時の削平が著しく，現状では確認することが不可能な状態にある。

今回の調査によって，当時の生活域の広がりがさらに北側の範囲にまで及ぶことが分かった。しかしながら，旧地形が北から南へと傾斜しており，北側は桜ヶ丘団地造成時の削平によって，遺構がかなり破壊されており，同地域における当該期の居住域の北限は不明確である。少なくとも北側の I・J-10 区にはその範囲は及んでいない。これらのことからは，桜ヶ丘団地内における当該期の居住域の中心部は，本調査区周辺にあるものと考えられる。同団地内における当該期の居住範囲の東西方向の範囲は不明確だが，南東側の E-8 ・ 9 区においては，当該期の溝状遺構が確認されている。今回確認された住居プランは円形プランのみである。中摩浩太郎氏分類によれば，円形プランで柱穴が中央部に数基あるものは「Ⅱ A 類」住居であり，弥生時代前期から古墳時代前期まで存続しているとされる[11]。桜ヶ丘団地地区においても，円形プランが終末期段階まで継続しており，中摩氏の見解と大差ない。おそらく中南部九州地域においては，縄文時代の系譜を引く円形竪穴住居[12]が弥生時代まで存続するのであろう。本調査区付近は，シラス台地の緩やかな南斜面に位置し，その等高線に沿い，適度な間隔を保って配置しているように見える(Fig.39)。これが同時期の構築かという問題も含めて，立地については今後の課題としたい。

南部九州でも極めて出土の多い弥生時代中期後半段階の遺物・遺構や，出土の少ない弥生後期の遺構や遺物が確認されなかったことは特筆される。つまりこの時期，この桜ヶ丘団地地域内には居住域・行動領域がない可能性がある。これまでの表採資料や発掘資料にも同期の資料は見当たらない。弥生時代中期後半～後期に平野部へと選地する傾向にあるのならば，その背景には，水稲普及の可能性もあろう。無論，この程度の調査面積では当時の亀ヶ岡台地上の全ての集団が平野部へと移動していたかについては言及できない。やがて，弥生終末期に集団が再びこの台地に居住域を選地する。桜ヶ丘団地地区は，南部九州地域における弥生時代の居住域の選定を考えるうえでも重要な遺跡である。

2 号住居跡(SK5)における，住居廃絶における祭祀行為と考えられる状況は，九州地域においても非常に稀である[13]。当然，南部九州地域では初の報告例である。このように表裏，口底を逆にする状況というのは，何らかの思想的背景を考えざるを得ない。

次に，土器様式に関して若干の編年上の補足をしたい。現在のところ，南部九州では弥生時代前期に「高橋 I・Ⅱ式」[14]が設定されているが，その様式内容には問題があることがこれまでにも指摘されている[15・16・17]。今回，本報告書では，刻目突帯文系土器が縄文時代末から主体的に分布することを勘案し，時代幅を持たせ，弥生時代前期とした。土器の様式として，2 号住居跡(SK5)の出土遺物を一括資料と捉えれば，刻目突帯文を有する

甕，壷，厚手の鉢，というセットが見出される。高坏などの器種は確認できなかった。特に厚手の鉢(54)は，全形が窺えないものの，H·I-8 区においても出土しており，重要な位置づけになるのではないかと考えられる。

今回，底部に木葉圧痕のあるものが 2 点認められた。2 点ともに 2 号住居(SK5)埋土中よりの出土である。(50)はアカメガシワであり，(54)はサルトリイバラの木葉と考えられるものを用いている。どちらも落葉広葉樹に属することから，土器製作の時期は，冬を除くことができそうである。

中期前半古段階においては，「入来Ⅰ式」が設定されているが，口縁部形態のみでは，前期の土器と区別しがたいものがある。刻目突帯文を持つ平底の甕は前期段階に，中実脚台をもつ刻目突帯文土器は，入来Ⅰ式というような理解が一般的である。型式学的には，口径に対して突帯が小さなもの→大きく張り出すもの，というような方向性があり，突帯文上の刻目は，幅が広く深いもの→幅が狭く浅いもの→無刻目というような傾向にある。しかしながら，遺跡の出土状況においては，これらはほとんどが同層位内において出土し，層位学的な時期差を求める方法は難しい。3 号住居跡(SK6)出土遺物を供伴性が高いと捉えれば，甕，2 形態の壷(63·64)，厚手の鉢(62)がセットになる可能性がある。

中期前半新段階においては，「入来Ⅱ式」が認められるが，これは，基本的に口唇部を平坦，あるいは凹面を形成するくらいに押さえたものを一括した。今回は，この口縁部形態のものに，刻みを有するものは少なかったが，鹿児島市内の北麓遺跡[18]などには多い。今回は，遺構内出土遺物として共時性の高い様式のセット関係は捉えることはできなかったが，甕，小型甕(85·112)，壷(117·118)，壷(120)，壷(121·122)，鉢(113)などがその状況に近いと考えられる。壷(117·118)などは，弥生時代後期後半段階の「山ノ口Ⅰ・Ⅱ式」などにも確認されるが，本調査区においては，山ノ口Ⅰ・Ⅱ式の甕は 1 点も得られていない。やはり遡っても入来Ⅱ式のセットとみなすほうが妥当であろう。また，櫛描波状文の壷片も全形は窺うことは出来ないが，胴部櫛描波状文出現が中期前半新段階であることからも[19]，この時期に所属するものであろう。

弥生時代終末期の「中津野式」は，甕，鉢，高坏が得られたが，壷に関しては 1 点も得られていない。調査区全体の出土量も少ないので，その反映と捉えておく。

本遺跡は，未だ漠然とした弥生時代前期～中期前半古段階の土器編年研究や弥生社会の理解に資する重要な遺跡である。

サツマ火山テフラ層下位の 6 層，いわゆる「チョコ層」の調査も行ったが，今回，後期旧石器時代～縄文時代草創期に該当する遺物や遺構を確認することは出来なかった。

註

1)坪根伸也・松永幸男 1986「郡元団地 I·J-9·10 区発掘調査のまとめ」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2)坪根伸也 1986「成川式土器小考-甕形土器突帯における一試論-」『鹿大史学』第 34 号　鹿児島大学法文学部

3)八木澤一郎 1994「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No.8　南九州縄文研究会

4)前迫亮一 1994「南九州縄文時代早期前半の居住活動に関する一考察」『大河』第 5 号　大河同人

5)坪根伸也・松永幸男 1988「第 3 章　鹿児島大学宇宿団地 I-8 区(医学部臨床研究棟増築地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅲ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

6)大西智和·新里貴之 2000「付編　桜ヶ丘団地 I·J-10 区(受水槽設置地点)における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室』14　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

7)新東晃一 1989「早期九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』1　(小林達雄編)　小学館

8)砂田光紀·松永幸男·中村直子 1990「鹿児島大学宇宿団地 E-8·9 区(MRI-CT 装置棟建設地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅴ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

9)本田道輝 1986「脇田亀ヶ原遺跡について-鹿児島大学宇宿キャンパス及びその周辺地区に於ける採集遺物の紹介-」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

10)中園聡 1997「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第 9 号　人類史研究会

11)中摩浩太郎 1998「南部九州弥生時代竪穴住居の分類」『人類史研究』第 10 号　人類史研究会

12)前迫亮一 1991「縄文時代の竪穴住居-鹿児島県本土発見の資料集成-」『南九州縄文通信』No.5　南九州縄文研究会

13)馬田弘稔 1982「弥生時代の土器祭祀について-祭祀行為の基礎概念化-」『古文化論集』上巻　森貞次郎博士古稀記念論文集刊行会

14)河口貞徳 1963「鹿児島県高橋貝塚発掘概報」『九州考古学』18　九州考古学会

1965「鹿児島県高橋貝塚」『考古学集刊』第 3 巻第 2 号　東京考古学会

15)東和幸 1993「鹿児島県弥生時代前期土器研究の現状」『鹿児島考古』第 27 号　鹿児島県考古学会

16)藤尾慎一郎 1993「南九州の突帯文土器」『鹿児島考古』第 27 号　鹿児島県考古学会

17)下園昌三·倉元良文·池畑耕一 1996『六ツ坪遺跡』日吉町教育委員会

18)出口浩·吉永正史 1996『北麓遺跡』鹿児島市教育委員会

19)坪根伸也 1991「南九州における櫛描文の系譜」『交流の考古学』肥後考古第 8 号　肥後考古学会

SUMMARY

This is the report of the archaeological excavations and surveys in Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology in the fiscal year 2000 from April 2000 to March 2001. This volume also includes the report of the excavation carried in 1994 in another campus, Sakuragaoka, formerly called as Usuki

Location and Archaeological Background

Kagoshima University is located in the central part of Kagoshima City, Kagoshima Prefecture. Kagoshima has a very famous active volcano, Mt.Sakurajima in Kagoshima Bay east of the city. It fiercely erupts and blasts up a huge amount of ash many times a year. Kagoshima City consists of two geomorphologic parts. The western one is hills covered more than one hundred meters by the volcanic ash, and the eastern one is alluvial plains. Korimoto Campus is in the latter.

The sites in Korimoto Campus are registered as ancient villages in late Kofun period in the seventh and the eighth centuries. In Sakuragaoka Campus also exist the sites in early Jomon Period dated approximately 9500 BC, and those of Yayoi period from 300 BC to AD 250.

Excavation in Korimoto Campus

The center made two rescue excavations in 1999 and 2000. One is the excavation of the site of General Research and Education Building carried from December 1999 to August 2000, and the other is the excavation of the site for laying wires and pipes under the ground near the building from August to September 2000. The excavation revealed the field that enabled the documentation of planting furrows after the twelfth century, and a heap of many sherds that belonged to the seventh century and after besides the village in late Kofun period. The excavation of this village uncovered 101 houses overlapped, four pits, and a ditch. There also found a lot of sherds and various stone implements that included arrowheads, axes, whetstones, reaping knives and spindle whirls. A comma-shaped bead, some glass beads and a socketted iron axe were also collected.

Surveys in Korimoto and Sakuragaoka Campuses

Three surveys were conducted by the center in the two campuses. The test

excavation in Sakuragaoka Campus revealed an undisturbed layer that contained the cultural remains of Yayoi period. This area is so important to require the future wide excavation for the reconstruction of human activities in Yayoi period in this region.

Appendix: Excavation of Area I-8 in Sakuragaoka Campus

The center carried the excavation of the site of Chronic Viral Diseases Center Building of Faculty of Medicine from May to July 1994. The excavation revealed cultural remains and artifacts in the second to the fourth layers there. On the surface of the third layer four houses, three of which belonged to early Yayoi period, were excavated besides many sherds, stone arrowheads and a spindle whirl. Another house and some artifacts including sherds and a broken stone axe were also found belonging to late Yayoi period. No remains and artifacts were found here, which belonged to middle Yayoi period. An oven put together by river pebbles and clay was found from the lower part of the fourth to the fifth layers. The surface of the oven were changed red heated by high temperature. This oven belonged to early Jomon period. Only Maebira type pottery of early Jomon was collected in the fourth layer.

内容提要

本報告書是古文物調査室，於 2000 年 4 月至 2001 年 3 月的期間内，在鹿児島大学校内遺跡的緊急挖掘調査，会合調査工作中的匯総報告材料。1994 年度桜ヶ丘団地 I - 8 区的緊急挖掘調査報告材料作為附録，也一並収録，登載。

大学校内遺跡的地理位置和周囲環境

鹿児島大学校内遺跡，大致位於鹿児島県鹿児島市的中央地帯。鹿児島市的西半部是西拉斯高地，東半部是由西拉斯的沖積作用所形成的沖積平原。存有遺跡的郡元団地就位於沖積平原，桜ヶ丘団地就位於西拉斯高地上。到現在為止，郡元団地遺跡中，分布着縄文時代，弥生時代，古代，中世，近世的遺跡。特別是這里也是古墳時代終末期住居跡集中出現的地区。爾另一方面，桜ヶ丘校園内，明確地存在着従旧石器時代後期到縄文時代草創期，縄文時代，弥生時代的遺跡。尤其是縄文時代早期的住居跡，弥生前期至中期前半的住居跡正被人們所注目。

郡元団地的挖掘調査

在郡元団地内，進行了 2 次挖掘調査。即総合研究楼建築用地和配合地下管道建設的挖掘調査。前者是在 1999 年 12 月 20 日-2000 年 8 月 11 日，後者是在 2000 年 8 月 21 日-9 月 26 日的期間実施的。挖掘出了中近世的農田跡，以及古代以後直径達 30 平方米的遺物堆積遺跡。最引人注目的是古墳時代後期的住居群落遺跡。可以明確地肯定，在大約 1800 平方米的範囲内，稠密地分布着 101 個住居跡。対於遺物来説，出土了大量的陶器，另外也出土了袋状鉄斧，勾玉，玻璃球，打製磨製石鏃，石斧，砥石，石刀等遺物。対於探討和了解当時社会人們的生活状況，獲得了宝貴的資料。

郡元団地，桜ヶ丘団地的会合調査

即在郡元団地 B・C - 5·6 区配合主要基礎設施工程前的会合調査，桜ヶ丘校園内 I·J - 8 区配合主要基礎設施工程前的会合調査，H·I·K - 8·9 区為配合新建医学部保健楼進行移樹工程時的会合調査。特別是在移樹後的 K·8 区的運動場東南角，属於弥生時代的包含土層較好地保存了下来。可以認定為弥生時代的陶器片也有少量的出土。這也許是因為原来這里的地勢比周囲低，爾没有被後人平整過的縁故吧。対於運動場，也是今後在古文物挖掘調査時，需要引起高度重視的地方。

附録:桜ヶ丘団地 I - 8 区（疑難性病毒疾病研究中心建築用地）的挖掘調査報告

1994 年 5 月 10 日至 7 月 2 日、古文物調査室配合医学部疑難性病毒疾病研究中心建築工程、対此進行了緊急挖掘調査。確定了 6 層基本土層。在第 2 層至第 4 層中、有遺構和遺物出土。在第 3 層上面、有 4 処平面呈円形的竪洞住居跡被確定。其中有 3 処是属於弥生時代前期的。従住居跡内出土了陶器、打製石斧、打製石鏃、紡錘車。1 処是属於弥生時代終末期的。由於在此没有発現属於弥生時代中期後半－後期的遺構和遺物、可以断定在這個時期、人們的行動範囲、生存環境有過非常大的変化。

並且、在第 4 層向下挖掘過程中、確定出了堆石遺跡。這個遺跡比較浅、向下延伸和第 5 層交錯在一起。堆石遺跡中的岩石幾乎都是経流水沖刷過的安山岩、因此大概可以認定這些岩石都是従河床中挑選、集中到這里来的。由於在此只出土了属於縄文時代早期前葉的前平至式陶器、所以可以認定堆石遺跡也是這個時期的遺跡。

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅうろく
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報16
編著者名	新里貴之（編）
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒890-8580　鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL　099-285-7270　　FAX　099-285-7271
発行年月日	西暦2002年3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（m²）	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 さくらがおかだんち 桜ヶ丘団地　I-8区	かごしましさくらがおか 鹿児島市桜ヶ丘 はっちょうめ 八丁目35番1号	4620		30° 32′ 21″	130° 31′ 70″	1994510～ 1994728	500	建物増築

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡 桜ヶ丘団地　I-8区	縄文 弥生　中近世	集石遺構 住居跡 溝状遺構 土壙	土器 石器 陶磁器	弥生時代前期の住居跡

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報16

2002年3月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21番24号
TEL　099-285-7270
印刷　斯文堂株式会社
鹿児島市南栄3番1号
TEL　099-268-8211

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.16

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research In fiscal year 2000 · · · · · · · · · · · · · · 1

2 Reports of rescue surveys · 6

Appendix

Report of excavation at Area I-8 in Sakuragaoka Campus · · · · · · · · · · 17

Published by

Kagoshima University Archaeological Research Center

2002